鮮緑の風、県大力
30th ANNIVERSARY
Okayama Prefectural University

岡山県立大学　社会貢献年報 2022

社会貢献年報 2022 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長　沖　陽子

新型コロナウイルスの出現から 3 年半近く経ち、2023 年 5 月に WHO がようやく新型コロナの緊急事態宣言を終了すると発表しました。脅威は消えないと警告されていますが、新型コロナは感染症法上、毎年流行するインフルエンザと同じ扱いになり、対策は個人に委ねられることになりました。我々の生活も新たな展開を迎えています。

本誌は、まだ感染症対策に追われていたコロナ禍における教育研究環境にて、本学の社会貢献の拠点である「地域創造戦略センター」を中心に展開された 2022（令和 4）年度の活動を掲載しています。2021 年度に関係者で編集方針を協議し、ステークホルダーの皆様方に十分にご理解頂けるよう内容を一新しましたが、2022 年度はさらに内容も充実させて、読み易く改善致しました。

本学は 2023 年 5 月に開学 30 周年を迎え而立の年となりました。公立大学の大きなミッションである社会貢献は益々深化しています。2021 年度より始動した「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R)」:「吉備の杜」創造戦略プロジェクトは新たな副専攻「吉備の杜」のコアとなり、学部生から大学院生まで一貫した社会連携教育が受講できる仕組みが充実し、学内外から高い評価を得ています。このたび、学部生 11 名に 2022 年度が第一期生となる、「地域創生クリエーター」の称号を授与することができました。一方、学外履修人数も毎年増加しており、リカレント教育としても貢献し、社会連携教育は着実に進んでいます。本誌ではその詳細を記しています。

さらに、学生同士で主体的に広めるボランティア活動や地(知)の拠点としての地域や行政との協働活動も活発になっており、新聞に掲載されることが多くなりました。また、地域の企業、公的機関及び本学で構成する岡山県立大学協力会には、2022 年度も産学連携、特に産業人材教育の推進に大きく貢献して頂き感謝致しております。副専攻「吉備の杜」の展開で、さらなる強い連携が芽生えており、今後の発展が期待されます。

いよいよコロナの収束に向けて社会構造は大きく変化します。地域・行政・企業等の皆様方との協働で、変化する社会に適応できる人材育成が、ますます大学に強く望まれます。本誌をご高覧頂き、今後の社会貢献活動について、新たな視座よりご指導を賜れば有難く存じます。引き続き皆様方には力強いご支援とご協力をお願い致します。

2023 年 6 月

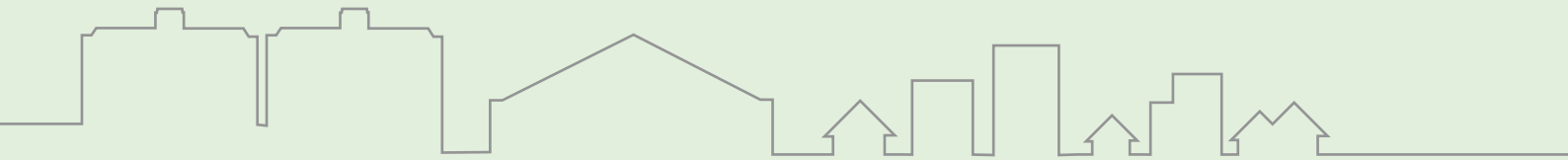
目　　次

社会貢献年報2022の発刊にあたって

第Ⅰ部　特色のある社会連携活動
Ⅰ　企業×地域×大学の合体教育による「雑草型人材育成」プログラムの開講（吉備の杜）‥　2
Ⅱ　低学年を対象とした「地域志向教育」プログラム（岡山創生学課程）の開講‥‥‥‥‥‥　6
Ⅲ　岡山県立大学の「シーズ発信」‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　8
Ⅳ　学部の専門性を活かした「地域連携活動」‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１０
Ⅴ　大学を核とした産学官民協働による「子育て支援」活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１２
Ⅵ　学生同士で広めるボランティア活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１４
Ⅶ　県内企業に向けた人材育成のための連携活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１６
第Ⅱ部　県立大学の各組織での活動
１　「吉備の杜」創造戦略プロジェクト
　１．１　大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の趣旨と概要 ‥‥‥‥‥‥‥‥　１８
　１．２　大学院クロスセクション ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１９
　１．３　食と栄養と健康を温め羅ねる杜 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２０
　１．４　地域のICT技術を温め羅ねる杜 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２１
　１．５　森と建築と匠を温め羅ねる杜 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２３
　１．６　実施体制 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２４
　１．７　メンバーシップ等の開催 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２６
　１．８　攻めの広報 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２７
２　地（知）の拠点としての活動
　２．１　地域との協働 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２８
　　２．１－１　公開講座 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　２８
　　２．１－２　吉備創生カレッジ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３０
　　２．１－３　高大連携活動 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３１
　　２．１－４　附属図書館の活動 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３４
　　２．１－５　異文化理解の活動 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３６
　　２．１－６　健康・スポーツ推進の活動 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３７
　２．２　行政との協働 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３９
　　２．２－１　岡山県への貢献 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３９
　　２．２－２　市町村への貢献 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　３９
　　２．２－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　４１
　　２．２－４　共同研究・受託研究等（行政関係）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　４１
　２．３　企業等との協働 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　４２

２．４　未来人材の育成・輩出 ･･･ ４３
２．４－１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科 ･････････････････････････ ４３
２．４－２　情報工学部・大学院情報系工学研究科 ･････････････････････････ ４８
２．４－３　デザイン学部・大学院デザイン学研究科 ･････････････････････････ ５２
２．５　その他の社会貢献 ･･･ ５４
２．５－１　各種委員等への派遣（行政関係以外）･････････････････････････ ５４
２．５－２　職員表彰 ･･･ ５５
３　地域創造戦略センターでの活動･･･ ５８
３．１　地域創造戦略センター ･･･ ５８
３．１－１　体制 ･･･ ５８
３．１－２　重点領域研究 ･･･ ５９
３．１－３　OPU フォーラム 2022 ･････････････････････････････････ ６１
３．１－４　情報発信 ･･･ ６７
３．２　産学官連携部門 ･･･ ６９
３．２－１　企業等と連携した研究活動 ･････････････････････････････ ６９
３．２－２　アクティブ・ラボ ･････････････････････････････････････ ７１
３．２－３　学外組織との連携・協働活動 ･････････････････････････････ ７３
３．２－４　岡山県立大学協力会 ･････････････････････････････････････ ７６
３．３　地域連携部門 ･･･ ８１
３．３－１　地域連携プロジェクト ･････････････････････････････････ ８１
３．３－２　各種連携活動 ･･･ ８４
３．３－３　各種研究会活動 ･･･ ８６
３．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ ･････････････････････････････ ９１
３．４　社会連携教育推進部門 ･････････････････････････････････････ ９３
３．４－１　副専攻「岡山創生学課程」の推進 ･････････････････････････ ９３
３．４－２　副専攻「岡山創生学課程」のカリキュラム改革 ･････････････ ９３
３．４－３　地域創生推進士 ･･･ ９４
３．５　ボランティア部門 ･･･ ９５
３．５－１　ボランティア活動支援体制 ･････････････････････････････ ９５
３．５－２　学生のボランティア組織 ･････････････････････････････････ ９５
３．５－３　活動状況 ･･･ ９５
４　外部資金獲得実績と今後の課題･････････････････････････････････････ ９６
４．１　令和４年度の実績 ･･･ ９６
４．２　科学研究費 ･･･ ９８
４．３　今後の課題 ･･･ ９８
巻末資料･･･ ９９

第Ⅰ部　特色ある社会連携活動



Ⅰ　企業×地域×大学の合体教育による「雑草型人材育成」プログラムの開講（吉備の杜）

Ⅰ－ⅰ　副専攻「吉備の杜」がいよいよ完成！

副専攻制度

主専攻の専門教育以外の分野の知識や考え方を学ぶことで、専門教育を補完するだけでなく、大学での修学意識がより高められる制度です。本学では、学部・学科・研究科、そして学内外の枠を超えた、地域・企業と協働した学びの中で、社会や環境の様々な変化に対応できる力を身に付けます。

KIBI no MORI 吉備の杜

PBL 演習の創造戦略プロジェクト〈森と木〉 で大学院生が企業と協働して創作した「吉備の杜」のロゴマークとロゴタイプ

吉備の国、「おかやま」を舞台に主体的に学びを深める

本学の副専攻は、学部 1～3 年次生に「①岡山創生学課程」、3～4 年次生に「②吉備の杜クリエイター課程」、大学院生に「③吉備の杜プロデューサー課程」を設け、3 つの課程を副専攻「吉備の杜」として位置づけ、学部から大学院まで一貫した社会連携教育が学べる地方創生人材教育プログラムです。目指す人材は、持続可能な地域の未来を展望し、ヒューマンスキルと即戦力を身に付けた雑草型リーダーで、雑草型人材とは雑草魂のみならず、雑草のごとく変化する環境への柔軟さと適応力を持ち合わせた人材です。このプログラムを受講することにより、高い専門性と幅広い人間力が備わる人材が輩出され、若者の地元定着と地域の活性化に繋がります。

①地域でのボランティア活動

①企業でのインターンシップ

②自然に触れる演習の様子

③企業担当者との事前打合せ

③現場の話もしっかり学ぶ

③演習先企業でのプレゼン

吉備の杜プロデューサー課程［博士前期・修士課程］

研究科を問わず受講できる研究科横断型科目「大学院クロスセクション（令和5年度から研究科クロスセクションに改称）」と、企業に赴き主体的に課題解決に取り組む「創造戦略プロジェクト」を開講し、企業の現場で即戦力となるスキルを養成します。要件を満たした受講生には「創造戦略プロデューサー」の称号を授与します。

称号　創造戦略プロデューサー

食と栄養と健康を温め羅ねる杜

創造戦略プロジェクト＜食＞

地域のICT技術を温め羅ねる杜

創造戦略プロジェクト＜ICT＞

森と建築と匠を温め羅ねる杜

創造戦略プロジェクト＜森と木＞

― 大学院クロスセクション科目 ―

- ○時事と歴史を読む
- ○知の理論
- ○地域資源学
- ○地域社会とビジネス
- ○データサイエンス
- ○アカデミック・プレゼンテーション演習

吉備の杜クリエイター課程［3～4年次］

各学部の特色を生かした講義・演習科目と、企業の現場で社員等と協働して学修する「未来型プロジェクト」を開講し、おかやまの未来を展望できる人材を育成します。要件を満たした受講生には「地域創生クリエイター」の称号を授与します。

称号　地域創生クリエイター

未来型プロジェクト＜食＞

- フードビジネス学
- チームガバナビリティ演習
- 地域保健福祉演習

未来型プロジェクト＜ICT＞

- 組込みシステム
- 技術者と社会
- セキュリティ総論
- 知的制御システム

未来型プロジェクト＜森と木＞

- 森林生態学・地盤工学
- 森林・木材学演習
- 木構造学・木構造デザイン
- 環境デザイン演習

岡山創生学課程［1～3年次］

学生が地域を知り、地域の課題を理解し、地域の人と共に解決を図る授業を実践します。社会連携につながる基礎知識や岡山県の施策、地域課題の発見と解決への過程をアクティブラーニングを通して学び、「職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をする上で必要な基礎的な能力」とされるジェネリックスキルを培います。要件を満たした受講生には「地域創生推進士」の称号を授与します。

称号　地域創生推進士

知る・見る・体験する

- 社会連携概論
- 地域創生演習
- 地域資源論
- 社会を生きる力を学ぶ

協働とコミュニケーション

- 地域創生実践論
- 地域インターンシップ

課題発見と解決力の養成

- チームガバナビリティ演習
- 地域保健福祉演習
- エンジニアリング演習
- 地域デザイン演習
- 地方自治論Q

第Ⅱ部の関連ページ［１．３］～［１．５］→

Ⅰ－ⅱ　岡山県内に広がる副専攻「吉備の杜」の学び！

概要

令和 2 年度に文部科学省に採択された「吉備の杜」創造戦略プロジェクトで開設した吉備の杜クリエイター課程と吉備の杜プロデューサー課程では、「県内産業発展に寄与できる人材」を、出口となる企業と一体で育成するプログラムとして PBL 演習科目を開講しています。予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した「雑草型リーダー」を育成することにより、「高い専門性と幅広い人間力に立脚した地方創生を担う逞しい人材」を輩出することを目的とします。企業が直面する「現実の課題」を提案してもらい、若手社員と学生・院生でチームを構成し、解決策を提案する協働実践型 PBL（Project Based Learning）演習を実施しています。

学部４年生が対象となる未来型プロジェクト

演習協働企業・団体および課題テーマは下記の表のとおりです。

NO.	企業・団体名	課題テーマ
1	ありがとう㈱	栄養あるお肉弁当の開発と販売
2	NPO 法人フードバンクおかやま	フードバンクに寄贈される防災備蓄品の徹底活用
3	岡山済生会総合病院	治療に役立つレシピ動画の作成
4	キミセ醤油㈱	企業イメージを踏まえた季節商品の開発
5	㈱クラレ岡山事業所	AI を用いた画像処理精度向上
6	㈱システムズナカシマ	先端技術を用いた商品の企画・開発
7	総社市役所	総社市の健康課題の解決や食育の推進のための栄養委員活動の支援
8	タツモ㈱	シングルボードコンピューターによる画像処理ソフトウェアの開発
9	㈱藤原組	町に食料の保管庫（まちくら）を作る

事例１：栄養あるお肉弁当の開発と販売〈食〉

栄養学科 4 年生 2 名が、ありがとう株式会社（玉野市）において、「栄養あるお肉弁当の開発と販売」をテーマに、”異年齢”を考慮した商品開発を行いました。はじめに、放課後児童クラブへのお弁当の納品、栄養勉強会を実施しました。さらに、メニューを考案した「鶏天サンドウィッチ」を「道の駅みやま公園」と、宇野駅構内の「玉野観光案内所」で販売しました。道の駅では学生たちが店頭に立って販売しました。

事例２：町に食料の保管庫（まちくら）を作る〈森と木〉

建築学科 4 年生 3 名が、株式会社藤原組（赤磐市）と協働して、「町に食料の保管庫（まちくら）を作る」をテーマに、フードバンクで活用する食料貯蔵庫に対して廃材を利活用したデザイン設計を行いました。

大学院生が対象となる創造戦略プロジェクト

演習協働企業・団体および課題テーマは下記の表のとおりです。

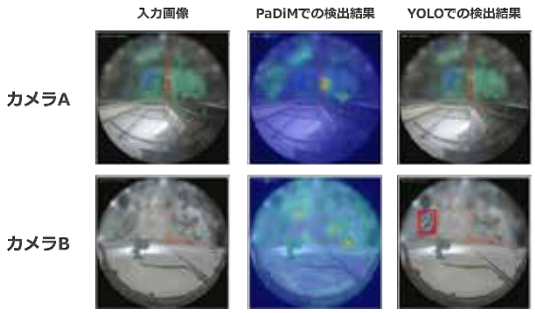
NO.	企業・団体名	課題テーマ
1	㈱ｉプランニング KOHWA	企業・プロジェクト等のブランディング戦略
2	井原精機㈱	温湿度センサを使用した新たな福祉・介護機器の企画・開発
3	カバヤ食品㈱	グミや清涼菓子製品の開発(製品改良)及びブランド構築の取り組み
4	関西プラスチック工業㈱	CAD データ　ソースコードの一括変換ソフトの開発
5	勧進設計	歴史的建築物の記録及び「活用計画」の提案
6	キミセ醤油㈱	企業イメージを踏まえた季節商品の開発と紅麹の冷凍保存方法を確立する
7	㈱システムズナカシマ	先端技術を用いた商品の企画・開発
8	㈱セントラルフーズ	セントラルフーズが SDGs への貢献の仕方
9	ダイヤ工業㈱	おもてなし空間作り
10	㈱タグチ工業	Web デザイン／社内で使用する Web アプリケーションの作成
11	立花容器㈱	MARU カホンスタンドの開発
12	タツモ㈱	シングルボードコンピューターによる画像処理ソフトウェアの開発
13	㈱ナテック	多関節ロボットを用いた、生産無人化システムの構築
14	㈱林原	食品メーカーへのソリューション提案
15	㈱藤原組	伝統構法・文化財建造物の実測・実測図の作成
16	銘建工業㈱	木質構造事業のリクルート向け資料作成

事例１：Web デザイン／社内で使用する Web アプリケーションの作成　〈ICT〉

デザイン学研究科の 1 年生 1 名が、株式会社タグチ工業(岡山市北区)と協働して、「Web デザイン／社内で使用する Web アプリケーションの作成」をテーマに、誰でも製品銘板を作成できる Web アプリケーション「銘板サク作」を開発しました。

事例２：先端技術を用いた商品の企画・開発　〈ICT〉

情報系工学研究科の 1 年生 1 名が、株式会社システムズナカシマ(岡山市北区)と協働して、「先端技術を用いた商品の企画・開発」をテーマに工場内に設置された魚眼カメラ画像に対する人検出技術を検討しました。人検出技術の製品化に向けては、「人候補領域内の物体が人であるかを識別」する人識別部の実装が不可欠であると結論付けました。



事例３：MARU カホンスタンドの開発〈森と木〉

デザイン学研究科の 1 年生 1 名が、立花容器株式会社(倉敷市)と協働して、「MARU カホンスタンドの開発」をテーマに、間伐ヒノキを利用して製造・販売している打楽器「MARU カホン」を演奏時に固定する木製スタンドを開発しました。

第Ⅱ部の関連ページ［１．２］→

Ⅱ 低学年を対象とした「地域志向教育」プログラム（岡山創生学課程）の開講

概要

「岡山創生学課程」は、地域の魅力に触れ、コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し、ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着の形成や共感力を高め、それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ、社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものです。学びは下図に示すとおり、3 段階に積み上げられます。

デジタルパンフレット「『岡山創生学課程』のススメ」より

主に 1 年次では全員が履修する科目により岡山を知る・体験する授業が配置されています。2 年次には PBL（Problem Based Learning）を通して協働作業や問題の発見、分析、課題解決策の提案を体験したり、就業体験を通した学びを深めたりする科目が配置されています。2〜3 年次には各学部の専門科目も配置され、課題発見と解決力を高めるカリキュラムとなっています。岡山創生学課程を修了し、所定の要件を満たした者には「地域創生推進士」の称号が授与されます。

地域創生演習（1 年次、選択科目）

地域で活動する NPO 法人やボランティア団体などと共にボランティア活動を行うことで、主体性を高め、地域の課題を発見する力を養うことを目的に開講しています。令和 4 年度は 123 名の学生がボランティア活動に取り組みました。右の写真は、農業を通じて地域に貢献するもので、収穫した米を袋詰めする作業の様子です。

その他、子どもの遊び場づくりのイベントサポート（写真左上）や、地域の世代間交流イベントの企画から実施（写真右上）、地域の環境学習や健康づくりの講座を行う団体でのイベントサポート（写真左下）など、様々なボランティア活動を行いました。

地域インターンシップ（2 年次、選択科目）

夏季休業期間を活用した長期インターンシップ科目で、自治体や民間企業などでの業務体験を通じて、組織や仕事の流れを理解し、社会人としての必要なスキルや行動規範を身につけることを目的とした科目です。令和 4 年度は 2、3 年次生 20 名（保健福祉学部 15 名、情報工学部 2 名、デザイン学部 3 名）が履修し実習を行いました。

自治体では、広報紙の作成補助をしたほか（写真右上）、通学路の危険箇所調査に同行しました（写真左下）。令和 4 年度から受入先に民間企業を加えたことで、業務体験の幅を広げることができました。写真右下は、トマト栽培の座学の後、収穫体験を行う様子です。

第Ⅱ部の関連ページ［３．４］→

Ⅲ　岡山県立大学の「シーズ発信」

概要

県内・県外の産学官連携関連行事等で本学の研究シーズの紹介を行っています。また、大学ホームページでは教員一人一人のシーズを紹介したシーズ集を掲載しています。（下記 URL または右の QR コードからアクセスしてください。）

https://www.oka-pu.ac.jp/guide/guide_detail/index/6.html#seeds

OPU フォーラム

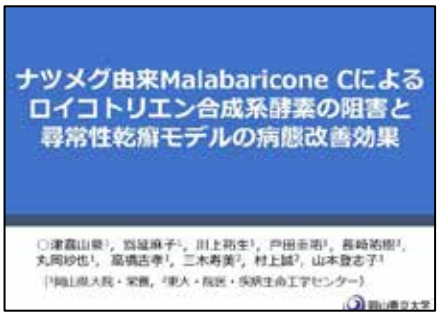
毎年、開学記念日の 5 月 29 日前後に開催している OPU フォーラムでは、本学のほぼ全ての教員がポスター展示にて研究シーズの紹介を行っています。令和 4 年は 3 年ぶりの現地開催と要旨集のオンライン公開によるハイブリッドで開催しました。コロナ禍の下、例年体育館で実施していた研究展示会は共通棟南北の屋外廊下で実施し、来場者数は 541 名に上りました。

岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業・機関の研究開発成果を発表すると共に、その成果を県内に広め、各企業・機関がその成果を積極的に事業化に向け産学連携して推進することにより、岡山県内産業の振興を図るイベントです。令和 4 年は 3 年ぶりに現地開催となりました。本学からは毎年 4 件程度の展示・発表を行っています。

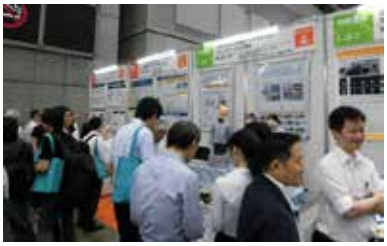
KMS メディカル・アーク・学術集会

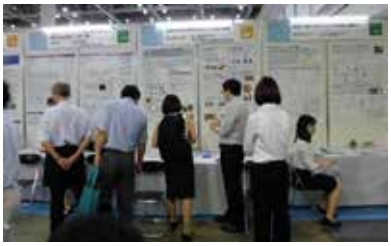
川崎医科大学にて開催される、医学・医療・福祉・健康科学・産学連携をキーワードとする医系展示会です。研究者のシーズと医療現場のニーズ、更に企業等のテクノロジーが連携し、産学官連携活動を行っています。本学からは、保健福祉学部、情報工学部を中心に毎回 3～4 件のシーズ紹介・発表を行っています。



イノベーションジャパン

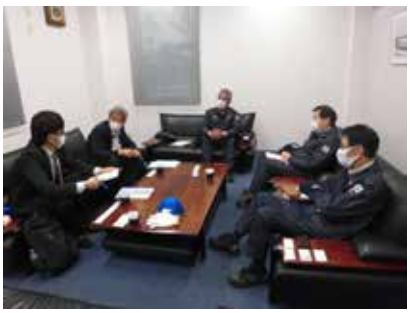
全国の大学等の技術シーズを一堂に集め、企業へ紹介し産学連携の推進、技術移転のきっかけとして産業活動の活性化を目指す産学連携マッチングイベントです。本学からは毎年 2～3 件の展示を行っています。（会場写真は 2019 年度の様子）





アクティブ・ラボ

教員やコーディネータが企業等の担当者と訪問・来学・オンライン等で面談し、情報交換、技術相談、シーズ紹介を行う活動です。毎年 70 件程度を実施しており、アクティブ・ラボを行ったテーマのうち約 20％が共同研究につながっています。



第Ⅱ部の関連ページ［３．２］→

Ⅳ 学部の専門性を活かした「地域連携活動」

概要

本学の基本方針の１つである「戦略的な地域貢献の取組の推進」を実現するために、地域連携活動の相談や小さな地域連携活動の掘り起こしと支援等、各種連携活動を行っています。

総社市の子育て支援施設との連携

『人とのつながりをとりもどす』をコンセプトに、社会福祉法人雪舟福祉会による子育て支援施設「そうじゃ子育ての駅ほのぼの」がJR総社駅前に誕生しました。保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の教員・学生が連携して活動を行いました。

施設の開設に向けて、保健福祉学部子ども学科の学生が小畑千晴准教授の指導を受け、総社に住む子育て世代にニーズ調査を行い報告しました。調査結果をもとに建物のあり方や使い方を検討するため、施設使用に関するアドバイザーとして、同学科の山本孝司教授、安久津太一教授、小畑千晴准教授、デスマレス・エリック准教授があたりました。

学生によるニーズ調査の報告

現地確認

令和４年10月16日（日）にオープニングセレモニーが行われ、同法人の守安伸聡事務長による挨拶、片岡聡一総社市長、沖学長、風早昱源会長（総社市社会福祉協議会）が祝辞を述べた後、多くの子どもたちが参加し、本学教員と学生等を交えた演奏や音楽ワークショップを行いました。

デザイン学部建築学科の畠准教授が内装デザイン監修を担い、木製什器を学生と共に製作しました。同じく木製什器で製作された絵本コーナーは、子ども学科の学生が選書をしました。

学科の特色を活かしたワークショップの実施

施設のオープン後も、月 1～2 回程度、各学部・学科の特色を活かしたワークショップを開催しました。子どもだけでなく、父親や発達障がいのある子どもを持つ保護者も対象にするなど、多様な試みに取り組みました。ワークショップは、引き続き令和 5 年度も開催する予定です。

子ども学科の学生が、地域の方の指導を受けながら大学構内の草木を集めてリースやオブジェづくりの材料を用意し、ワークショップに参加した親子にどんぐりマップを渡し、大学内の豊かな生態系を伝えた

児玉太一助教によるストローを使ったおもちゃ作りのワークショップ

安久津太一教授による様々な音に触れる音楽ワークショップ

学生による父親のニーズ調査結果の報告会

情報工学部情報システム工学科の石井裕准教授によるプログラミングトイ体験では、子どもたちがロボットの進む道筋やボールをゴールに導く論理を理解し、思い通りになった成功体験を積むことでプログラミングの理解を深めた

第Ⅱ部の関連ページ［３．３］→

V　大学を核とした産学官民協働による「子育て支援」活動

概要

大学の有する知的・人的資源やそのネットワーク、施設等を活用し、官民学協働による地域ぐるみの子育て支援の取り組みとして「県大・そうじゃ子育てカレッジ」を平成 21 年から実施しています。

学生が参加して実施する親子交流ひろば（チュッピーひろば）の開設をはじめ、親子で楽しむ音楽会、子どものためのアートパフォーマンスなどの親子対象のイベント、子育て支援者向けの研修会や情報交換会など、多彩な事業を展開しています。

チュッピーひろば

週 1～2 回、総社市の地域子育て支援拠点（出張型）として、学部共通棟西の 5118 遊戯室でチュッピーひろばを開催しています。毎回 10 組程度の親子が集い、スタッフの見守りのもと、交流を楽しんでいます。令和 4 年度のチュッピーひろばの開催は 56 回、参加数は親子 574 組（延べ 749 名の子ども）で、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に実施した上で開催しました。

チュッピーひろばは、フローリング張り（一部、床暖房付き）の床に畳のスペース、授乳コーナーや幼児用トイレ等を備えており、乳児連れでも快適に利用できるような設備を整えています。室内には、良質な玩具や絵本が揃えられ、様々な子育て情報にアクセスできるよう工夫されています。また、西棟中庭に面したウッドデッキや緑豊かで広大な県大構内は、子どもにとって格好の遊び場となっています。春は花見、秋はどんぐりや落ち葉拾いなど、親子でゆったりと散策したり遊んだりする姿が見られます。学内に親子の姿があることで学生との自然な交流もみられ、多世代交流の機会にもつながっています。

第１３回親子で楽しむ音楽会

令和 4 年 11 月 13 日（日）に、岡山県立大学講堂にて「第 13 回親子で楽しむ音楽会～0 歳児からのコンサート 2022～」を開催しました（主催：県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会・岡山文化芸術創造）。地域の親子が多数参加し、岡山フィルハーモニック管弦楽団によるクラッシックやディズニーの名曲を存分に堪能してもらいました。また、岡フィル団員の皆様による楽器紹介や来場の子どもたちによる指揮者体験、子ども学専攻 4 年生による手遊び歌やダンスなど、親子で楽しめるプログラムとともに、最後まで笑顔あふれる楽しい音楽会となりました。

子どものためのアートパフォーマンス

令和 4 年 12 月 22 日（木）に「こどものためのアートパフォーマンス 2022」を開催しました。この催しは、毎年、子ども学専攻及び子ども学科の表現系の授業の成果発表会として行うものです。今年度は、コロナ禍により、8 月の開催予定を延期し、12 月に開催しました。2 年生は合奏（ウェルカム演奏）、3 年生はダンス、4 年生は劇の発表を行いました。

当日は市内の子育てひろばに集う親子を招待して、表現の世界を存分に楽しんでもらいました。学生たちのダンスや合奏、劇に出てくる演者の動きに引き込まれるように体を動かす子どもの姿が見られました。学生にとっては、一つの大きな行事を、学年を超えて協力して創り上げる試行錯誤の連続で、保育現場に活かせる実践的な学びにつながりました。

第Ⅱ部の関連ページ［３．３－４］→

Ⅵ　学生同士で広めるボランティア活動

概要

岡山県立大学では、学生による多くのボランティア活動があります。学生同士でボランティア活動を広める様子を紹介します。

学内での学生相互の助け合い活動

学内では、学生同士の助け合い活動が生まれています。ボランティア部ひまわりは、国際ソロプチミスト総社からの資金的援助により、ひまわりプロジェクト（女子学生向けの一部トイレへの生理用品の設置、サービスラーニング室での生理用品無料配布）を行っています。

生理用品無料配布の様子（令和４年５月 11 日）

フードバンクグループは、総社市生活困窮支援センターを通じて物品の提供を受けたり、学内でのフードドライブ活動を行い、学内の学生を対象とした食料品などの配布を行いました。賞味期限の確認、SNS 発信などをしました。

フードドライブで集まったもの（令和５年１月 19 日）

１月 20 日にフードバンクを実施し、配布しました。

学内でのエコキャップ運動

学生団体 SLR は、気軽にできるボランティア活動として、学内でペットボトルキャップを回収し、回収業者を通じて、認定 NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会へ寄付しています。一人でも多くの学生がボランティア活動に触れるきっかけになることを期待しています。

SLR の活動の様子

エコキャップを集めて送付しました。

JCVペットボトルキャップ寄付証明書

2022年 12月 16日 ID-6024155

岡山県立大学 学生ボランティア団体SLR さま

岡山県総社市窪木111

受領日	重量	寄付金額	ポリオワクチンで
2022/10/14	3.3Kg	33円	1.65人分
累 計	3.3Kg	33円	1.65人分

ご寄付はワクチンにかえて開発途上国の子どもたちへ届けます。
ご支援に心より感謝申し上げます。

ボランティア研修会での啓発活動

学内のボランティア研修会において、学生がそれぞれ取り組んできたボランティア活動を発表し、ボランティア活動を広めています。

災害ボランティア研修会（令和 5 年 1 月 19 日）

大学生の災害ボランティアに求められることを発表

発表者：社茉央子さん（看護学科 2 年生）

SDGsボランティア研修会（令和 5 年 1 月 26 日）

NPO 法人だっぴでの体験を発表

発表者：石井乃々花さん（子ども学科 2 年生）

平成３０年西日本豪雨災害被災地へのメッセージの作成

平成 30 年 7 月の西日本豪雨災害で総社市などが甚大な被害を受けたことを踏まえ、学生たちが災害の記憶を風化させないための取り組みを行っています。学生たちがメッセージボードを作成し、総社市内公民館で展示しました。

第Ⅱ部の関連ページ［３．５］→

Ⅶ　県内企業に向けた人材育成のための連携活動

岡山県立大学協力会主催　業種説明会

令和 5 年 2 月 14 日に学部共通棟(東)にて、業種説明会を開催しました(主催:岡山県立大学協力会)。協力会正会員 48 社が説明ブースを設置し、本学の学生に向けて所属業界の概要、魅力、今後の展望などを説明しました。新型コロナ感染症のため対面形式での実施は、令和元年度以来 3 年ぶりでしたが、学生たちの参加率はコロナ前に比べ増加傾向を見せ、延べ 198 名の学生が参加し、盛況となりました。

おかやま組込みシステム・ＡＩ講座

岡山県が展開する「大学と連携した地域産業振興事業」による寄附講座を実施し、社会人 32 名が受講しました(全 39 コマ)。 本講座は県内の中小企業を対象とし、組込みシステムやAIに関する技術開発力や企画提案力の向上を目指すもので、令和元年度から毎年実施しています。

受講者が学びやすいオンライン学習を基本としつつ、一部の演習は対面により 4 日間にわたり実施しました(12 月 22 日･23 日及び 2 月 21 日･22 日、延べ 57 名参加)。 受講者は、積極的に質問するなど、各事業所での実装に向けて熱心に取り組んでいました。また、対面演習も含めた動画コンテンツを整備し、受講者の利便性向上を図りました。

第Ⅱ部の関連ページ［３．２－４］→

第Ⅱ部　県立大学の各組織での活動

１．「吉備の杜」創造戦略プロジェクト

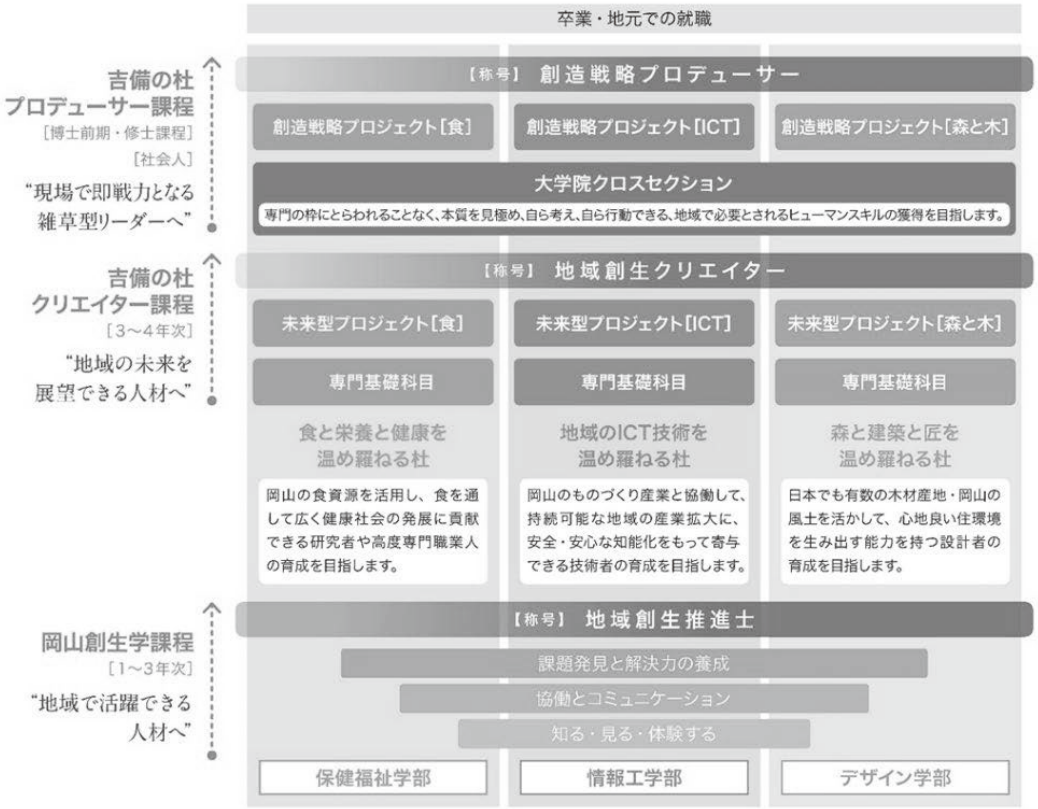
１．１　大学による地方創生人材教育プログラム構築事業の趣旨と概要

（１）事業目的

地方創生に向けて、地域にある高等教育機関が核となり、その地域の経済圏における教育と職業、教育と新たな産業を結びつけていく活動が不可欠となっており、人生 100 年時代においては、高等教育機関には多様な年齢層の多様なニーズを持った学生を教育できる体制が必要となるため、いわゆる就職氷河期世代も含めた様々な社会人に対しても受けやすく即効性のある出口一体型人材養成の確立が求められている。本学は令和 2 年 10 月 15 日に、文部科学省による「令和 2 年度　大学教育再生戦略推進費『大学による地方創生人材育成プログラム構築事業』」に採択され、岡山県の総合計画である「新晴れの国おかやま生き活きプラン」「おかやま創生総合戦略」に基づき、「県内産業発展に寄与できる人材」を出口（就職先企業）と一体になって育成するプログラムを構築する。

（２）プロジェクト特徴

学部 1-3 年次に受講する副専攻「岡山創生学」（COC+）を基盤とし、本プログラムは、学部 3 年次生から大学院生及び社会人を対象とする。大学院では、分野横断型で「研究科横断型共通基盤科目（大学院クロスセクション）」を設け、社会変動に応える複眼的視野と実践知の世界を大学・地域・企業の共同体にて学ぶ。併せて、関係大学、自治体や産業界との協議に基づき創られた新たな産業人材像を求めて「食と栄養と健康を温め羅ねる杜」、「地域の ICT 技術を温め羅ねる杜」、「森と建築と匠を温め羅ねる杜」の 3 つのサテライトプログラムを開設している。本プログラムは事業協働機関の企業の若手社員、学生、教員らから構成され、企業が直面する課題や共同研究をテーマに協働実践型 PBL 演習を実施する。



１．２　大学院クロスセクション

大学院生(M1、M2)を対象としたリベラルアーツ教育を行う研究科共通基盤科目で、業種の枠を超えた産業人材として必要な能力を育む科目で、本質を見極め、自ら考え、自ら行動できる人材養成（＝リベラルアーツ教育）も非常に重要と考え、本事業の一つとして取り組んでいる。

一般的に教養に関する科目は低年次生に配されることが多いが、大学院生がヒューマンスキルを身に付けることが地域社会に出てから最も必要な資質と考え実施している。また、社会人のリカレント教育としても積極的に活用できる科目を開講している。

－科目概要－

C1：時事と歴史を読む

地域課題と地方創生、東京一極集中、疾病差別、雇用問題など現代社会の諸課題について、歴史を踏まえてその成因を理解し、課題の本質を探究することを学ぶ。さらに、正しい情報を得るための手段やコミュニケーションの重要性を学んだうえで、課題解決を目指したグループワークを行い、その提案について講師も含めて討論する。

C2：データサイエンス

情報通信技術の進展を背景に、様々なデータが有効活用されている。このような時代には、どのような職業に就いても、ある程度のデータ分析力やデータに基づいた合理的な判断が求められる。本講義では、データの処理・分析を学び、抵抗なくデータをハンドリングできる素養を身につけることを目標とする。

C3：知の理論

単に具体的な知識について学ぶのではなく、知識は多種多様であることを認識し、「知識の本質」について批判的に思考して、「知識を獲得するプロセス」を探究することを目指す。

C4：地域資源学

岡山が直面しているグローバル化や過疎高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域創生による持続的活性化にむけて、岡山が有する様々な地域資源（農業・自然・エネルギー・文化等）の価値を理解するとともに、新たな価値を創出・発信するための具体的な活用事例などについて論じる。

C5：地域社会とビジネス

大企業や行政への一方的依存を脱して、地域の歴史や資源に密着してビジネスを促進させることが地域経済の持続や再生につながる。地域の歴史や地域の特徴のある産業を整理し、その中でKSF(Key Success Factor)を見出し、今後の地域活性化のための新しいビジネスモデルの提案を目指す。

C6：アカデミック・プレゼンテーション演習

自身が取り組む研究内容を整理し、効果的に他者に伝える方法を学ぶ。いわゆる研究論文とは違い、オーラルプレゼンテーションでは紙面や時間の制約がある中で、いかに重要なポイントを絞って表現するかということが求められる。単に研究資料を見せるのではなく、説得力のある「魅せる」プレゼンテーションスキルの獲得を目指す。

－履修状況－

NO.	科　目	実施日程	受講形態	履修年次	単位数	大学院履修数	学外者履修数
C1	時事と歴史を読む	後後期	講義	M1、M2	1	46 人	29 人
C2	データサイエンス	前後期	講義	M1、M2	1	69 人	19 人
C3	知の理論	前前期	講義	M1、M2	1	51 人	9 人
C4	地域資源学	後前期	講義	M1、M2	1	26 人	23 人
C5	地域社会とビジネス	後前期	講義	M1、M2	1	22 人	24 人
C6	アカデミック・プレゼンテーション演習	前期	演習	M1、M2	1	11 人	2 人
				延べ人数	→	225 人	106 人

１．３　食と栄養と健康を温め羅ねる杜

学部 3・4 年生を対象として、「おかやま」の食資源を活用した食品の生産・加工・流通を通して、広く地域社会、国際社会で活躍できる食のスペシャリストを育成する。

－科目概要－

H1：フードビジネス学

岡山県の特産品の食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムについて具体例を挙げて講述する。広い視野から食の安心・安全、食品の研究開発や食品の生産、流通、消費の流れについて、理解を深めることを目的とする。

H2：チームガバナビリティ演習

保健・医療・福祉分野における多専門職の連携・協働は今日では interprofessional working（IPW）と称され、その教育は interprofessional education（IPE）と呼ばれる。IPE とは、「2 つ以上の専門職の学生が、効果的な協働を可能にして医療効果を改善するために、ともに学び、ともに学びあいながら、お互いのことを学ぶこと」と定義される。本授業では、看護・栄養・保健福祉の 3 学科の学生と教員が一堂に会して、クライエントに最大限に貢献するための多専門職の連携について、実践的に学ぶ。

H3：地域保健福祉演習

保健・医療・福祉の専門的な視点から、多様な背景をもつ住民の生活ニーズを把握する。さらに、地域の課題を明らかにし、解決に向けて地域関係者と協働する体験を通して、地域創生に資する学修を行う。

H4：未来型プロジェクト〈食〉

令和 4 年度より、学部 4 年生向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、最終目標は「持続可能なおかやまの未来を展望できる人材の育成」としている。20 日間の内 10 日間は企業で社員と協働して学修し、残りの 10 日間は学内で担当教員から課題解決に必要な知識についての教育を受ける。具体的には、食物の産地、食品企業、医療現場、自治体等の事業協力機関と協働し、食品の生産、加工、流通、消費、食の安全・安心や食育などに関連した諸問題の解決に向けて実践型の演習を行う。

H5：創造戦略プロジェクト〈食〉

令和 3 年度より、大学院向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、食品業界等から提供される具体的なテーマに対して、協働機関と共同で、即戦力としてのスキルを醸成する目的とした科目である。プロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルなどを身に付けることを目的としたグループワークなども行う。受講者はオリエンテーション後に 3 つのコースのいずれかを選択し、各コースにおいて協働機関先で 20 日間の演習を行い、最後に受講生を協働機関の社会人も参加し、全コースの成果を報告、議論し、他研究科や他専攻の教員、受講生および社会人ともコミュニケーションを深め、様々な分野において食の重要性を理解しながら社会で即戦力として活躍できるスキルを身に付ける。

－履修状況－

NO.	科　目	実施日程	受講形態	履修年次	単位数	学内者履修数	学外者履修数
H1	フードビジネス学	夏季・冬季集中	講義	3	2	18 人	24 人
H2	チームガバナビリティ演習	前期	演習	3	1	23 人	0 人
H3	地域保健福祉演習	通年	演習	3	1	9 人	1 人
H4	未来型プロジェクト〈食〉	通年	演習	4	4	11 人	履修不可
				小計	→	61 人	25 人
H5	創造戦略プロジェクト〈食〉	通年	演習	M1、M2	4	4 人	履修不可
				延べ人数	→	65 人	25 人

１．４　地域の ICT 技術を温め羅ねる杜

学部 3･4 年生を対象として、岡山のものづくり産業と協働して、持続可能な地域の産業拡大に、安全･安心な知能化をもって寄与できる技術者を育成する。

－科目概要－

J1：組込みシステム

組込みシステムは、限定された境界条件下で要求性能を実現するために、設計に際して、要求･目標仕様設計、方式･機能設計等の多岐に渡り、特に近年は、ハードウエアとソフトウエアの協調設計が必須となっている。この授業では、上記組込みシステム特有の設計方式論にフォーカスし、帰納的な理解を深める多数の事例を紹介し、最新分野もふくめた設計方式について解説する。

J2：セキュリティ総論

データ秘匿化やユーザ認証のための暗号技術の仕組みを学ぶ。また、安全にインターネット上でのデータの送受信をするためのコンピュータおよびネットワークのセキュリティ技術の仕組みを学ぶ。

J3：知的制御システム

知能の概念を理解し、脳で行われている知能的な情報処理を実現するための基本的なモデル（誤差逆伝搬法、連想記憶モデル）と知的制御を実現するための様々な方法（ファジイ制御、遺伝

的アルゴリズム、ディープラーニング、強化学習、フィードバック誤差学習）の理論とその特徴について理解する。

J4：技術者と社会

society5.0 で工学技術者として活躍する場合、人ならではの想像力や創造力を発揮しながら、やってはならない事、やるべき事を自分自身で迅速に判断し、タイムリーに、かつ適確に行動する事が求められる。情報系や製造系分野の第一線で活躍している企業人による講義とそれに関連する現実的な課題をテーマとしたグループワークの形態で実施する。そして、これらを通して、技術者としてのより高度な倫理観や、自ら課題を見つけるための問題意識、それを解決するための判断力と行動力、新しい価値を想像し創造する力などの養成を目的にする。

J5：未来型プロジェクト〈ICT〉

令和 4 年度より、学部 4 年生向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、最終目標は「持続可能なおかやまの未来を展望できる人材の育成」としている。20 日間の内 10 日間は企業で社員と協働して学修し、残りの 10 日間は学内で担当教員から課題解決に必要な知識についての教育を受ける。具体的には、ICT 産業、情報産業、自動車産業等、ものづくり産業の現場で第一線の技術者と協働することで技術者としてのリテラシー、授業で修得した知識・技術の実践力等を育成することが期待できる。

J6：創造戦略プロジェクト〈ICT〉

令和 3 年度より、大学院向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、ICT 産業、情報産業、自動車産業等、ものづくり産業の現場で起きている具体的な課題やテーマの解決に向け、第一線の技術者と協働して取り組み、大学内での授業だけでは、なかなか実感の湧かない、実践的なエンジニアとしてのスキルやリテラシーを身につける。協働機関先で 20 日間の演習を行い、最後に受講生を協同機関の社会人も参加し、全コースの成果を報告、議論し、他研究科や他専攻の教員、受講生および社会人ともコミュニケーションを深める。

－履修状況－

NO.	科　目	実施日程	受講形態	履修年次	単位数	学内者履修数	学外者履修数
J1	組込みシステム	前期	講義	3	2	98 人	3 人
J2	セキュリティ総論	後期	演習	3	2	86 人	6 人
J3	知的制御システム	後期	演習	3	2	79 人	2 人
J4	技術者と社会	後期	演習	3	1	65 人	履修不可
J5	未来型プロジェクト〈ICT〉	通年	演習	4	4	4 人	履修不可
					小計 →	332 人	11 人
J6	創造戦略プロジェクト〈ICT〉	通年	演習	M1、M2	4	9 人	履修不可
					延べ人数 →	341 人	11 人

１．５　森と建築と匠を温め羅ねる杜

学部 3･4 年生を対象として、日本でも有数の木材産地「おかやま」の風土を活かして、心地良い住環境を生み出す能力を持つ設計者を育成する。

－科目概要－

D1：森林生態学・地盤工学

建築をつくることは、人間と自然との関係を再構築する行為といえる。気候変動による多くの災害やパンデミックに直面している現代社会において、環境の正しい理解なしに建築を考えることは不可能である。そのためには、森林や地盤構造に対する正しい理解が必須である。また、戦後の建設資材としての製材増産のための自然林から人工林への転換、および経済合理性優先の宅地開発等による地盤の軟弱化が、現在の気候変動による災害の甚大さをもたらす大きな要因のひとつになっている。本科目は森林や地盤についての基本的な知識を修得し、環境から導かれるこれからの建築デザインについて考える素地を滋養することが目的である。

D2：森林・木材学演習

木造建築をつくるためには、木材という素材についての多くの知見が要求される。川上の森林から川下の消費者にいたる過程の一端を肌で感じ取り、真の木の知識として定着させることを目的とする。森林に足を踏み入れ、森がもつ自然の力を感じ、森を形成する樹木の役割について学び、製材されて製品に形を変えてゆく過程を体験する。また、森林資源のエネルギー利用のバイオマス発電の見学も加えて、これからの時代の建築をトータルに捉えられる感性を滋養することを目的とする。

D3：木構造学・木構造デザイン

建築構造の中の、木構造についての基本的な考え方に習熟すると同時に、構造的観点からのデザインについて、実例を通じて学び、木造で建築を考える感覚を滋養する。

D4:環境デザイン演習

これからのデザインは、地球規模の気候変動やパンデミックに対応する社会構造を理解したうえでのデザインが求められる。特にデザインの素材やそれらが生産される場所や生産量などの地理情報に対する広範な知識が要請される。この授業は、GIS による地理情報を使いこなせる技術を習得することにより、デザインの背景にある地理的な情報や背景を研究や制作に生かすことを目的とする。

D5：未来型プロジェクト〈森と木〉

令和 4 年度より学部 4 年生向けに開講される 4 単位の PBL 演習で、企業から提供される具体的なテーマに対し、20 日間、事業協働機関や企業と協働してプロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなどを行う。まず、企業活動を理解し、テーマを把握したうえで、一次企画提案、意見交換、二次企画提案後に発表会（最終提案）を行う。具体の企業における課題解決に社員とともに取り組むことにより、地元産業界への定着を進める。

D6：創造戦略プロジェクト〈森と木〉

令和 3 年度より、大学院向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、企業から提供される具体的なテーマに対し、20 日間、事業協働機関や企業と協働してプロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなどを行う。まず、企業活動を

理解し、テーマを把握したうえで、一次企画提案、意見交換、二次企画提案後に発表会（最終提案）を行う。具体の企業における課題解決に社員とともに取り組むことにより、地元産業界への定着を進める。

－履修状況－

NO.	科　目	実施日程	受講形態	履修年次	単位数	大学院履修数	学外者履修数
D1	森林生態学・地盤工学	通年集中	講義	3	2	13 人	0 人
D2	森林・木材学演習	通年集中	講義	3	2	20 人	2 人
D3	木構造学・木構造デザイン	通年集中	講義	3	2	15 人	0 人
D4	環境デザイン演習	通年集中	演習	4	2	12 人	0 人
D5	未来型プロジェクト〈森と木〉	通年	演習	4	4	3 人	履修不可
				小計	→	63 人	2 人
D6	創造戦略プロジェクト〈森と木〉	通年	演習	M1、M2	4	8 人	履修不可
				延べ人数	→	71 人	2 人

１．６　実施体制

本事業を円滑に推進するための実施体制として、申請時より 4 自治体及び 1 社 2 団体の加盟があり、令和 4 年度では県内 3 大学、県内 10 自治体及び県内の企業 5 社 7 団体の事業協働機関による「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップを設置し、産学官が一体となってプロジェクトに取り組んでいる。

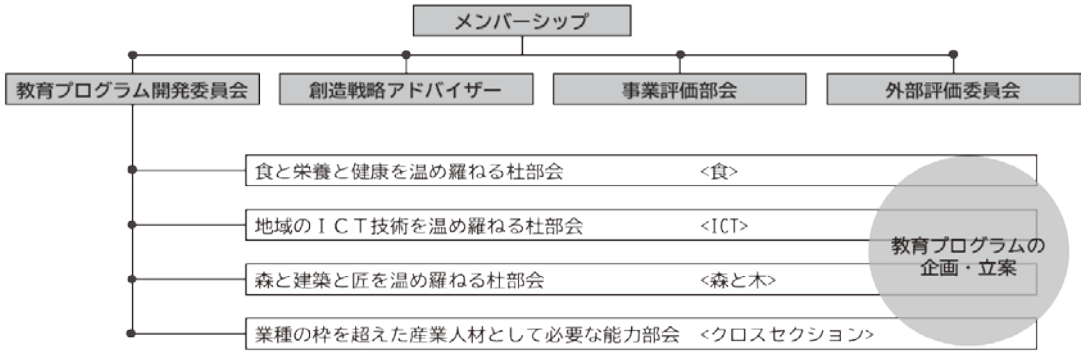
当メンバーシップには、最も重要な活動と位置付けられる「教育プログラム構築」に関する審議機関となる「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会、及び外部者による本事業の評価を行う「吉備の杜」創造戦略プロジェクト外部評価委員会を設置し、継続性の高いPDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：確認、Action：行動）を実施する。

さらに、本学内に「吉備の杜」創造戦略プロジェクト推進本部を設置し、事業の実施に関する学内の意思決定を担い、具体的な企画立案等を担う「吉備の杜」創造戦略プロジェクト企画委員会、事業の全体調整・総合窓口等を担う「吉備の杜推進室」を設置し、本学が本事業の代表として事業を推進する。

１．６－１　「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」協働機関（２５機関）

参加大学(3)	岡山県立大学、 ノートルダム清心女子大学、 中国学園大学
参加自治体(10)	岡山県、真庭市、総社市、備前市、赤磐市、笠岡市、玉野市、津山市、井原市、瀬戸内市
参加企業、団体等(12)	中国銀行、山陽新聞社、RSK 山陽放送、おかやまコープ、岡山県立大学協力会、岡山県食品新技術応用研究会、システムエンジニアリング岡山、岡山県建築士事務所協会、岡山県経済団体連絡協議会、 トマト銀行、岡山県中小企業家同友会、岡山県産業振興財団

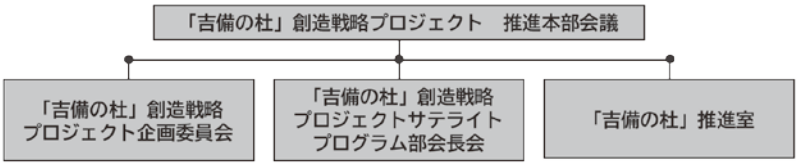
■ メンバーシップの体制



■ メンバーシップの役割

1. 吉備の杜ＰＪの実施方針・事業計画の策定に関すること。
2. 吉備の杜ＰＪの実績の自己評価に関すること。
3. 事業協働機関間の調整に関すること。
4. その他吉備の杜ＰＪに関し、必要な業務

■ 学内体制



１．６－２　教育プログラム開発委員会作業部会の構成

作業部会の役割:教育プログラムの企画・立案し、開発委員会に提案する。

部会名	「食と栄養と健康を温め羅ねる杜」部会　…　9 機関
機関名	岡山県立大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学、岡山県、総社市、赤磐市、井原市、おかやまコープ、 岡山県食品新技術応用研究会
委員長	岡山県立大学保健福祉学部　教授　伊東秀之

部会名	「地域の ICT 技術を温め羅ねる杜」部会　…　6 機関
機関名	岡山県立大学、岡山県、岡山県立大学協力会、システムエンジニアリング岡山、玉野市、津山市
委員長	岡山県立大学　情報工学部　教授　榊原勝己

部会名	「森と建築と匠を温め羅ねる杜」部会　…　4 機関
機関名	岡山県立大学、 岡山県、 真庭市、 岡山県建築士事務所協会
委員長	岡山県立大学　デザイン学部　教授　向山　徹

部会名	「業種の枠を超えた産業人材として必要な能力」部会　…　17 機関
機関名	岡山県立大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学、岡山県、笠岡市、備前市、赤磐市、玉野市、井原市、瀬戸内市、中国銀行、山陽新聞社、RSK 山陽放送、岡山県経済団体連絡協議会、トマト銀行、岡山県中小企業家同友会、岡山県産業振興財団
委員長	岡山県立大学　情報工学部　教授　末岡浩治

１．７　メンバーシップ等の開催

（１）教育プログラム開発委員会作業部会

〈食と栄養と健康〉		
令和４年９月 16 日(金)	令和４年度 PBL 演習及び講義の実施状況、 PBL 演習等について説明	オンライン
令和５年２月８日(水)	令和４年度 PBL 演習及び講義の実施状況、 履修者の就職状況等について説明 令和５年度の教育プログラムについて	オンライン
〈地域の ICT 技術〉		
令和４年９月 14 日(木)	令和４年度の PBL 演習進捗報告 講義群の紹介及びオンデマンドサイトの説明	オンライン
令和５年２月８日(木)	令和４年度の PBL 演習実施報告 学外履修者数及び県内就職者人数の報告 令和５年度の教育プログラムについて	ハイブリット
〈森と建築と匠〉		
令和４年 10 月 11 日(火)	令和４年度 PBL 演習の実施状況、 教育プログラムの企画・立案	オンライン
令和５年２月６日(月)	令和４年度の PBL 演習実施報告 令和５年度の教育プログラムについて	オンライン
〈業種の枠〉		
令和４年９月 27 日(火)	令和４年度大学院クロスセクション実施状況 令和５年度大学院クロスセクションの計画	オンライン
令和５年２月 17 日(金)	令和４年度大学院クロスセクション実施報告 令和５年度教育プログラムについて 令和５年度以降の「吉備の杜」の実施計画	オンライン

（２）教育プログラム開発委員会

令和４年 10 月 18 日(火)	令和４年度教育プログラム中間報告 令和５年度教育プログラム改変	オンライン
令和５年２月 21 日(火)	令和４年度教育プログラム実施報告 令和５年度教育プログラム実施計画	オンライン

（３）メンバーシップ会議

令和４年６月 23 日(木)	新規メンバーシップ入会メール審議	メール審議

令和 4 年 7 月 28 日(木)	新規メンバーシップ入会メール審議	メール審議
令和 4 年 11 月 16 日(水)	令和 4 年度教育プログラム中間報告 令和 5 年度教育プログラム改変	ハイブリット
令和 5 年 3 月 9 日(木)	令和 4 年度教育プログラム実施報告 令和 4 年度事業実施評価 令和 5 年度教育プログラム実施計画	ハイブリット

（４）外部評価委員会

令和 5 年 3 月 22 日(水)	事業の自己評価に基づく令和 4 年度の実績評価の点検およびその評価	オンライン

１．８　攻めの広報

Facebook ページと Instagram を令和 4 年 2 月 1 日に開設し、最低月 2 回以上の発信を継続している。また、紙媒体については、広報誌「吉備の杜」Vol.2 を令和 4 年 10 月に発行し、全学生・教員とメンバーシップ及び関係先へ配布した。特集ページでは、令和 3 年度に吉備の杜プロデューサー課程を修了し、創造戦略プロデューサーの称号を授与された 2 名のインタビューを掲載し、学内外へアピールした。引き続き、広報誌 Vol.3 を令和 5 年 3 月に発行し、4 月のオリエンテーション時期に全学生・教員とメンバーシップ及び関係先へ配布する予定である。

パンフレット

広報誌「吉備の杜」Vol.2

さらに、これまで活用していた「吉備の杜」創造戦略プロジェクトのパンフレットを一新し、A4 二つ折りから A4 三つ折りとし、内容を拡充した。

２．地（知）の拠点としての活動

２．１　地域との協働

２．１―１　公開講座

（１）概要

本学では毎年、県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座は、デザイン学部が担当し、「生活とデザイン」をテーマに、2 日間 4 講座を実施した。

（２）日程等

テ ー マ ： 生活とデザイン

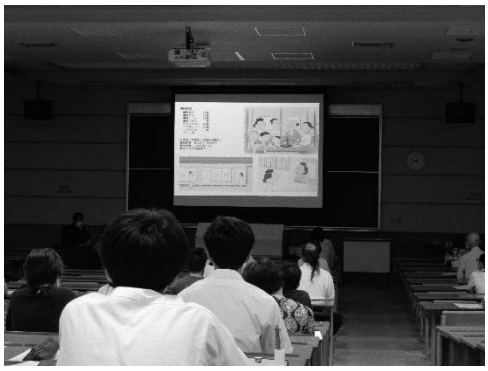
担当学部 ： デザイン学部

受講対象 ： 県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

そ の 他 ： 全 2 回のうち両日とも出席の者に修了証書を交付した。

日　程		テーマ	講　師
9 月 10 日（土）	9:30～ 9:40	開　講　式	学　長　沖　陽子
	9:40～10:40	まちづくりとデザイン	准教授　髙橋　俊臣
	10:50～11:50	生活を彩るテキスタイルデザイン	准教授　渡邉　操
9 月 17 日（土）	9:30～10:30	ゆたかな生活を育む家のかたち	教　授　吉田　豊
	10:40～11:40	ゆたかな「生活景」を育むまちづくり	准教授　穂苅　耕介
	11:40～11:50	閉　講　式	学部長　嘉数　彰彦

○開催の様子



（３） 開催状況

① 参加者

居住地	人数	比率
倉敷市	26	32.9%
岡山市	21	26.6%
総社市	13	16.5%
その他	19	24.1%
計	79	100.0%

年齢	人数	比率
10 歳代	40	50.6%
20 歳代	0	0%
30 歳代	5	6.3%
40 歳代	9	11.4%
50 歳代	10	12.7%
60 歳代	7	8.9%
70 歳以上	7	8.9%
不明	1	1.3%
計	79	100.0%

・受講者数:79 名
・修了証交付者数:43 名

② 参加者からの意見・感想

・身の回りにあるものの見方が変わるきっかけになった
・デザインの観点からものをみるのもおもしろいと思った
・自分の専門外で知らなかったことを学べるのは楽しいことだと思った

（４） 今後に向けて

今回の講座は、「生活とデザイン」をテーマに、デザイン学部教員の研究内容を取り入れた講義を実施した。生活の中に溶け込んでいる身近な“デザイン”を取り扱ったテーマに、年齢層の幅広い受講者が見られ、講座終了後のアンケートでは、「新しい発見があった」「参加してよかった」といった感想があり、大変好評であった。

本学の公開講座は、高校生をはじめ幅広い年代から受講されており、テーマを問わず受講するリピーターも存在する。今後も高度な専門的知識を得たいという受講者の要望に応えつつ、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学において蓄積した知識、技術ならびに研究シーズをより多くの地域住民に、身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

○募集案内チラシ

○過去のテーマ一覧

年度	担当	テーマ
H26	保健福祉	認知症と向き合う～安心して豊かな老後を過ごすために～
H27	デザイン	地域が求めるもの～「デザインのチカラ」
H28	情報工	地域を活かす情報技術
H29	保健福祉	知って得する糖尿病との付き合い方
H30	デザイン	美と芸術について考える
R1	共通教育	テクストの中の〈世界〉
R2	情報工	私たちの生活を変える AI
R3	保健福祉	誰もが安心して暮らせる福祉と子育て

２．１－２　吉備創生カレッジ

岡山県は、全国的に見ても充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内15の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成 18 年 4 月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、現在では正会員として 18 大学が参加している。さらに、特別会員として 4 短期大学及び 1 高等専門学校、1大学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この 2 つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成 19 年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は下表の 6 講座を提供した。 開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパスであった。

期	日　時	担当教員	講座名	内容紹介
前期	R4.5.24	保健福祉学部 教授 久保田恵	高齢期の食と健康	体重が減る、歩くのが遅くなるのは年のせい？年をとると、自分では気づかぬうちに栄養不足になっている方が見受けられます。そこで、人生 100 年時代を楽しむために、食生活の整え方を学んでみませんか？
	R4.6.21	情報工学部 教授 春木直人	熱エネルギーの蓄熱と輸送熱	現在、エネルギーの有効利用の観点から様々な新技術が研究・開発されています。本講座では、それらの新技術のうち、熱エネルギーの蓄熱と輸送技術について紹介します。
	R4.8.5	デザイン学部 准教授 真世土マウ	古代アメリカへの旅	南米大陸に花開いた古代アンデス文明では、個性的な表現の土器が数多く生み出されました。このレクチャでは講師が、古代アンデス美術の豊かな表現を支えている、きわだった製陶技術の高さを解説します。
後期	R4.10.12	情報工学部 准教授 佐藤将也	サイバーセキュリティ入門	さまざまなサービスがオンラインで提供されている現代では、安全に Web サービスを利用するのは難しくなっています。本講義では、日常的に利用しているサービスの事例を通して、普段から注意すべき点を解説します。
	R4.11.8	保健福祉学部 教授 高戸仁郎	自宅でできるフレイル予防	要介護状態の前段階である「フレイル」の予防について、中山間部での実践事例を紹介し、自宅でもできるフレイル予防について解説します。少し体も動かしますが、普段着のままでご参加いただけます。
	R4.11.14	デザイン学部 准教授 岡北一孝	大原美術館とローマの建築	大原美術館は、岡山を代表する西洋風の建築です。その堂々たる外観は、ローマの建築に由来します。この講座では、大原美術館の建築の魅力について解説し、さらにその起源としてのローマ建築の面白さに迫ります。

２．１―３　高大連携活動

（１）出前講座（講師派遣）

①　概要

本学では毎年、高校からの依頼に基づき講師派遣を行っている。講演や研究指導など、内容は多岐にわたり、高校の単位として認定されるものもある。前年度と比較して、本年度は対面の派遣が増加した。オンラインと併用しながら 11 件の講師派遣を行った。

②　日程・開催状況等

実施場所	担当学部	教員名	講義内容等	受講人数	学年	実施日
岡山操山高等学校	保健福祉	准教授 周防美智子	模擬講義（生徒の課題研究、発表に対する指導助言）	274	2	R4.6.8
	情報工	教授 末岡浩治	模擬講義（生徒の課題研究、発表に対する指導助言）	274		
	保健福祉	准教授 周防美智子	模擬講義（生徒の課題研究に対する指導助言）	16	2	R4.10.5
	情報工	教授 末岡浩治	模擬講義（生徒の課題研究に対する指導助言）	14		
	保健福祉	准教授 周防美智子	模擬講義（生徒の課題研究に対する指導助言）	20	1	R4.12.14
	情報工	教授 末岡浩治	模擬講義（生徒の課題研究に対する指導助言）	15		
岡山南高等学校	保健福祉	教授 高戸仁郎	介護予防についての講義、実技指導	16	3	R4.6.21
倉敷古城池高等学校	情報工	教授 稲井寛	研究紹介、情報工学部ガイダンス	40	1・2・3	R4.6.24
秋田県立大館鳳鳴高等学校（オンライン指導）	保健福祉	教授 田中晃一	模擬講義、研究指導（オンライン）	5	2	R4.7.5～
就実高等学校	アドミッション・高大連携センター	副センター長 佐竹恭介	大学説明	33	2	R4.8.26
岡山南高等学校	デザイン	准教授 渡邉操	テキスタイルデザインについての講義、実技指導	38	1	R4.11.2

（２）進学ガイダンス

①　概要

本学では毎年、高校生を対象とした進学ガイダンスに参加している。本学での学びを紹介することで、進学への関心を高めるとともに、地域貢献や社会連携に意欲のある志願者の獲得につなげる。本年度は、コロナ禍ということもあり、オンラインを併用しながらの実施となった。

②　日程・開催状況等

No.	区分	開催日・時間	出席者	会場	主催団体業者
1	一般	令和４年４月 18 日(月) 15:00～18:00	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	(株)山陽新聞事業社
2	美術系	令和４年４月 20 日(水) 16:00～19:00	中西俊介准教授	天王寺 MIO 12 階 MIO ホール	(株)さんぽう
3	一般	令和４年４月 26 日(火) 15:45～18:00	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	日本ドリコム
4	一般	令和４年５月９日(月) 15:00～18:00	佐竹恭介 副センター長	広島会場(オンライン)	(株)ライセンスアカデミー
5	美術系	令和４年５月 24 日(火) 15:30～18:30	中西俊介准教授	みやこめっせ(京都市勧業館)	(株)さんぽう
6	一般	令和４年５月 26 日(木) 15:30～19:00	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	(株)栄美通信
7	美術系	令和４年６月８日(水) 15:45～18:30	中西俊介准教授	神戸ハーバーランド内センタービル	(株)さんぽう
8	一般	令和４年６月９日(水) 15:30～18:00	佐竹恭介 副センター長	リーガロイヤルホテル新居浜	(株)さんぽう
9	美術系	令和４年６月 10 日(木) 16:00～18:30	中西俊介准教授	松山市総合コミュニティセンター	(株)さんぽう
10	保福系	令和４年６月 14 日(火) 15:45～18:30	高戸仁郎教授 中野菜穂子准教授	岡山コンベンションセンター	日本ドリコム
11	一般	令和４年６月 15 日(水) 15:30～18:30	佐竹恭介 副センター長	松山市総合コミュニティセンター	(株)栄美通信
12	一般	令和４年６月 16 日(木) 15:30～18:30	中西俊介准教授	オーテピア 4 階(高知会場)	(株)さんぽう
13	美術系	令和４年６月 18 日(土) 13:00～16:00	吉田豊教授 真世土マウ准教授	梅田スカイビル	(株)さんぽう
14	美術系	令和４年６月 22 日(水) 16:00～18:40	山下万吉准教授 渡邉操准教授	オンライン	(株)キッズ・コーポレーション
15	一般	令和４年６月 22 日(水) 15:30～18:30	佐竹恭介 副センター長	JR ホテルクレメント高松	(株)栄美通信
16	一般	令和４年７月４日(月) 13:00～17:30	佐竹恭介 副センター長	ジップアリーナ岡山	(株)ライセンスアカデミー
17	美術系	令和４年７月６日(木) 14:00～18:00	穂苅耕介准教授 山下万吉准教授	レグザムホール	(株)さんぽう
18	一般	令和４年７月６日(木) 13:00～17:30	佐竹恭介 副センター長	ジップアリーナ岡山	(株)ライセンスアカデミー
19	美術系	令和４年７月 11 日(月) 14:00～17:30	南川茂樹教授 中西俊介准教授	岡山コンベンションセンター	(株)さんぽう

No.	区分	開催日・時間	出席者	会場	主催団体業者
20	看護系	令和4年7月11日(月) 14:00～16:30	山本孝司教授 村社卓教授	岡山コンベンションセンター	(株)さんぽう
21	一般	令和4年7月20日(水) 13:00～15:40	佐竹恭介 副センター長	オンライン	(株)キッズ・コーポレーション
22	美術系	令和4年7月25日(月) 09:00～16:00	佐竹恭介 副センター長	高松高等予備校本校	高松高等予備校
23	美術系	令和4年8月2日 13:00～17:00	中西俊介准教授 石王美准教授	広島産業会館	(株)さんぽう
24	一般	令和4年9月6日(火) 15:30～18:30	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	山陽新聞事業社
25	一般	令和4年9月28日(水) 13:50～15:40	佐竹恭介 副センター長	オンライン(神戸サンボーホール)	(株)ライセンスアカデミー
26	一般	令和4年9月29日(木) 15:30～18:30	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	(株)栄美通信
27	一般	令和4年11月14日(月) 16:00～18:30	佐竹恭介 副センター長	岡山コンベンションセンター	(株)栄美通信
28	一般	令和4年11月16日(水) 13:15～16:00	喜村仁詞准教授 尾崎公一教授	コンベックス岡山	(株)マイナビ
29	一般	令和4年12月22日(木) 15:30～17:00	佐竹恭介 副センター長	倉敷市民会館	(株)ライセンスアカデミー
30	一般	令和4年12月23日(金) 13:30～15:10	佐竹恭介 副センター長	オンライン	(株)キッズ・コーポレーション
31	一般	令和5年3月9日(木) 13:00～15:00	佐竹恭介 副センター長	倉敷アイビースクエア	(株)さんぽう
32	一般	令和5年3月17日(金) 14:00～15:40	佐竹恭介 副センター長	オンライン	(株)さんぽう
33	美術系	令和5年3月21日(火) 13:00～17:00	中西俊介准教授	キャンパスプラザ京都	京都アートスクール

２．１―４　附属図書館の活動

（１）地域への一般開放

当館は、平成21年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵している文献の複写、DVD・ビデオなどの視聴が可能となっている。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び下表に示す証明書等の提示が必要となる。更に、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能である。貸出の対象と冊数及び期間は下表に示すとおりである。

〈利用資格〉

区　　分		入館に必要なもの
県内（注 1）	18 歳未満の方(注 2)	学生証（生徒手帳）又は身分が証明できるもの
	大学関係者(注 3)	所属大学の学生証又は身分が証明できるもの
	上記以外の 18 歳以上の方	身分が証明できるもの(注 4)
県外	県外の方	

(注 1)県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方
(注 2)小学生以下の方がご利用の場合は、保護者の同伴及び申込書への署名が必要
(注 3)岡山県大学図書館協議会加盟校の方
(注 4)運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの(コピー可)

〈貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間〉

貸出の対象	貸出冊数	貸出期間
(1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生	5冊まで（図書のみ）	14日以内
(2) 本学卒業生など		
(3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方	3冊まで（図書のみ）	

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の2週間前から試験期間終了日までの約1ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。平成21年度から利用者カードを発行し、令和5年3月末現在までの発行枚数は3,069枚であった。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により本学の教育研究活動にも制約があることから、令和2年度から一部のサービス（資料の返却、岡山県立図書館インターネット予約資料の受け渡し）を除く一般開放を停止していたが、令和4年9月から制限付きで再開した。

（２）岡山県内図書館との連携

当館は、岡山県立図書館（以下「県立図書館という」）が中心となって行っている「岡山県図書館横断検索システム」、「岡山県図書館間相互貸借システム」に参加している。このシステムでは、岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索することができるほか、県立図書館を通して県内の各図書館から資料を無料で取り寄せることが可能となっている。令和4年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、70冊であった。

また、当館は県立図書館の返却窓口及びインターネット予約資料の受渡館にも指定されている。県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができる。令和4年度に返却窓口として利用された本は313冊、インターネット予約で受渡館として利用された本は348冊であった。

平成30年11月から、県立図書館と協力し、学内者に限り利用者カードの発行を行えるようになった。これまでのカード発行枚数は延べ31枚である。

（３）高校生のための大学授業開放に伴う開館

令和4年8月6日（土）、20日（土）に行われた「高校生のための大学授業開放」に合わせて、高校生やその保護者に図書館を開放し、延べ46名が館内を見学した。

（４）大学訪問に伴う館内案内の実施

高校生やPTAが本学を訪問した際、施設見学の一環として図書館内の案内を行った。大学図書館としてのサービス内容や蔵書の特徴のほか、電子ジャーナル・電子ブックなどオンライン資料の説明も行った。

・総社高校（PTA）　21名+教員2名　　・静岡県立島田高等学校　教員1名
・倉敷工業高校　40名+教員2名

〇当日の様子

（５）リユース市の開催

大学祭に合わせてリユース市（重複や改版等により不要となった図書を有効活用するイベント）を開催し、学外からも196名が来場した。

〇当日の様子

（６）総社市健康インセンティブ事業への協力

平成30年度から、総社市健康インセンティブ事業「歩いて獲得健康商品券」への協力として、図書館エントランスに事業参加者が利用できるリーダーとモバイルルーターの設置を行っている。

（７）学術情報の発信

本学の研究成果を学内外の方に広く活用してもらうため、岡山県立大学学術情報リポジトリにより、本学発行紀要（岡山県立大学保健福祉学部紀要、岡山県立大学デザイン学部紀要及び岡山県立大学教育研究紀要）のほか、学術雑誌に掲載された論文等を公開している。

２．１―５　異文化理解の活動

（１）スピーカーズ・コーナー

スピーカーズ･コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに英語、ドイツ語といった外国語でのスピーチをすることができるイベントである。学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭 1 日目に行われる恒例行事となっている。

本年度は令和 4 年 11 月 5 日(土)9:30～11:00 に、3 年ぶりに対面形式で実施し、出場者は 7 組 11 名で、英語もしくはドイツ語でプレゼンテーションを行った。参加者はスピーカーや語学教育推進室教職員を含め 30 名前後であった。プログラムは以下の通り。

1. Sharing Story	井上　朱莉	情報通信工学科 2 年
2. Progressed Architecture	安食　翔太	建築学科 2 年
	海野　豊志	建築学科 2 年
3. My Favorite Artist	大塚　優希	保健福祉学科 社会福祉学専攻 3 年
4. 多世代の家	桝井　茉結	現代福祉学科 1 年
	野勢　捺暉	現代福祉学科 1 年
	池田　晟悠	現代福祉学科 1 年
5. My Favorite Movie	阿井　大樹	人間情報工学科 4 年
6. Every Day with Yoga	倉持　翼	デザイン工学科 3 年
7. Ausbildung der Krankenschwester, und Unterstützungsmaßnahmen für die Kinde（看護師の養成、子供たちのための支援策）	天野　琳日	看護学科 1 年
	佐野　瑞季	子ども学科 1 年

（２）海外研修等

語学教育推進室では、学生の異文化理解を進めるために海外研修にも携わっている。

例年、4 月下旬に前年度の海外研修等の報告会を開催し、その後、当該年度の研修の参加者募集を行うが、本年度は新型コロナウイルスの世界的流行を受け、語学文化研修、スタディツアーなどの海外研修は、昨年度に引き続きすべて中止した。今年度中止となった研修は以下のとおり。

語学文化研修	海外研修（保健福祉学）	スタディツアー
バンガー大学（英国）	又松大学校（韓国）	ポートランド州立大学（米国）
アデレイド大学（豪州）	TAFE SA、南ｵｰｽﾄﾗﾘｱ大学（豪州）	
梨花女子大学（韓国）	香港理工大学（香港）	
	海外研修（保健福祉学研究）	
	ダンヌンツィオ大学（イタリア）	
	カセサート大学（タイ）	

海外研修は学生が現地でその国の文化、事物、人々に直接触れることにより異文化理解を深める貴重な機会である。

２．１―６　健康・スポーツ推進の活動

（１）概要

岡山県立大学健康・スポーツ教育推進室は、大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じた学生・教職員の親睦と健康維持を推進している。さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面から地域に貢献することを目指している。

（２）管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理者主任」を 2 名置いている。

・屋内スポーツ施設管理主任（体育館・プール）

・屋外スポーツ施設管理主任（陸上競技場・野球場・グラウンド(サッカー場)・テニスコート）

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の 3 点である。

①施設・用具の点検と要望の把握

②施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告

③施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

（３）施設・設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。また体育館で授業や講習会などを実施する際の感染症予防対策も行った。安全に施設を利用できるよう、老朽化していたバレーボールの支柱を軽量なものに更新するなど、整備を行った。

（４）公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成 21 年 10 月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所を有する者及び勤務する者を主な構成員(1/2 以上)とする団体へと拡大している。

（５）大会・行事

地域貢献スポーツ大会については、感染防止を優先し、今年度予定されていた大会を全て中止した。

（６）今後の展望と課題

地域へのスポーツ施設の貸し出しは開放できる状況には至っていないと判断され、本年度も貸し出しを休止した。今後は、様々な社会活動が再開されている状況を鑑みて、幅広い世代が本学の体育・スポーツ施設を活用できるように、新しい生活様式に即した施設使用のあり方を検討することも必要と思われる。一方で施設の老朽化も進んでいるため、安全で快適に利用できる対策も含め、補修・管理をしていく予定である。

（７）関連資料

体育施設の地域開放について、公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項に基づき、平成21年11月から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

① 貸付対象施設および本年度貸付実績

野球場　　なし

グラウンド（サッカー場）　なし

② 貸付対象者

1）岡山県内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員（1/2 以上）とする団体

2）その他理事長が特に使用を認めた者

③ 利用可能時間帯

1）時期　通年（12 月 29 日から翌年 1 月 3 日を除く）

2）時間　9:00～日没まで（19:00 を限度）

④ 予約申込

受付は、平日 9:00～17:00 まで、事務局総務課窓口

⑤ 受付期間

希望日の前月の 1 日から 15 日の間

⑥ 貸付許可

理事長が、健康・スポーツ教育推進室長の意見を聞いて適当と認められるときに許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

⑦ 利用料金

施設名	金額（1 時間当たり）	
野球場	一般	2,000 円
	高校生以下	500 円
グラウンド（サッカー場）	一般	2,000 円
	高校生以下	500 円

⑧ 貸付条件

1）施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。

2）施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

⑨ 問い合わせ先

岡山県立大学事務局総務課　℡:0866－94－2111（代）

２．２　行政との協働

２．２―１　岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。委員の応嘱状況は下記のとおりである。

	岡山県	岡山県 教育委員会	合計
保健福祉学部	33	2	35
情報工学部	3		3
デザイン学部	16		16
合計	52	2	54

保健福祉学部では、介護保険審査会、社会福祉審議会、子ども･子育て会議、学校給食センター運営審議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会などで貢献している。情報工学部では、情報化推進懇話会、工業技術センター外部評価委員会などで貢献している。デザイン学部では、都市計画審議会、建築士審査会などの他に、景観審議会、環境影響評価技術審査会などでも貢献している。

２．２―２　市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	2	5		7
総社市	18	2	1	21
岡山市	10	1	5	16
倉敷市	2	1	5	8
笠岡市	1		1	2
備前市		1		1
浅口市	3		2	5
瀬戸内市			2	2
高梁市	1			1
井原市		1		1
真庭市		1		1
早島町	1		1	2
吉備中央町	1			1
美咲町			1	1
滋賀県	1			1
奈良県	1			1
愛知県愛西市			1	1
滋賀県大津市	1			1
滋賀県長浜市	1			1
滋賀県守山市	1			1
香川県高松市	1			1
合計	45	12	19	76

活動の内容は、地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。なお、総社市との間では、平成 20 年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポート受ける相互支援体制を形成している。

（総社市との主な連携事業）

［連携活動において地域に貢献したもの］

① 共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等実績（行政関係）（2.2-4）を参照】

② 岡山県立大学子育てカレッジ

【地域連携部門実績（3.3-4）を参照】

③ 「県大キッズキャンパス」「夏休み工作教室」
【令和 4 年 8 月 22 日（月）】
市内小学生対象（キッズキャンパス 28 名、工作教室 8 名）

④ そうじゃ吉備路マラソン【令和 5 年 2 月 26 日（日）】
学生及び教員がボランティア参加

［連携活動において支援を受けたもの］

① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【令和 4 年 5 月 11 日（水）】
「人間力」（講師：片岡市長）
※ 新入生約 400 名を対象にオンライン実施

② インターンシップの実施【令和 4 年 8 月 15 日（月）～9 月 27 日（火）】
「インターンシップ報告会」【令和 5 年 2 月 20 日（月）】では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ政策提言を行った。

２．２―３　各種委員・講師の応嘱（行政関係）

本学における令和４年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	国・独立行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	2	37	41	80
情報工学部	5	3	7	15
デザイン学部		16	19	35
合　計	7	56	67	130

※ 公表を制限されているものを除く

本学における令和４年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	国・独立行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	3	13	15	31
情報工学部			1	1
デザイン学部		4	3	7
合　計	3	17	19	39

２．２―４　共同研究・受託研究等（行政関係）

（１）共同研究

相手方	題目	研究代表者
総社市	“歩得”及び“リン得”健康商品券事業参加者のデータ分析	情報工学部 綾部誠也　教授
総社市	県大メディカルフィットネス講座の実施	情報工学部 綾部誠也　教授
総社市	Soja Archives	デザイン学部 髙橋　俊臣　准教授
総社市	「親子で楽しむ音楽会」開催による地域福祉・文化の向上	保健福祉学部 中野菜穂子准教授
総社市	井原鉄道総社駅改札前スペースの利活用	デザイン学部 畠　和宏　准教授
玉名市 （熊本県）	熊本県玉名市不登校児童生徒支援拠点「タマにゃん教室」を中心とした玉名市内における不登校児童生徒支援に関する研究	保健福祉学部 山本　孝司　教授

（２）受託研究

相手方	題目	研究代表者
岡山県 （産業労働部 産業振興課）	ポーラス皮膜を用いた耐腐食性と絶縁性、ゆるみ止め効果を有する異種材料接合部材の開発	情報工学部 金﨑　真人　助教
岡山県 （産業労働部 産業振興課）	電気自動車用トラクションインバータの低ノイズ化･高効率化の研究開発	情報工学部 坂口浩一郎助教

２．３　企業等との協働

この節では 2.2-4 で述べた自治体以外の企業等との共同研究、受託研究等も含めた実績について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の 4 つに分類できる。学部別の件数は以下のようになっている。金額については第 4 章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	14	17	18	49
受託研究	2	10	1	13
教育研究奨励 寄附金	11	20	15	46
合計	27	47	34	108

２．４　未来人材の育成・輩出

２．４―１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科

Ａ．看護学科

（１）教育状況

看護学科では、健康で豊かなその人らしい人生の実現を支援するための専門知識・技術と倫理観及び豊かなコミュニケーション能力を育み、地域におけるあらゆる健康レベルの人々の生涯を通じた健康を支援し、岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献できる人材を育成することを目指している。看護学科で取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格と助産師国家試験受験資格（4 名）であり、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度の看護学科の就職・進学率は 100％であった。就職者は 37 名で、就職先は、岡山大学病院、倉敷中央病院、倉敷成人病センター、岡山市立市民病院などの県内屈指の医療施設であり、県内就職率は62.2％であった。進学者は 3 名で、2 名は岡山県立大学大学院、1 名は県立広島大学の助産課程の大学院に進学した。

（３）その他

・国家試験の合格状況

国家試験合格率は、看護師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っていた。R4 年度の国家試験合格率は 100％であった。

国家試験合格率（％）

	看護師			助産師		
		本学	全国		本学	全国
H30 年度	108 回	97.5	91.0	102 回	100	99.6
R1 年度	109 回	97.7	89.3	103 回	100	99.4
R2 年度	110 回	100	90.4	104 回	100	99.6
R3 年度	111 回	100	91.3	105 回	100	99.4
R4 年度	112 回	100	90.8	106 回	100	95.6

Ｂ．栄養学科

（１）教育状況

栄養学科では、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身につけ、栄養学を人の健康・維持増進、疾病の予防、治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度の進路状況は、就職希望者に対する就職率は 100％(34 名)、大学院進学は 6 名であった。就職先の内訳は病院・社会福祉施設 12 名(35.3％)、行政・学校 5 名(14.7％)、企業 17 名(50.0％)であり、管理栄養士として就職したものは 24 名(70.6％)、事務、食品開発・販売等が 10 名(29.4％)であった。主な就職先としては、倉敷中央病院・倉敷成人病センター・水島協同病院等(病院)、国家公務員(食品衛生監視員)、岐阜県・兵庫県(栄養教諭・講師)、千葉市(管理栄養士)、エームサービス(株)・岡山市農業協同組合・(株)創味食品・オタフクソース(株)・(株)アスモフードサービス・(株)東洋食品等多岐にわたる。また、進学先は岡山県立大学大学院であった。

（３）その他

・国家試験の合格状況

栄養学科で取得可能な資格は下のとおりである。また、管理栄養士国家試験合格率は、令和 4 年度は 90.2％であった。これまでも 90％以上の高い水準を保っており(下表)、高度な専門知識と技術の修得を行っている。

栄養学科で取得可能な資格
・栄養士
・管理栄養士国家試験受験資格
・食品衛生管理者(任用資格)
・食品衛生監視員(任用資格)
・栄養教諭一種免許状

過去 5 年間の管理栄養士国家試験合格率(％)

卒 業 年 度	H30	R1	R2	R3	R4
本学	97.7	94.3	97.9	100	90.2
管理栄養士養成課程　全国・新卒	95.5	92.4	91.3	92.9	87.2
全体(既卒・栄養士養成校含)	60.4	61.9	64.2	65.1	56.6

Ｃ．保健福祉学科

（１）教育状況

複雑化・高度化された社会において、人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成 5 年 4 月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学(健康科学)、心理学、障害科学分野の教員も加わり、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない。平成 25 年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の 2 専攻に分かれ、令和元年度からは、社会福祉学専攻において、精神保健福祉士と認定スクールソーシャルワ

ーカーの養成を行っている。また、令和 3 年度からは、保健福祉学科は、現代福祉学科と子ども学科へと改組された。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度の保健福祉学科社会福祉学専攻の就職率は 97.7%であり、①公務員 4 名、②医療ソーシャルワーカー10 名、③社会福祉協議会 2 名、④社会福祉施設 18 名、⑤企業等 9 名、⑥大学院等進学 3 名、合計 46 名が就職・進学した。

また、保健福祉学科子ども学専攻の就職率は 100%であり、①公務員 2 名、②公務員（幼稚園・保育所・こども園関連）6 名、③学校法人（幼稚園・こども園）1 名、④社会福祉法人（保育所）9 名、⑤社会福祉法人（施設）1 名、⑥企業 2 名、合計 21 名が就職・進学した。

就職活動へのサポートとしては、①本学就職相談室及び就職相談（カウンセラー）の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人 NAVI システム利用に関する指導、③学科就職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供、⑤公務員試験合格者による公務員試験対策説明会などを積極的に実施した。

（３）その他

・国家試験の合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している。保健福祉学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

	合格率（%）	全体合格率（%）
平成 30 年度	92.7	28.9
令和元年度	82.5	29.3
令和 2 年度	67.5	29.3
令和 3 年度	76.3	31.1
令和 4 年度	86.7	44.2

Ｄ．看護学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

看護学専攻では、学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして、保健医療福祉分野における課題を解決し、国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え、貢献できる人材の育成を目指している。なお、保健師教育は法改正を機に、平成 25 年度から大学院博士前期課程で行っており、全国では 2 番目の開設である。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度看護学専攻の就職率は 100%であった。修了者 8 名（社会人学生 2 名）の中で、新規の就職者は 6 名であった。就職先は、社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院（1 名）に看護師として就職し、かつ本学の博士後期課程（看護学大

講座）へ進学した。また、保健師課程修了者は保健師（5 名）であり、岡山県内の淳風会健康管理センター（1 名）、兵庫県内の神戸市役所（1 名）、明石市役所（1 名）、公益財団法人加古川総合保健センター（1 名）、多摩市役所（1 名）へ就職した。社会人の修了生 2 名は、現職の川崎医療短期大学教員（1 名）と井原市立井原市民病院（1 名）に継続勤務している。

（３）その他

・国家試験の合格状況

保健師国家試験合格率は、5 年連続で全国平均を上回っていた。

国家試験合格率（%）

		保健師	
		本学	全国
H30 年度	105 回	100	81.8
R1 年度	106 回	100	91.5
R2 年度	107 回	100	94.3
R3 年度	108 回	100	89.3
R4 年度	109 回	100	93.7

Ｅ．栄養学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

栄養学専攻では、食品の機能性や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる優れた専門性を備えるとともに、豊かな創造力と問題解決能力を身に付け、それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

栄養学専攻では、令和 4 年度に 12 名（社会人学生 2 名を含む）が修了し、3 名が岡山県内へ、6 名が岡山県外へ就職した（就職率 100%）。就職先業種は、医療業、食品製造業などの専門職・研究職などである。それぞれの業界で活躍する人材を育成している。また、2 名が大学院博士後期課程へ進学した。

Ｆ．保健福祉学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

保健福祉学専攻では、保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる優れた専門性を備えた人材の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

保健福祉学専攻では、令和 4 年度に 5 名が修了した。その内、3 名は社会人院生であり、2 名が福祉関係企業等に就職した。

Ｇ．保健福祉科学専攻（博士後期課程）

（１）教育状況

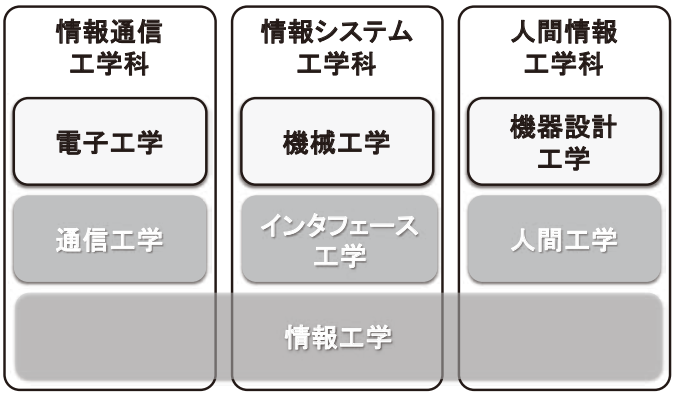
保健福祉科学専攻では、人間の健康問題に関して、看護・生命や栄養・福祉・教育などの各方面からアプローチし、保健福祉科学の係る学問をさらに深化させることにより、国内外の保健福祉関連の問題解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門領域の実践者、指導者、研究者および教育者などの育成を目指している。即ち、人間の健康に関する諸問題を解決するために、専門の知識や技術、高度な学問的見識を修得し、自立して研究できる研究者を目指す学生、国内外における保健福祉関連の問題を掘り起こして、その対策を立案し、国内に限らずグローバルにおける制度や計画作りに参加し、リーダーシップを発揮できる研究者を目指す学生、教育機関や企業、各種研究機関において自立して高度な教育研究に取り組める教育者及び研究者を目指す学生の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

保健福祉科学専攻では、大学教員、企業、研究所等の研究者又は教育者として修了生を輩出している。令和 4 年度においては、2 名が大学院博士課程を修了した。その内 1 名は博士後期課程在学中から大学教員であり、もう 1 名は大学等研究機関に研究員として就職した。

２．４―２　情報工学部・大学院情報系工学研究科

情報工学部では、「人、モノ、情報が織りなす未来へ」を掲げ、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3 つの学科を設置している。すなわち、3 学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、各学科の関連工学分野の知識と、それらを応用できる能力を育成することで、将来を見据えた技術者人材を輩出しており、令和 3 年度末までに 3,276 名の卒業生を世に送り出している。



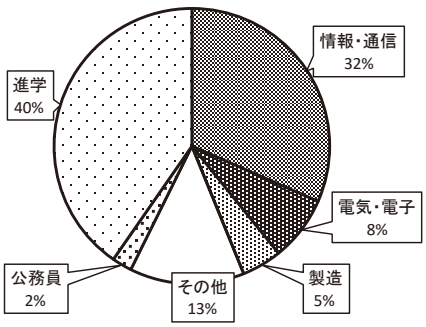
大学院情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら未来創造社会の持続的発展に、広い視野に立って貢献できる技術者及び研究者の育成を目指している。本研究科には博士前期課程(2 年)および、それに続く博士後期課程(3 年)を設置しており、令和 3 年度末までに 1,118 名に対して修士（工学）の学位を、70 名に対して博士（工学）の学位を授与している。

Ａ．情報通信工学科

（１）教育状況

情報通信工学科は、「「想い」を伝える新しい情報通信エンジニアに」を掲げ、日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学、通信工学、電子工学の 3 つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、ICT の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指している。令和 4 年 5 月 1 日現在の在学者数は 203 名である。

情報通信工学科



情報通信工学科の就職・進路内訳
（R1～R3 年度卒業生）

（２）就職・進学状況

平成 28 年度から令和 4 年度の就職・進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は概ね 30％前後で推移しているが、減少傾向にあるようにも思われる。就職率は好調に推移している。県内就職率は約 30％から 50％であり、卒業年度による変化が大きくなっている。就職先業種は、右図（令和 1～令和 3 年度の実績）に示すとおり、情報通信工学科の育成方針に沿った情報・通信業および電気・電子関係が中心である。

情報通信工学科の進路状況（H28～R4 年度卒業生）

卒業年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
卒業者数		61	57	57	53	65	56	47
進学者数		24	18	18	19	20	30	10
	進学率	39.3%	31.6%	31.6%	35.8%	30.8%	53.6%	21.3%
就職者数（起業等除く）		36	37	38	34	42	24	36
	就職率	97.3%	97.4%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
県内就職者数		19	18	19	10	17	12	20
	県内就職率	52.8%	48.6%	50.0%	29.4%	40.5%	50.0%	42.6%

Ｂ．情報システム工学科

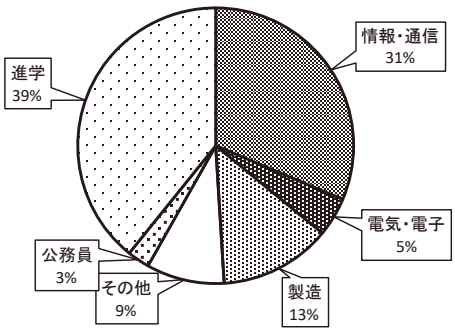
（１）教育状況

情報システム工学科は、「機械と情報が織りなす未来を切り拓く」を掲げ、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を修得し、領域横断型のエンジニアとしてのセンスをもって、グローバル社会において豊かな教養と人間性に基づき、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる技術者の育成を目指している。令和 4 年 5 月 1 日現在の在学者数は 230 名である。

（２）就職・進学状況

平成 28 年度から令和 4 年度の就職・進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は約 30%～50%で推移しているが、進学者数ベースでは増加傾向である。就職率は好調に推移している。県内就職率は卒業年度によって変化が大きいものの概ね 40%を越えており、製造業の多い県内の産業構造を表している。就職先業種は、右図（令和 1～令和 3 年度の実績）に示すとおり、情報システム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心である。

情報システム工学科



情報システム工学科の就職・進路内訳
（R1～R3 年度卒業生）

情報システム工学科の進路状況（H28～R4 年度卒業生）

卒業年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
卒業者数		53	49	46	54	60	46	56
進学者数		12	18	20	17	22	21	24
	進学率	22.6%	36.7%	43.5%	31.5%	36.7%	45.7%	42.9%
就職者数（起業等除く）		41	29	26	34	34	23	30
	就職率	100.0%	93.5%	100.0%	94.4%	91.9%	100.0%	96.8%
県内就職者数		27	15	16	11	16	11	13
	県内就職率	65.9%	51.7%	61.5%	32.4%	47.1%	47.8%	43.3%

Ｃ．人間情報工学科

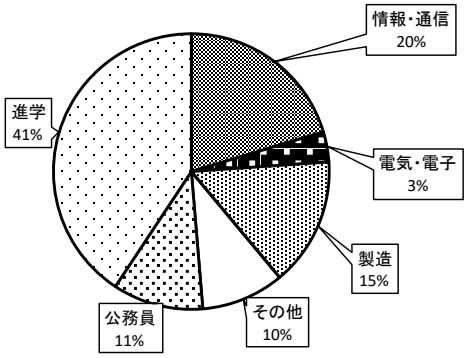
（１）教育状況

人間情報工学科は、「人に寄り添うモノづくりのためのヒトづくり」を掲げ、人間の生活環境を支える情報工学と、人間の能力や特性をモデル化する生体機能学、情報技術をものづくりに活かした機器設計学の 3 つの学問領域に関する深い知識および技術の活用と、グローバルな視点から多種多量な情報が組み込まれた人間との高い親和性をもつ新たなソフトウェア・ハードウェアの設計・開発ができる技術者の育成を目指している。令和 4 年 5 月 1 日現在の在学者数は 162 名である。

（２）就職・進学状況

平成 28 年度から令和 4 年度の就職・進学状況は次表のとおりである。大学院への進学率は概ね 25%前後で推移しているが、令和 2 年度は急増している。就職率は好調に推移している。県内就職率は概ね 40%を越えている。就職先業種は、右図（令和 1～令和 3 年度の実績）に示すとおり、半数は、人間情報工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心であるが、公務員比率が他学科と比べて大きい。

人間情報工学科



人間情報工学科の就職・進路内訳
（R1～R3 年度卒業生）

人間情報工学科の進路状況（H28～R4 年度卒業生）

卒業年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
卒業者数	43	37	39	53	37	48	43
進学者数	14	8	10	14	17	15	11
進学率	32.6%	21.6%	25.6%	26.4%	45.9%	31.3%	25.6%
就職者数（起業等除く）	29	29	29	39	19	33	31
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
県内就職者数	12	16	11	17	8	15	12
県内就職率	41.4%	55.2%	37.9%	43.6%	42.1%	45.5%	38.7%

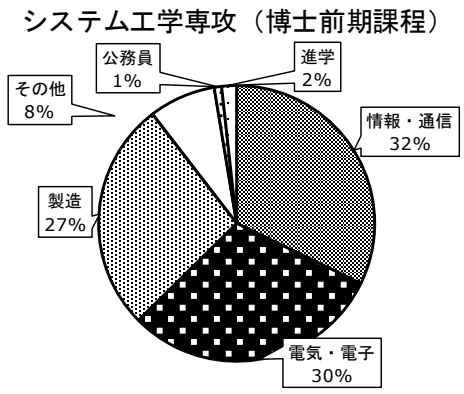
Ｄ．システム工学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

システム工学専攻（博士前期課程）では、ディジタル革新による未来創造社会の発展を支えるため、電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学等の分野で、地域産業の振興をリードできる高度な専門技術者の育成を目指している。令和 4 年 5 月 1 日現在の在学者数は 113 名である。

（２）就職・進学状況

平成 28 年度から令和 4 年度の就職･進学状況は次表のとおりである。就職率は好調に推移している。県内就職率は 20%から 40%程度であり、修了年度による変化が大きくなっている。就職先業種は、右図（令和 1～令和 3 年度の実績）に示すとおり、システム工学専攻（博士前期課程）の育成方針に沿った情報・通信業、電気･電子および製造業が中心であり、その割合は学部卒業より高くなっている。



システム工学専攻（博士前期課程）の
就職・進路内訳（R1～R3 年度修了生）

システム工学専攻（博士前期課程）の進路状況（H28～R4 年度修了生）

修了年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
修了者数		59	48	42	40	44	38	47
進学者数		1	0	0	0	0	2	0
就職者数（起業等除く）		55	47	40	39	41	34	43
	就職率	96.5%	100.0%	97.6%	97.5%	97.6%	94.4%	93.5%
県内就職者数		11	18	10	3	10	6	8
	県内就職率	20.0%	38.3%	25.0%	7.7%	24.4%	17.6%	18.6%

Ｅ．システム工学専攻（博士後期課程）

（１）教育状況

システム工学専攻（博士後期課程）では、ディジタル革新による未来創造社会の多様な要請に応えるべく、専門分野において、理論や技術を深く修得し、新たな問題を発見し解決することによって、既存の枠組みにとらわれない総合的･先端的知識や技術を切り開くことができる技術者、研究者の育成を目指している。令和 4 年 5 月 1 日現在の在学者数は 9 名であり、その大部分は社会人である。

（２）就職・進学状況

システム工学専攻（博士後期課程）では在学生の大部分が社会人のため、就職･進学状況は省略する。

２．４―３　デザイン学部・大学院デザイン学研究科

優れたデザインは時代を映す象徴になり、時代を超えて支持される。デザイン学部では、本学の理念に沿う実学の体現者として、変化する社会のなかで、豊かな生活と新たな文化の形成に必要なデザイン力とマネジメント能力を備え、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指して令和 3 年度からビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科の 3 学科に再編した。

大学院デザイン学研究科は、造形性に富み、多様化したデザイン環境に対応する高度な専門知識・能力・技術と総合的な視野を備えた、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指している。

卒業生は、岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されているが、近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生・修了生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に取り組んでいく。

ビジュアルデザイン学科
第 21 回「北方領土の日」
ポスターコンテスト
最優秀賞（総合）

造形デザイン学科
第 28 回ヤングセラミスト・
ミーティング in 中四国　大賞

デザイン工学科
広島平和祈念卒業設計展 2023
最優秀賞

Ａ．デザイン工学科

（１）教育状況

デザイン工学科では、共通教育に加えて、製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市デザイン領域での専門教育により、これらの国際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指している。また、本学卒業生を含むデザイナー・建築家・自治体関係者などを招いての授業や講演を数多く設定しており、実社会におけるデザインワークの体験的な理解を深めることを目指している。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度には、42 名がデザイン工学科を卒業した。就職率は 97.1％で、このうち岡山県内への就職者は 12 名（就職者の約 36％）となっている。また、5 名が大学院に進学した。

主な就職先は、建設設計業、デザイン業のほか、建築業、製造業、情報通信業、広告業まで幅広い分野への人材輩出を行っている。

Ｂ．造形デザイン学科

（１）教育状況

造形デザイン学科では、共通教育に加えて、ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により、素材の知識や技法の修得にとどまらず、デザインや造形を通してどう社会と関わっていくかまで企画提案するデザイン力やコミュニケーションを発揮できる、 デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指している。

また、地域協働プロジェクトの授業課題への積極的導入や、本学卒業生を含むデザイナーを主としたポートフォリオセミナーや就活ガイダンスを複数回実施するなど、専門的デザインスキルの向上やキャリアプランを強く意識させる場を多様なかたちで設け、将来を担うデザイナーとしての意識と能力向上を目指している。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度には、44 名が造形デザイン学科を卒業した。就職率は 94.9％で、このうち岡山県内への就職者は 12 名（就職者の約 32％）となっている。また、2 名が大学院に進学した。

主な就職先は、デザイン業、広告業、映像制作業、印刷業のほか、小売業、製造業、情報通信業まで幅広い分野への人材輩出を行っている。

Ｃ．デザイン工学専攻

（１）教育状況

デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門的知識・能力・技能をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度には、4 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は 100％で岡山県内への就職者は 0 名であった。

Ｄ．造形デザイン学専攻

（１）教育状況

造形デザイン学専攻は、造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、独創的で造形性豊かなデザイナー及び研究者を育成することを目指している。

（２）就職・進学状況

令和 4 年度には、3 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は 100％で岡山県内への就職者は 1 名であった。

２．５　その他の社会貢献

２．５―１　各種委員等への派遣（行政関係以外）

本学における令和４年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・各種団体等	計
保健福祉学部	10	80	90
情報工学部	3	35	38
デザイン学部	1	12	13
合　計	14	127	141

本学における令和４年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・各種団体等	計
保健福祉学部	6	51	57
情報工学部	4	10	14
デザイン学部	6	3	9
合　計	16	64	80

本学における令和４年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	非常勤医師	非常勤講師	役　員	計
保健福祉学部	3	41		44
情報工学部		20	1	21
デザイン学部		19		19
合　計	3	80	1	84

２．５―２　職員表彰

（１）学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった本学教職員 4 名を表彰し、令和 4 年 10 月 24 日(月)に理事長(学長)から表彰状と記念品を授与した。

①　教育表彰

職　名	氏　名	表彰理由
教授	安久津　太一	岡山県立大学キャンパスソング＜鮮緑の風＞の創作にあたり、学生の指導や学内の連携、広報を含め、曲の完成に至る過程において全学的なプロジェクトの達成に貢献し、本学の発展に尽くした功績は誠に顕著であった。
教授	嘉数　彰彦	平成 19 年教授昇任以来、メディアコミュニケーション推進センター長、デザイン学部長、広報メディアセンター長などを歴任し、デザイン学部改組をはじめとする本学の教育改革に尽くした功績は誠に顕著であった。

②　研究表彰

職　名	氏　名	表彰理由
教授	山本　登志子	脂質生化学分野の研究を専門とし、多くの研究実績があり、学位論文指導にも尽力するとともに、異分野融合共同研究、並びに産学連携に貢献し、本学の認知度向上に寄与した功績は誠に顕著であった。

③　国際貢献表彰

職　名	氏　名	表彰理由
教授	伊藤　照明	グローバル教育授業開講、ドイツ及びマレーシアとの学術交流協定締結、国際シンポジウムの実施などを通じてグローバル教育及びグローバルマインド育成に大きく貢献し、本学における国際交流の発展に尽くした功績は誠に顕著であった。

（２）学外表彰

学部	職名	氏名	内容
保健福祉	准教授	名越　恵美	発表論文「循環器専門病院看護師の心不全患者に対する意思決定支援の実践」が第 27 回日本緩和医療学会学術大会優秀演題賞受賞
保健福祉	准教授	岡﨑　愉加	令和 4 年度岡山県看護協会長表彰
保健福祉	教授	久保田　恵	全国栄養士養成施設協会会長表彰
保健福祉	助教	津嘉山　泉	「Diosgenin, a natural steroidal saponin, suppresses COX-2 and mPGES-1 via the glucocorticoid receptor and improves LPS-induced liver injury in mice」が 2nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition において、Young Investigation Excellent Abstract Award を受賞

学部	職名	氏名	内容
保健福祉	助教	津嘉山　泉	「Inhibition of arachidonate 5-lipoxygenase and amelioration of psoriasis-like skin symptoms by malabaricone C derived from nutmeg」が 17th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation, and Related Diseases において Journal of Prostaglandins and Other Lipid Mediators Travel Award を受賞
保健福祉	准教授	大倉　高志	同志社大学社会福祉学会第 37 回年次大会において、同志社大学社会福祉学会賞　学術研究部門　社会福祉研究賞受賞
保健福祉	准教授	喜村　仁詞	図書「学生募集広報の戦略と実践」が 2022 年度（第 17 回）日本広報学会賞（研究奨励賞）受賞
保健福祉	准教授	小畑　千晴	研究「雑草型幼児教育人材育成～キャンパスをフィールドにした自然資本の活用～」が公益信託エスペック地球環境研究・技術基金において、エスペック環境研究奨励賞を受賞
デザイン	教授	向山　徹	
保健福祉	教授	安久津　太一	
保健福祉	助教	児玉　太一	作品「Graftage_22_06」がⅤ　International Mini Print Cantabria 2022 おいて、Second Prize を受賞
保健福祉	助教	児玉　太一	作品「Scenery over there_23_01」が第 21 回南島原市セミナリヨ現代版画展において、朝日新聞社賞を受賞
情報工	特任教授	渡辺　富夫	第 23 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 2022 において、優秀研究賞受賞
情報工	准教授	徳永　義孝	電気学会の上級会員に認定
情報工	助教	芝　世弐	第 32 回世界コンピュータ将棋選手権準優勝
情報工	助教	芝　世弐	第 3 回世界将棋 AI 電竜戦本戦独創賞、B 級優勝
情報工	教授	綾部　誠也	論文「Match activity characteristics in second division of Japanese professional football: three years of full-season analyses using global navigation satellite system」が Football Science Best Research Paper Award 受賞
	助教	大山　剛史	
情報工	教授	伊藤　照明	令和 4 年度岡山工学振興会科学技術賞受賞
デザイン	教授	関﨑　哲	会員優賞（作品「彼の居場所」、第 75 回記念二紀展・国立新美術館）受賞
デザイン	准教授	風早　由佳	第 44 回両備樫園記念財団文化・芸術・教育に係る研究奨励賞受賞
デザイン	教授	南川　茂樹	第 6 回 Woody コンテスト佳作受賞
デザイン	教授	三原　鉄平	共同研究を実施したセイショク株式会社の「NUNOUS」が 2022 年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞

学部	職名	氏名	内容
デザイン	教授	三原　鉄平	共同研究を実施したセイショク株式会社の「NUNOUS」が第 5 回エコプロアワード優秀賞を受賞
デザイン	准教授	渡邉　操	共著論文「テンションを変化させた平織りのシュミレーション－平織りにおける経糸と緯糸の伸縮を用いた、三次元構造を形成するアルゴリズムの構築」が芸術工学会第 5 回論文賞受賞
デザイン	助手	今田　千裕	第 3 回全国大学選抜染色作品展で最優秀賞受賞
デザイン	助教	畠　和宏	共著発表「日常時から災害時まで活用可能な木組みシステムの開発」が 2022 年度日本建築学会大会建築デザイン発表会のテーマ部門「リユースできる建築構造デザイン」において優秀発表として顕彰
デザイン	助教	畠　和宏	ヒトトゴハン株式会社と畠研究室で共同研究した作品「sense TSUYAMA（旧津山市立東幼稚園プロジェクト）」が第 16 回キッズデザイン賞を受賞
デザイン	助教	畠　和宏	畠研究室が提案した「FUDAN-GI」がフェーズフリーアワード 2022 アイデア部門で入選

※職名は、受賞当時のもの。

３．地域創造戦略センターでの活動

３．１　地域創造戦略センター

３．１―１　体制

社会に対する大学のかかわりは、社会還元、社会貢献、社会連携と言葉を変え、「あるべき地域社会を共に創っていく」という段階に移っている。

この流れを受けて、岡山県立大学は、社会連携を担う組織を集約し、産学連携、地域連携、社会連携教育、ボランティアの 4 つの部門を持つ地域創造戦略センターを設置している。

令和 4 年度の体制は、以下のとおりである。

◎は部門長

役　職　名	氏　名		所　属　等
センター長	佐藤洋一郎	教　授	学長補佐・人間情報工学科
副センター長	伊藤　信之	教　授	情報通信工学科
	三原　鉄平	教　授	工芸工業デザイン学科
	髙戸　仁郎	教　授	現代福祉学科
	岩満　賢次	教　授	現代福祉学科
	大坪　芳充	課　長	事務局　地域連携・研究推進課
吉備の杜推進室	佐藤洋一郎	室　長	地域創造戦略センター長,URA
	三宅　　昇	渉外担当PD	
	渡邉　　守	副室長	統括プログラムディレクター
	村井　聡紀	PD	統括補佐プログラムディレクター
	藤成　靖司	PD	
	藤川　　勝	PD	
	武本　浩和	PD	
産学官連携部門	◎伊藤　信之	教　授	情報通信工学科
	山本登志子	教　授	栄養学科
	尾﨑　公一	教　授	情報システム工学科
	穂苅　真樹	教　授	人間情報工学科
	村木　克爾	教　授	工芸工業デザイン学科
	中西　俊介	准教授	ビジュアルデザイン学科
	渡邉　淳司	准教授	地域創造戦略センター専任教員
地域連携部門	◎三原　鉄平	教　授	工芸工業デザイン学科
	綾部　誠也	教　授	人間情報工学科(共・兼務)
	吉田　　豊	教　授	建築学科
	高橋多美子	教　授	子ども学科
	佐藤ゆかり	准教授	現代福祉学科
	石井　　裕	准教授	情報システム工学科
	名越　恵美	准教授	看護学科・研究会担当
	渡邉　淳司	准教授	地域創造戦略センター専任教員

◎は部門長

役　職　名	氏　名		所　属　等
社会連携教育推進部門	◎高戸　仁郎	教　授	現代福祉学科
	関﨑　哲	教　授	ビジュアルデザイン学科
	関根紳太郎	教　授	看護学科
	岩満　賢次	教　授	現代福祉学科
	小畑　千晴	准教授	子ども学科
	都島　梨紗	講　師	栄養学科
	渡邉　淳司	准教授	地域創造戦略センター専任教員
ボランティア部門	◎岩満　賢次	教　授	現代福祉学科
	齋藤　誠二	教　授	キャリア・学生生活支援センター長
	南川　茂樹	教　授	工芸工業デザイン学科
	渡邉　淳司	准教授	地域創造戦略センター専任教員
共通	森　　貴子	総括参事	事務局　地域連携・研究推進課
	黒川しのぶ	CD	事務局　地域連携・研究推進課
	坂本　浩子	CD	事務局　地域連携・研究推進課
	武田　吉弘	CD	事務局　地域連携・研究推進課
	藤木　　一	CD	事務局　地域連携・研究推進課
	栗木　隆吉	CD	事務局　地域連携・研究推進課

３．１―２　重点領域研究

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成 19 年度から、研究と社会貢献活動のレベルアップを目指した異分野複数教員の連携による「領域・研究プロジェクト」活動を推進してきた。平成 29 年度から「重点領域研究」と名称を改め本学として設定した「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の 3 重点領域を設定し、令和 4 年度は次の 7 研究を推進した。

令和 4 年度「重点領域研究」

領　域	■研究組織名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　　容
健康・福祉	■自己他者ウェルビーイング「コーポラティブ・マシン・インテリジェンスを用いた自己と他者のウェルビーイングの研究」 ○岩橋直人、坂野純子、澤田陽一、樟本千里、趙敏廷、齋藤美絵子、伊藤照明、石井裕、渡辺富夫	ウェルビーイングは「健康」「幸せ」「福祉」を含む概念である。本研究は、代表者が開発したコーポラティブ・マシン・インテリジェンス技術を用いて自己と他者の関係性に依存したウェルビーイングの測定と向上の方法を開発することを目的とする。特に、コミュニケーション教育とメンタルヘルス・福祉の分野に注力する。本研究の成果を、岡山県を日本最高のウェルビーイングエリアにする活動の起爆剤とする。

領　域	■研究組織名、「研究課題」 メンバー(○:代表者)	内　　容
健康・福祉	■看護教育質改善グループ 「学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発」 ○住吉和子 渡辺富夫、関根紳太郎、 岡﨑愉加、藤堂由里	看護学士課程教育の日本看護系大学協議会の示す専門職としての能力(コアコンピテンシー)を理解する方法として千葉大学で開発されたマザーマップについて、教員を対象とした研修会を開催した。本学の在校生3、4年生を対象として、「わかった」という体験についてグループインタビューを行い、講義、演習、実習での学びの現状を明らかにした。講義では難しい内容であっても毎時間の復習と小テストでの振り返りにより「わかった」に繋がっていた。演習で行う実技は、臨地実習で実際に実施して「わかった」に繋がっていた。講義、演習、実習において、学生の「わかった」を促進するためには、小テストや振り返りなど教員の細やかな支援と学生の努力が必要であることが示唆された。
健康・福祉	■第 2 段階に達した高齢社会に対する栄養・腸内環境からのアプローチ 「重度心身障害児(者)における食事支援としての米麹甘酒の有効性」 ○入江康至、 井上里加子、綾部誠也、 佐藤ゆかり	重症心身障害児(者)(以下、重症児(者)と略)の特性を踏まえた臨床現場や居宅での実践性を有する新しい便秘改善の栄養療法の確立を目指す。さらに重症児(者)の多くが寝たきりの者が多い事から、米麹甘酒が高齢者を含め寝たきりや摂食嚥下困難者に対して実践的な便秘改善への応用も期待する。 重症児(者)も高齢化し、超高齢化社会に突入した我が国、また岡山県においても重要な課題である。本研究はその解決のための重要な基盤を与える研究である。
健康・福祉	■健康寿命を鑑みたヒト介入試験 「地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験」 ○綾部誠也 齋藤誠二、大山剛史、 入江康至、久保田恵、 住吉和子、井上里加子、 齋藤美絵子	本研究は、地域課題を科学的根拠の実践により解決することを目指すものであり、本学の高度な専門知識をもって高齢化や医療費高騰などの健康福祉分野における我が国の喫緊の課題解決に貢献できるエビデンス創出を目指す。本研究は、「ヒトを対象とする比較対照介入試験」を実施することにより、信頼性の高いエビデンスが得られることを特徴とする。

領　域	■研究組織名、「研究課題」 メンバー(○:代表者)	内　　容
地域・環境	■「雑草型」幼児教育人材 「「雑草型」幼児教育人材の育成を見据えた地域・国際参加・協働型アクションリサーチ」 ○小畑千晴 伊東秀之、川上貴代、 安久津太一、 デスマレス・エリック、 嘉数彰彦、向山徹、畠和宏	岡山県立大学キャンパスの自然環境との関わり合いを通して、「雑草型」幼児教育人材の育成を行う。変化する環境への柔軟な対応力と適応力を会得し、食やデザインを含むアート等、高い専門性と国際性、豊かな人間力が交錯する場として本学キャンパスを位置づける。子ども学科 1、2 年生を対象とし、地域連携や「吉備の杜クリエーター課程」との連関も可能とする。
モノ・コトづくり	■身体的コミュニケーション技術 「身体性メディアを活用したインタラクション支援技術」 ○石井裕 渡辺富夫、佐藤洋一郎、 川上貴代、西田麻希子、 髙林範子	本研究では身体的コミュニケーション技術を統合展開し、生活情報技術としての有効性を実証する。具体的には、高齢者施設でのコミュニケーション支援や看護・栄養教育コミュニケーション支援への応用展開を検討する。またロールプレイ対話による教育応用をより具現化するため、具体的な課題に即した仮想対話空間を構築し、身体動作、韻律情報、視線などの情動表出、それらのタイミングのずれによる影響など、身体的アバタのノンバーバル情報及び生体情報の各種情報を除去、追加、加工して身体的コミュニケーション及びインタラクション場を生理指標(心拍、呼吸等)とともに体系的に解析する。
モノ・コトづくり	■車いす開発ワーキング 「機械式パワーアシストシステムを有する車椅子の快適性の向上と実用化への取り組み」 ○大田慎一郎 吉田智哉、髙戸仁郎	本研究では、スロープ等の斜面走行で車椅子の介助者に生じる負荷を軽減するための機械式パワーアシスト機構を開発している。この機械式パワーアシスト機構の有効性を検証するため、パワーアシストの有無による斜面走行の影響調査を目的とした走行実験を実施している。この実験結果を基に、介助者－車椅子－補助機構系の理論モデルを構築し、最適な補助機構を開発する予定である。

３．１―３　ＯＰＵフォーラム２０２２

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的として、毎年開学記念日頃に開催している。令和 4 年度は「地域とデザインマネジメント」と題して 3 年ぶりに対面で開催した。本学講堂、学部共通棟(北)及び学部共通棟(南)において特別講演、研究ポスター展示などを行い、たくさんの方に来場いただいた。

○概要

(1)開催日時 ： 令和 4 年 5 月 27 日(金) 11:00～17:00

(2)統一テーマ ： 地域とデザインマネジメント

(3)開催内容

プログラム

■特別講演 13:10～14:10(講堂)

演 題:「デザインする行為」

講演者:エムテド代表取締役／アートディレクター、デザイナー 田子 學 氏

■研究・活動展示 12:00～14:00(前半)、15:00～17:00(後半)

学部共通棟(南)・(北) 1 階屋外廊下

本学の研究紹介展示 ： 117 件

企業・団体展示 ：18 件

■地域の食 11:00～売り切れまで(野外テント:講堂前)

OPU フォーラム 2022 研究シーズ一覧

区分	No.	テーマ名	担当者名
健康・福祉・介護	1	吉備の杜プロジェクト災害時の食管理・選択のための媒体開発	森永裕美子他
	2	ノックアウトマウスを用いて 12－リポキシゲナーゼの肝における役割解明	高橋吉孝、戸田圭祐、川上祐生、山本登志子、玉井玲名
	3	若年成人期からの高血圧予防支援ツールの検討	久保田恵
	4	肝星細胞の血小板型 12－リポキシゲナーゼ発現調整機構に関する研究	戸田圭祐、川上祐生、山本登志子、高橋吉孝 他
	5	認知機能・運動機能の自己認識に対する加齢の影響	中村光、磯村晃一
	6	軽度の認知機能障害の予測を企図した認知機能評価とVBM 解析	澤田陽一
	7	Social Impact Bond 事業参加者の歩数と歩行日数の変化	井上祐介 他
	8	メンタルヘルスとコミュニケーション教育のための協力認知の研究-人工知能アプローチ-(体験型デモあり)	岩橋直人、坂野純子、澤田陽一、齋藤美絵子、樟本千里
	9	貧困状態にある子どもに対する支援内容と文化資本・社会関係資本の関連性に関する研究	近藤理恵、金頭賢
	10	屋内利用を考慮した視覚障がい者誘導用ブロックの開発と評価	高戸仁郎、伊勢菜摘、植野英一、田内雅規
	11	実践力を養う分野横断的ソーシャルワーク演習の実際	竹本与志人、桐野匡史、口村淳
	12	長期化する新型コロナウイルス感染症下における大学生への生活問題:2020 年度と 2021 年度の比較から	岩満賢次
	13	家族の自殺で残された子どもに対する支援を開始する際の 3 つの着眼点	大倉高志
	14	新人の介護職員がとらえる自己成長感趙敏廷	趙敏廷

区分	No.	テーマ名	担当者名
看護・医療	1	看護職者の職務満足を高める要因の検討	荻野哲也　他
	2	看護介助動作における感染防護服表面の汚染領域の特定評価	森本美智子、清水毅
	3	独居高齢者のセルフ・ネグレクト支援における民生委員の困難感とソーシャル・キャピタルの関連	森永裕美子　他
	4	地域在住高齢者の医療・ケア方針の表明への関連要因の検討	實金栄、名越恵美、難波香
	5	地域包括ケア病棟看護師長における高齢者がん患者に対する看護実践のマネジメント	名越恵美、實金栄、石川静香、柳本亜由美
	6	摂食障害の予防に関する知識と摂食障害傾向の関連について	實盛芹奈、井上幸子
	7	看護技術教育用オンライン教材を用いた学習に対する学生の評価	佐藤美恵、髙林範子
	8	思春期女性のやせとそれに伴う月経異常の観点から摂食障害の一次予防を目的とした健康教育教材の開発	岡﨑愉加
	9	ゴールド・メソッドを用いたシミュレーション教育プログラムの開発	犬飼智子、名越恵美
	10	高齢末期心不全患者の心理的苦痛に対する看護実践に関する研究	井上かおり、實金栄、名越恵美
	11	思春期ピアサポート活動によって得られる大学生のがん予防の知識	川下菜穂子
	12	注意欠如/多動症（AD/HD）と診断された子どもをもつ母親の子育て役割意識と子育て困難感－AD/HD 症状をもつ母親ともたない母親との比較－	網野裕子、沖本克子
	13	マニキュアの塗布が経皮的酸素飽和度に及ぼす影響	佐々木新介　他
	14	重度心身障害児（者）における食事支援としての米麹甘酒の有効性	入江康至、井上里加子、原野かおり、佐藤ゆかり、綾部誠也
	15	癌幹細胞をターゲットとした新しい栄養管理の開発	首藤恵泉
	16	高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係について	井上里加子、入江康至、山辺啓三
食品・生活	1	岡山県特産クラフトビールの開発を目的とした野生ビール酵母の探索	田中晃一
	2	母乳の脂質の質と栄養生理学的意義の解明	山本登志子、津嘉山泉、岡﨑愉加、長崎祐樹、丸岡紗也
	3	トウビシに含まれる新規ポリフェノール成分の構造解析	伊東秀之、岩岡裕二、早川智紗、上村知広
	4	食事環境が咀嚼および生体指標に及ぼす影響	川上貴代、山本登志子、穂苅真樹、石井裕　他
	5	タウリンの骨格筋における機能性に関する研究	山下広美、丸田ひとみ
	6	炎症性脂質メディエーターの合成を阻害する熱帯果樹の葉に含まれる有効成分の解析	川上祐生、伊澤歩、岩岡裕二、戸田圭祐
	7	魅力ある給食を目指した米粉カレーレシピの開発	田淵真愉美
	8	岡山県産パクチー‘岡パク’の特徴	丸田ひとみ、山下広美、桑田七帆

区分	No.	テーマ名	担当者名
	9	ジオスゲニンの PGE2 合成系酵素発現抑制とマウス急性肝障害への効果	津嘉山泉、戸田圭祐、川上祐生、高橋吉孝、山本登志子
	10	電気泳動を利用したプロアントシアニジンオリゴマーと血中タンパク質複合体の高感度検出法の検討	岩岡裕二、伊東秀之
	11	地域連携を基盤とする健康支援のためのヒト介入試験	綾部誠也、齋藤誠二、大山剛史、久保田恵、入江康至、井上里加子、住吉和子、齋藤美絵子
	12	ユーザ・アジャスタブルな減災情報提供システムの検討	齋藤美絵子、風早由佳、佐藤ゆかり、齋藤誠二、綾部誠也、大山剛史
	13	戸建て住宅のデザインの研究・開発	西川博美
デザイン	1	除振台製品ブランドにおけるロゴデザインの開発	野宮謙吾
	2	大学広報グッズの事例調査と県大グッズの研究開発	中西俊介
	3	総社市議選における投票率向上を目的とした選挙啓発動画の制作	山下万吉
	4	デザイン思考を取り入れた地域 PR	髙橋俊臣
	5	キッズルーム改修のためのデザイン	南川茂樹　他
	6	ウィズコロナ・ポストコロナ時代の安心・安全な地域連携型教育プログラムの実践研究	島田清徳、難波久美子、真世土マウ、作元朋子、渡邉操、岡本汐加
	7	運動用衣服のパターンを用いた作業用衣服の制作	舩山俊克
	8	竹水を主成分とした化粧水のデザインについての考察	舩山俊克
	9	閑谷学校の歴史的・文化的価値に関する研究3−石塀について	向山徹
	10	木を用いた仮設装置の開発とそれによる仮設的な場の創出	畠和宏
	11	津山市「旧東幼稚園プロジェクト」における建築及び什器デザイン	畠和宏
	12	学校施設のトイレに求められる音環境の探索	原田和典
ものづくり技術	1	Si結晶中の拡張格子欠陥の構造と安定性に関する人工ニューラルネットワークポテンシャル解析	末岡浩治、野田祐輔、横井達矢
	2	共振器サイズが波動カオスモードに与える影響	福嶋丈浩
	3	イースト菌に対する 5.8GHzマイクロ波照射の効果検討に関する研究	岸原充佳
	4	ヘルムホルツ共鳴器を組み込んだスリットアレイ構造の音波透過特性	坂口浩一郎、高木翔太郎、岡本隆弘、小野凌平
	5	生産内示方式をとるサプライチェーンの外乱に対する挙動の分析	妻屋彰、青木隼人
	6	情報家電機器充電時における高調波電流の位相特性	徳永義孝

区分	No.	テーマ名	担当者名
	7	射出成形合金の降伏応力推定法の精度向上	福田忠生、尾崎公一
	8	炭素繊維強化熱可塑性プラスチックの接合と修復	金崎真人
	9	ゼラチンカプセルスラリーを用いた熱エネルギー輸送技術実現に関する研究	春木直人
	10	車いすの新規機械式パワーアシストシステムの開発	大田慎一郎、吉田智哉、高戸仁郎
	11	機械的微振動の可視化と機械診断	吉田智哉
	12	自社ブランド製品の開発を目指す企業を支援する産学共同研究の実践	村木克爾、市川正美、高戸仁郎
	13	台湾国立台南藝術大学との工芸分野における協働研究	難波久美子、島田清徳、真世土マウ、作元朋子、渡邉操、岡本汐加
IT	1	高速かつ高効率な通信システムに関する基礎研究	稲井寛、若林秀昭、荒井剛　他
	2	Beyond5G をめざした準ミリ波～ミリ波集積回路	伊藤信之、栢野陽平、橋本佳紀、林祐樹
	3	Beyond5G をめざした高周波集積回路	伊藤信之、瀬口慎一郎、吉岡大
	4	折り返し構造を用いた非相反 CRLH-WG による可変移相器の提案	大久保賢祐
	5	Q学習を用いたランダム・アクセス方式の設計とその性能評価	榊原勝己、高林健人、香山和寛、原佑輔
	6	深層学習を用いた写真の審美的品質推定と改善	滝本裕則、金川明弘、坂口太一、北山晃生
	7	仮想計算機モニタによる重要サービス不可視化の研究	佐藤将也
	8	多変量回帰分析手法を応用した組合せ最適化アルゴリズムの開発	野田祐輔、ゴータムビスヌプラサド
	9	スマート工場における無線ネットワーク化制御システムに適したクロスレイヤ設計	高林健人、香山和寛、原佑輔
	10	画像伝送量削減のための画像欠損・復元手法の検討	小椋清孝　他
	11	環境自律適応型追加学習エッジ AI アルゴリズムとアーキテクチャの検討	有本和民、横川智教
	12	人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	渡辺富夫、石井裕、西田麻希子、高林範子他
	13	多様な動作でかかわりを深める音声対話エージェントの研究開発	石井裕、渡辺富夫、佐藤洋一郎、川上貴代、西田麻希子、高林範子
	14	パーソナライズされた不具合を含む変更の予測手法の転移に関する研究	天嵜聡介
	15	多人数不完全情報ゲームにおけるより人間的なアルゴリズム	但馬康宏
	16	ノーコード・ローコードによる直感的かつ効率的なモデル検査環境の構築	横川智教、豊田起万

区分	No.	テーマ名	担当者名
	17	プロ棋士に信頼される将棋 AI	芝世弐
	18	圧電素子による咀嚼の計測システムに関する研究	穂苅真樹、川上貴代
	19	遠隔者とのかかわりを実感させる遠隔コミュニケーションのための基礎研究	伊藤照明、大山剛史
	20	自律分散型高機能監視カメラシステムの開発	佐藤洋一郎、太田俊介、近藤真史
	21	内視鏡カメラ位置姿勢推定システム「ラパロ SLAM」の開発	小枝正直
	22	反応時間課題における左右の非対称性に言語情報の利用が与える影響に関する研究	大山剛史
文化・地域づくり・教育・スポーツ・その他	1	コロナ禍における DANCE ALIVE の新しい展開	新山順子、岡本悦子、黒川しのぶ　他
	2	写真作品の作品性に関する研究―オンライン写真作品審査にみられる課題―	北山由紀雄
	3	プリンティング表現の教育・普及に関する研究	関﨑哲
	4	竹久夢二のマザーグース翻訳研究と CLIL 学習への応用	風早由佳、野宮謙吾、柴田奈美　他
	5	古代エジプトファイアンスの研究	作元朋子
	6	岡山アウトリーチによる地域観光推進事業	関根紳太郎、石井裕、山下万吉
	7	学民連携による地産地消メニューの開発（報告）	坂野純子、難波久美子　他
	8	平成 30 年西日本豪雨災害記憶誌編纂	佐藤ゆかり、齋藤美絵子、日笠優希実　他
	9	真庭観光局と連携した人物紹介冊子の制作	三原鉄平
	10	瀬戸内海国立公園としての鷲羽山・下津井のまちづくり	西川博美、穂苅耕介
	11	NBR ガーデンで青パパイヤを栽培した経験から	住吉和子、坂野純子、難波久美子　他
	12	大学院教育における社会言語学と看護学との学際性に関する研究	関根紳太郎、岡真智子、原瀬愛理
	13	身体性アバタを介したリフレクションによる看護コミュニケーション教育支援システム	高林範子、渡辺富夫、石井裕
	14	トランジッション経験の地域的特性(愛媛県新居浜市を事例として)	都島梨紗
	15	道徳教育における「主体的対話的で深い学び」に関する思想的研究－アダム・スミス「道徳感情論」再考－	山本孝司
	16	へき地の小学校におけるヴァイオリン体験学習でフロー評価法(FIMA)の活用が「全員参加」を促した一事例	安久津太一
	17	保育者養成課程における子育て支援を実践的に学ぶ授業モデルの試み	京林由季子、新山順子
	18	社会変動のなかの教育改革	池田隆英
	19	EdibleEducation を用いた食育プログラムと心理的効果について	小畑千晴、安久津太一、伊東秀之、川上貴代　他
	20	古代アメリカ土器の研究「笛吹きボトル＋盲学校プロジェクト」	真世土マウ

区分	No.	テーマ名	担当者名
	21	慢性足関節不安定症有症者の筋線維伝導速度に関する研究	齋藤誠二
	22	姿勢推定 AI エンジンによる遠隔での運動指導を想定した指示呈示が動作や筋活動に及ぼす影響	大下和茂
	23	劣駆動系の先端制御理論の構築と実験検証	忻欣、山﨑大河、泉晋作
	24	バナッハ空間の幾何学的定数の研究	三谷健一
	25	生体の運動制御機構のモデル化に関する研究	山﨑大河、忻欣、泉晋作
	26	ネットワークシステムの解析と制御	泉晋作、忻欣、山﨑大河
	27	2020 年度以降を見据えた電力部門の生産額推計	渡邉淳司

３．１―４　情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と学内の教員等の情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は、以下の取り組みを行った。

（１）県内での情報発信の取組み

研究シーズ等の情報発信は、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズとして、本年度は、6 つのイベントで 18 件の発信を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

第 13 回　川崎医科大学　学術集会 日時：令和 4 年 7 月 30 日（土）　10:30～15:30 場所：川崎医科大学　現代医学教育博物館	
AYA 世代のがん予防に対する知識や行動への影響 ―高校生へのピアサポート活動を通して―	川下菜穂子　助教
圧電素子の焦電効果を用いた呼吸検知とトリアージへの応用	吉田　智哉　助教

ミニシーズ発信会 日付：令和 4 年 10 月 11 日（火）　　場所：岡山大学 内容：室内音響空間の設計と評価	原田　和典　助教

第 38 回おかやま生体信号研究会・例会 期間：令和 4 年 11 月 24 日（金） 場所：岡山県立大学　共通学部棟（東）　＆　オンライン開催　　※印は口頭発表者	
両手同時運動における作業空間と脳計測	※　大山　剛史　助教
光電脈波から読み取るヒトの心理生理情報	※　綾部　誠也　教授

第 27 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 期間:令和 5 年 1 月 20 日(金) 場所:テクノサポート岡山	
乗り物用シートの振動低減クッションの開発	大田慎一郎 准教授
欠損画素復元による画像伝送量削減手法	小椋 清孝 助教
設計における仮説の検証計画策定支援ツール	筒井 優介 助教
スマートインソール開発に向けた足底刺激による歩行動作の変化について	大下 和茂 准教授
静脈穿刺サポート技術の開発	佐々木新介 准教授

KMS メディカルアーク 2023 日時:令和 5 年 2 月 8 日(水) 12:00～16:00 場所:オンライン開催	※印は口頭発表者
認知症専門医のいる医療機関における診断後支援の実態	※ 竹本与志人 教授
ナツメグ由来 Malabaricone C による 5-リポキシゲナーゼ活性阻害と慢性炎症性疾患の予防効果	津嘉山 泉 助教

岡山県研究機関協議会 研究発表会 日時:令和 5 年 2 月 17 日(金) 12:00～16:00 場所:岡山県立大学	※印は口頭発表者
機械的微振動の可視化と機械診断	吉田 智哉 助教
圧電素子を用いた咀嚼能力検査装置に関する研究	穂苅 真樹 教授
熱帯魚ネオンテトラによる構造性発色の数値的解明	若林 秀昭 准教授
人の手触り感を超える触覚センンシング技術	有本 和民 特任教授
人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	※ 渡辺 富夫 特任教授
超広帯域無線及び超直交畳み込み符号を適用した無線ボディエリアネットワークの性能評価	髙林 健人 助教

（２）県外での情報発信の取り組み

本年度は、1つのイベントで 2 件の発信を行った。

イノベーション・ジャパン 2022 期間:令和 4 年 10 月 4 日(火) ～ 10 月 31 日(月) 場所:オンライン開催	
音声から動作生成するキャラクタを重畳合成した映像対話システム	渡辺 富夫 教授
車いすの段差介助を容易にするティッピングレバー	高戸 仁郎 教授

３．２　産学官連携部門

３．２―１　企業等と連携した研究活動

令和 4 年度の実績は、共同研究 49 件(22,358 千円)、受託研究 13 件(26,689 千円)、教育研究奨励寄附金等 46 件(20,164 千円)であった。

令和 4 年度の目標は、共同研究、受託研究と教育研究奨励寄附金等の合計値で、件数 120 件以上、金額 90,000 千円以上のいずれかの達成であり、実績は件数 108 件(達成率 90.0%)、金額は 69,211 千円(達成率 76.9%)と目標を達成できなかった。

新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ過去 2 年間と比較して経営環境は上向いているものの、まだ完全回復には至っていない企業も多く、コーディネータへの相談も減少傾向であり共同研究又は受託研究に繋がるものは依然として多くない。

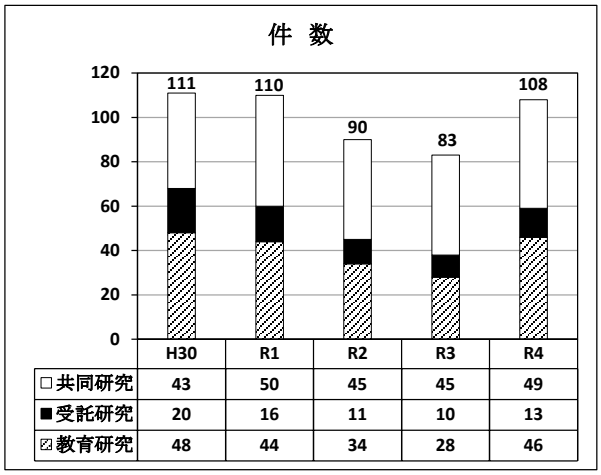
学内全体・学部別実績は下表のとおりである。今後とも、地域に根ざした大学としての本学の存在感を出すべく、活発な産学官連携活動を進めるとともに、相談に対して「敷居の低い大学」として地元企業に認められるよう、岡山県立大学協力会との協働、金融機関等の紹介を得て、積極的な努力をしていく必要がある。

※1 成果指標

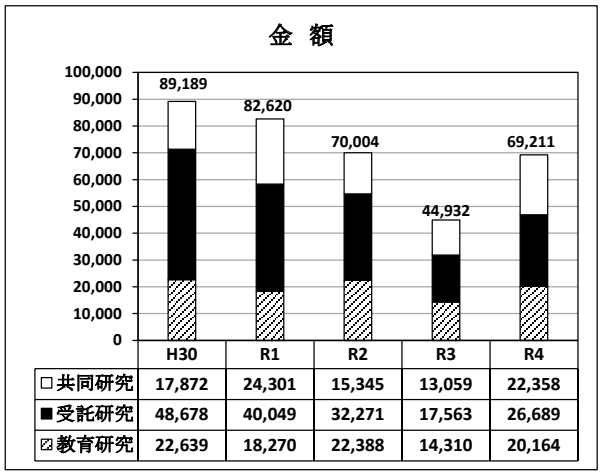
［４］… 130 件以上　又は　100,000 千円以上

［３］… 115 件以上　又は　 80,000 千円以上 100,000 千円未満

［２］… 115 件未満　又は　 80,000 千円未満

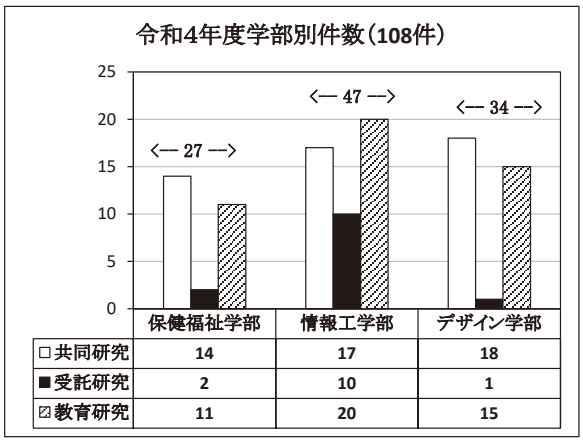


	H30	R1	R2	R3	R4
□共同研究	43	50	45	45	49
■受託研究	20	16	11	10	13
▨教育研究	48	44	34	28	46

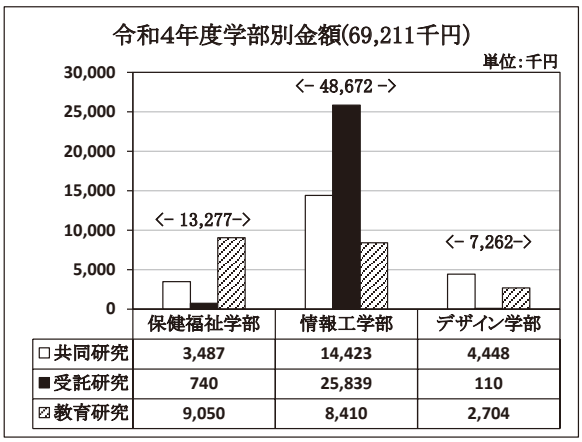


	H30	R1	R2	R3	R4
□共同研究	17,872	24,301	15,345	13,059	22,358
■受託研究	48,678	40,049	32,271	17,563	26,689
▨教育研究	22,639	18,270	22,388	14,310	20,164

共同研究、受託研究、教育研究奨励寄付金の実績



	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部
□共同研究	14	17	18
■受託研究	2	10	1
▨教育研究	11	20	15



	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部
□共同研究	3,487	14,423	4,448
■受託研究	740	25,839	110
▨教育研究	9,050	8,410	2,704

学部別実績

（１）共同研究

産学官連携部門は普段から自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズを探求してきた。近年、金融機関が産学金官の連携に注力していることから、紹介件数が増えている。各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年度の共同研究は 49 件・22,358 千円であった。なお、過去 5 年間の平均は 46 件・18,587 千円である。

（２）受託研究

公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多く、本年度は 13 件・26,689 千円で、内訳は公的機関 7 件・22,509 千円、民間企業等 6 件・4,180 千円であった。なお、過去 5 年間の平均は 14 件・33,050 千円である。

（３）教育研究奨励寄附金等

教育研究奨励寄附金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄附されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。また、本件数には各種財団の助成金を含んでおり、本年度は 46 件・20,164 千円であった。なお、過去 5 年間の平均は 40 件・19,554 千円である。

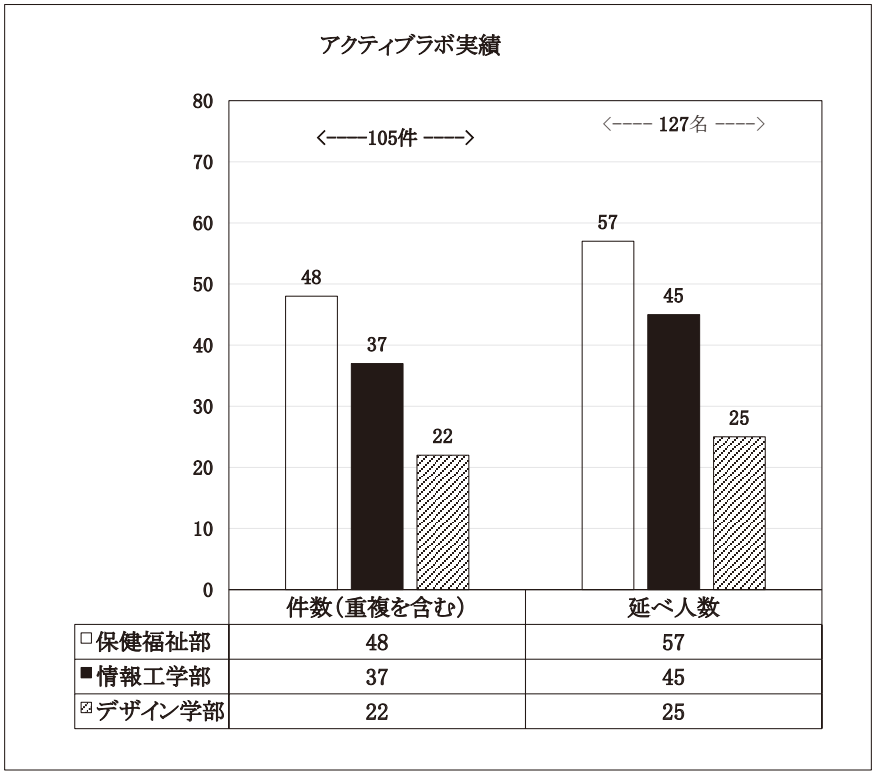
（４）外部競争的資金への応募支援

産学官連携部門のコーディネータが関与する外部競争的資金としては JST（科学技術振興機構）の A-STEP 支援（試験研究並びに実証研究）、中国地域創造研究センターの新産業創出研究会などがある。

３．２―２　アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員、コーディネータが企業・団体に出向いて、または企業・団体が来学されて、もしくはオンラインにて、本学研究シーズの紹介並びに訪問先企業の抱えている課題のヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先または来学先は日常的な技術相談や産業支援機関・金融機関からの紹介で決まる場合が多く、これら企業・団体と意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究や受託研究に至るケースもある。

実績は 105 件の訪問で、延べ 127 名の教員が参加した。学部別では保健福祉学部が 48 件・延べ 57 名、情報工学部が 37 件・延べ 45 名、デザイン学部が 22 件・延べ 25 名であった。参加した教員の実数が全教員の 32%程度であり、今後の共同研究の拡大のためには、参加教員数の増加が必須であると考えられる。



学部別実績

令和４年度 アクティブ・ラボ実績

No.	訪問日	教員名		学部	No.	訪問日	教員名		学部	No.	訪問日	教員名		学部
1	4月01日	田中晃一	教授	保	38	6月09日	野宮謙吾	教授	デ	74	11月08日	金﨑真人	助教	情
2	4月01日	尾崎公一	教授	情			三原鉄平	教授	デ	75	11月14日	伊藤照明	教授	情
3	4月05日	岩満賢次	教授	保	39	6月15日	三原鉄平	教授	デ			佐藤洋一郎	教授	情
4	4月05日	伊藤信之	教授	情	40	6月21日	岩満賢次	教授	保			石井裕	准教授	情
5	4月14日	田中晃一	教授	保	41	7月04日	末岡浩治	教授	情			太田俊介	助教	情
6	4月14日	田中晃一	教授	保	42	7月06日	山下広美	教授	保			山下万吉	准教授	デ
7	4月19日	佐藤ゆかり	准教授	保			丸田ひとみ	助教	保	76	11月14日	入江康至	教授	保
		三原鉄平	教授	デ	43	7月06日	山下広美	教授	保			井上里加子	助教	保
8	4月22日	尾崎公一	教授	情			丸田ひとみ	助教	保	77	11月22日	井上里加子	助教	保
9	4月25日	真世土マウ	准教授	デ	44	7月08日	三原鉄平	教授	デ	78	11月22日	入江康至	教授	保
10	4月25日	田中晃一	教授	保	45	7月08日	滝本裕則	准教授	情			井上里加子	助教	保
11	4月26日	田中晃一	教授	保	46	7月12日	田中晃一	教授	保	79	11月24日	畠和宏	准教授	デ
12	4月26日	穂苅真樹	教授	情	47	7月12日	山本登志子	教授	保	80	11月25日	入江康至	教授	保
		大山剛史	助教	情			岡﨑愉加	准教授	保			井上里加子	助教	保
13	4月27日	田中晃一	教授	保	48	7月13日	西田麻希子	准教授	デ	81	11月29日	尾崎公一	教授	情
14	4月27日	末岡浩治	教授	情	49	7月19日	徳永義孝	准教授	情	82	11月30日	高戸仁郎	教授	保
15	5月06日	山本登志子	教授	保	50	7月28日	滝本裕則	准教授	情	83	12月04日	井上里加子	助教	保
		津嘉山泉	助教	保	51	8月02日	田中晃一	教授	保	84	12月07日	森本美智子	教授	保
16	5月11日	尾崎公一	教授	情	52	8月02日	山本登志子	教授	保	85	12月10日	山本登志子	教授	保
17	5月12日	末岡浩治	教授	情			岡﨑愉加	准教授	保	86	12月10日	入江康至	教授	保
18	5月12日	津島梨紗	講師	保	53	8月03日	田中晃一	教授	保	87	12月12日	綾部誠也	教授	情
19	5月12日	尾崎公一	教授	情	54	8月10日	井上里加子	助教	保	88	12月19日	髙橋俊臣	准教授	デ
		福田忠生	准教授	情	55	8月22日	田中晃一	教授	保	89	12月20日	田中晃一	教授	保
20	5月13日	岩満賢次	教授	保	56	8月23日	井上里加子	助教	保	90	1月13日	尾崎公一	教授	情
21	5月13日	滝本裕則	准教授	情	57	8月24日	伊藤照明	教授	情	91	1月26日	伊藤信之	教授	情
22	5月13日	末岡浩治	教授	情	58	8月30日	田中晃一	教授	保	92	2月16日	大田慎一郎	准教授	情
		野田祐輔	准教授	情	59	9月02日	筒井優介	助教	情	93	2月21日	尾崎洋	講師	デ
23	5月16日	関﨑哲	教授	デ	60	9月02日	入江康至	教授	保			石王美	准教授	デ
24	5月17日	西田麻希子	准教授	デ	61	9月04日	井上里加子	助教	保	94	2月22日	田中晃一	教授	保
25	5月18日	尾崎公一	教授	情	62	9月08日	船山俊克	准教授	デ	95	2月27日	伊藤信之	教授	情
26	5月19日	村木克爾	教授	デ	63	9月08日	南川茂樹	教授	デ	96	3月01日	田中晃一	教授	保
27	5月19日	田中晃一	教授	保	64	9月12日	田中晃一	教授	保	97	3月01日	伊藤信之	教授	情
28	5月23日	末岡浩治	教授	情	65	9月12日	原田和典	助教	デ			大久保賢祐	教授	情
29	5月23日	福田忠生	准教授	情	66	9月15日	森本美智子	教授	保	98	3月03日	伊藤信之	教授	情
30	5月24日	関根紳太郎	教授	保	67	9月15日	三原鉄平	教授	デ	99	3月08日	田中晃一	教授	保
31	5月24日	三原鉄平	教授	デ	68	9月21日	岩満賢次	教授	保	100	3月09日	田中晃一	教授	保
32	5月24日	末岡浩治	教授	情	69	10月05日	田中晃一	教授	保	101	3月16日	尾崎公一	教授	情
33	5月25日	田中晃一	教授	保	70	10月13日	滝本裕則	准教授	情	102	3月20日	伊藤信之	教授	情
34	5月25日	尾崎公一	教授	情			太田俊介	助教	情	103	3月29日	齋藤誠二	教授	情
35	5月31日	山本登志子	教授	保	71	10月17日	岸原充佳	准教授	情	104	3月29日	髙橋俊臣	准教授	デ
		津嘉山泉	助教	保	72	10月25日	原田和典	助教	デ	105	3月30日	船山俊克	准教授	デ
36	6月01日	尾崎公一	教授	情	73	10月26日	向山徹	教授	デ					
37	6月03日	田中晃一	教授	保			三原鉄平	教授	デ					

保：保健福祉学部
情：情報工学部
デ：デザイン学部

３．２―３　学外組織との連携・協働活動

地域創造戦略センターでは金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加し、これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズとのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

（１）各種支援機関との協働

①　岡山・産学官連携推進会議（会長：岡山県知事）

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関（20機関）が連携して平成 15 年に設立されたものである。「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っており、経済界 6、大学等 13、行政 4、その他金融機関等 9 の計 32 機関で構成されている。

◆第１回幹事会	令和４年 5 月 24 日（火）	オンライン開催
◆第１回コーディネート力向上セミナー	令和４年 5 月 24 日（火）	オンライン開催
◆第１回企業訪問・産学官連携交流事業	令和４年 10 月 7 日（金）	高梁市国際ホテル
◆第２回企業訪問・産学官連携交流事業	令和５年 2 月 6 日（月）	井原市地場産業振興センター
◆第２回コーディネート力向上セミナー	令和５年 2 月 20 日（月）	ピュアリティまきび

②　岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業、大学、研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われており、第 27 回を迎えた本年度は、本学から 5 件の展示が行われた。

◆研究・展示発表会 合計展示数:7 分野 35 テーマ	令和５年 1 月 20 日（金）	テクノサポート岡山

③　県内支援機関

岡山県産業振興財団

◆おかやまテクノロジー展（OTEX）	令和４年 11月 1 日（火）	コンベックス岡山
◆おかやま次世代産業関連技術研究会		
第１回技術セミナー （９月の台風による延期開催）	令和５年 1 月 10 日（火）	サン・ピーチ OKAYAMA
第２回技術セミナー	令和４年 12 月 20 日（火）	オンライン開催
◆おかやまAI・セキュアＩｏＴ共創コンソーシアム		
第１回総会、講演会	令和４年 6 月 2 日（木）	岡山大学&オンライン
第１回セミナー＆情報交換会	令和４年 8 月 4 日（木）	岡山大学
第２回セミナー＆情報交換会	令和４年 11 月 17 日（木）	オンライン開催
◆おかやま自動車要素技術共創コンソーシアム		
第１回総会、懇談会	令和４年 5 月 31 日（火）	岡山大学&オンライン
◆おかやまグリーン成長支援セミナー	令和４年 11 月 9 日（火）	サン・ピーチ OKAYAMA &オンライン
◆大学等シーズ発信会	令和５年 3 月 15 日（水）	イオンモール岡山 未来ホール

④　金融機関との連携活動

平成 20 年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の 3 つの金融機関と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。昨年度はコロナ禍のため、各銀行のイベントは中止されたが、今年度は一部のイベントは再開され、共同研究等の推進活動に努めた。

◆SDGs 推進会議	令和 4 年 5 月 27 日(金)	おかやま信用金庫本店
◆しんきん合同ビジネス交流会	令和 4 年 11 月 9 日(火)	コンベックス岡山
◆SDGs 推進会議	令和 4 年 10 月 6 日(木)	おかやま信用金庫本店
◆SDGs 推進会議	令和 5 年 1 月 26 日(木)	おかやま信用金庫本店
◆地方再生トマトアグリフードフェア 2023	令和 5 年 1 月 24 日(火)	コンベックス岡山

⑤　県立研究機関協議会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

◆第 1 回企画担当者会議	令和 4 年 7 月 5 日(火)	畜産研究所(美咲町)
◆機関長会議	令和 4 年 8 月 1 日(月)	書面開催
◆第 2 回企画担当者会議	令和 4 年 10 月 13 日(火)	岡山家畜保健衛生所
◆研究交流発表会	令和 5 年 2 月 17 日(金)	岡山県立大学

⑥　さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)に、岡山大学、鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了したが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

◆運営会議	令和 4 年 9 月 2 日(金)	岡山大学

⑦　岡山県　企業と大学との共同研究センター

岡山県は、令和元年度の新規重点事業である「大学と連携した地域産業振興事業」において、大学など高等教育機関の知の活用により新たな技術課題に対応しながら成長・発展を目指す県内企業を積極的に支援していくこととしており、この事業の中核を担う拠点として「岡山県 企業と大学との共同研究センター」を令和元年 10 月に開設した。本年度も、コーディネータ情報交換会に、本学地域創造戦略センターのコーディネータが参加した。

◆コーディネータ情報交換会	令和 4 年 4 月 22 日(金)	岡山大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 4 年 6 月 17 日(金)	中国職業能力開発大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 4 年 8 月 19 日(金)	岡山大学
◆ミニシーズ発信会	令和 4 年 10 月 11 日(火)	岡山大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 4 年 10 月 21 日(金)	岡山県立大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 5 年 1 月 17 日(火)	テクノサポート岡山
◆コーディネータ情報交換会 県外施設視察	令和 5 年 3 月 10 日(金)	NEDO 実証研究施設 (広島:大崎上島)

⑧　岡山県スマート農業技術開発プラットフォーム

岡山県では、次世代農林水産業に必要なスマート農業技術について、効果的かつ効率的、持続的に開発するため、本県の強みであるもの作り企業や関係機関等が連携して研究コンソーシアム（共同研究グループ）の構築を目指す、技術開発プラットフォームを設置している。本年度より、情報交換会等へ本学地域創造戦略センターのコーディネータが参加した。

◆部門別交流（プラカフェ）	令和４年10月　３日（月）	JA晴れの国岡山船穂支店
◆農林水産DXセミナー会	令和４年11月　９日（水）	笠岡市保健センター
◆情報交換会	令和５年　２月　８日（水）	農林水産総合センター &オンライン

⑨　その他

その他に以下の機関が主催した交流会、セミナー、展示会に参加した。

◆イノベーションジャパン出展（JST）	令和４年10月　４日（火） ～10月31日（月）	オンライン開催
◆川崎医科大学学術関連技術研究会	令和４年　７月30日（土）	川崎医科大学
◆ヘルスケア・医療福祉機器技術研究会	令和４年　７月27日（水）	オンライン開催
◆ヘルスケア・医療福祉機器技術研究会	令和４年　９月30日（金）	オンライン開催
◆ヘルスケア・医療福祉機器技術研究会	令和４年11月29日（火）	オンライン開催
◆KANSEI”感性”サロン	令和４年10月28日（金）	オンライン開催
◆OUSフォーラム	令和４年11月28日（月）	岡山プラザホテル
◆KMSメディカルアーク出展	令和５年　２月　８日（水）	オンライン開催

（２）技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

①　おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術、生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

◆第13回運営委員会・第35回幹事会	令和４年　６月20日（月）	オンライン開催
◆第13回総会・第37回例会	令和４年　６月24日（金）	オンライン開催
◆第38回例会	令和４年11月24日（木）	岡山県立大学

②　ハートフルビジネスおかやま

産学官民が連携し、利用者が真に必要としている福祉用具の開発・普及を促進するとともに、新規参入を促し、福祉関連産業の振興を図ることを目的に活動している。

◆総会・講演会	令和４年　７月　１日（金）	メルパルク岡山
◆賀詞交歓会・特別講演会	令和５年　１月24日（火）	ラヴィール岡山

３．２－４　岡山県立大学協力会

（１）目的

本会の目的は、次のとおりである。

「県内中小企業が感じている大学の敷居の高さを軽減し、本学に対して技術相談、共同研究等を依頼しやすい環境を整え、卒業生の就職も含め、県内中小企業と本学との強い連携・協働を促進する」

また、本会の活動を通して期待される効果としては、下記を想定している。

Ⅰ．インターンシップ、企業説明会を通した本学学生（OB・OG も含む）への魅力発信による地元企業への人材輩出の促進及びセミナーの開催や社会人ドクター受入等による産業人材の育成と確保

Ⅱ．共同研究の推進、技術研究会等による企業の技術開発力の向上及び共同研究への学生参加による実践的人材育成（当該企業への就職も期待）

Ⅲ．革新的最新技術の導入のためのセミナーや異業種間共同研究の推進による新規産業の創成

（２）運営体制

令和４年度運営委員会名簿

役員等	運営委員会	所　属	役　職	氏　名
会長	委員長	(株)英田エンジニアリング	代表取締役	万殿　貴志
副会長	副委員長	コアテック(株)	取締役	山本　卓二
副会長	副委員長	岡山県経済団体連絡協議会	事務局長	神崎　浩二
副会長	副委員長	岡山県立大学	地域創造戦略センター・センター長	佐藤　洋一郎
理事	委員	板野機工(株)	代表取締役会長	板野　恒一
理事	委員	オーエム産業(株)	代表取締役社長	難波　圭太郎
理事	委員	(公財)岡山県産業振興財団	ものづくり支援部部長	入江　栄治
理事	委員	(一社)岡山工業会	専務理事（事務局長）	上田　哲也
理事	委員	(一社)システムエンジニアリング岡山	専務理事兼事務局長	楠戸　國正
理事	委員	ヒルタ工業(株)	代表取締役社長	小田　崇之
理事	委員	両備ホールディングス(株)	人財本部シニアリーダー	三宅　瑛治
理事	委員	タカヤ(株)	取締役 RF 事業部事業部長	木村　弘幸
理事	委員	岡山県立大学	情報工学部・教授	榊原　勝己
理事	委員	岡山県立大学	情報工学部・学部長	尾﨑　公一
理事	委員	岡山県立大学	デザイン学部・教授	村木　克爾
理事	委員	岡山県立大学	地域創造戦略センター・産学官連携部門長	伊藤　信之
監事	委員	エスタカヤ電子工業(株)	経営企画室室長	田中　俊平
監事	委員	岡山県立大学	名誉教授	亀山　嘉正
顧問	―	岡山県経済団体連絡協議会	座長	中島　基善
顧問	―	岡山県立大学	理事長・学長	沖　陽子
顧問	―	岡山県立大学	理事・副学長（社会連携・国際担当）	末岡　浩治

事業推進委員会名簿

所　属	職　名	氏　名
地域創造戦略センター・センター長	委員長	佐藤　洋一郎
情報工学部・教授	副委員長	榊原　勝己
情報工学部・学部長	副委員長	尾﨑　公一
地域創造戦略センター・産学官連携部門長	副委員長	伊藤　信之
デザイン学部・教授	副委員長	村木　克爾
保健福祉学部・教授	委員	山本　登志子
保健福祉学部・教授	委員	田中　晃一
情報工学部・教授	委員	春木　直人
情報工学部・特任教授	委員	渡辺　富夫
情報工学部・准教授	委員	市川　正美
情報工学部・教授	委員	山内　仁
情報工学部・准教授	委員	福田　忠生
情報工学部・准教授	委員	横川　智教
デザイン学部・准教授	委員	中西　俊介
地域連携・研究推進課長	委員	大坪　芳充

（３）活動実績

今年度はコロナ共生の社会状況に鑑みて、オンライン・対面それぞれの形式で活動を行った。

活動一覧

日　付	内　容	場　所	参 加 者 等
5 月 2 日（月）	事業推進委員会	本部棟中会議室	学内協議：出席 16 名
6 月 28 日（火）	運営委員会及び総会	ホテルグランヴィア岡山	出席：32 社・4 団体 委任状：23 社
10 月 4 日（火）	ランチョンミーティング （研究交流会）	岡山県立大学 保健福祉学部棟	参加者：18 名
10 月 17 日（月） ～12 月 19 日（月）	寄附講座「技術者と社会」	岡山県立大学	参加企業：13 社 履修者：65 名
10 月 27 日（木）	「エンジニアリング演習」 報告会	岡山県立大学 学部共通棟（東）	学生：23 名、参加企業：18 社 （うち協力会会員企業 16 社）
11 月 30 日（水）	環境整備・広報		協力会会員企業ガイド発行
12 月 22 日（木） ・23 日（金）	業種説明会 （オンライン形式）	岡山県立大学	参加企業：47 社 参加学生：191 名（延べ人数）
2 月 14 日（火）	業種説明会 （対面形式）	岡山県立大学 学部共通棟（東）	参加企業：48 社 参加学生：198 名（延べ人数）
2 月 28 日（火） ・3 月 1 日（水）	画像技術講習会	岡山県立大学 学部共通棟（南）	参加者：18 名 （うち協力会企業 6 社 15 名）

①　岡山県立大学協力会　令和４年度運営委員会及び総会

日　時　：　令和４年６月 28 日(火)　16:00

【審議事項】

第１号議案　役員の選任(案)について

第２号議案　令和３年度事業報告(案)について

第３号議案　令和３年度決算収支(案)について

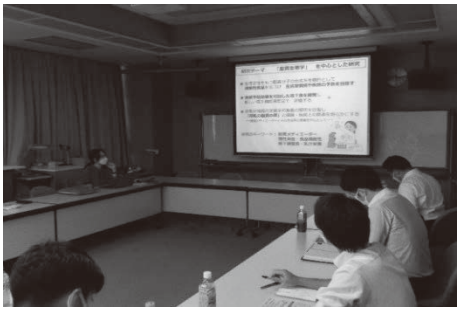
第４号議案　令和４年度事業計画(案)について

第５号議案　令和４年度予算(案)について

【報告事項】

会員の入会状況

②　岡山県立大学協力会　第１回ランチョンミーティング（研究交流会）



日　時　：　令和４年 10 月４日(火)

場　所　：　岡山県立大学　6101 講義室

参　加　：　18 名

(株)英田エンジニアリング５名、
保健福祉学部栄養学科山本登志子教授、
津嘉山泉助教、保健福祉学研究科、博士
前期２年栄養学専攻１名、保健福祉学部
栄養学科４年２名、協力会事業推進委員３名、県立大学職員５名

内　容　：　推進中のニンニク生産とその加工品作製に向けて、ニンニク種や栽培方法による品質の相違を検討・意見交換し、今後の課題と実施に向けた打合せを行った。

③　「エンジニアリング演習」報告会の開催

日　時　：　令和４年 10 月 27 日(木)

場　所　：　岡山県立大学　8902･8903 講義室

参　加　：　企業 31 名(18 社)　学生 23 名

④　環境整備・広報

1. 協力会会員企業訪問に係る交通費助成制度を新設した。
2. 広報誌「東海岡山県人会」へ広告掲載を行った。
3. 令和４年 11 月に会員企業の事業内容を在学生及び父兄等に周知することを目的とし、「企業ガイド 2022」を作成した。今年度は本学の学生が表紙デザインを手掛けた。

⑤　寄附講座「技術者と社会」の開講

期　間　：　令和４年 10 月 17 日(月)より 12 月 19 日(月)まで

場　所　：　岡山県立大学　8903 講義室　　履修者：　65 名
日　程　：　対面授業 1コマ+自宅学習 1コマの形式で、下記のスケジュールで授業を進めた。

	日時	担当
第1回	令和4年10月17日（月）	岡山県立大学 尾﨑　公一教授　　滝本　裕則准教授
第2回		三陽機器株式会社 堤　俊雄　氏　　大室　祐斗　氏
第3回	令和4年10月31日（月）	井原精機株式会社 平井　秀明　氏　　斉藤　俊一　氏
第4回		株式会社トライエス　中原　みき　氏
第5回	令和4年11月14日（月）	株式会社システムエンタープライズ　稲谷　聡　氏
第6回		エスタカヤ電子工業株式会社　渡邉　礼方　氏
第7回	令和4年11月21日（月）	株式会社新来島サノヤス造船　氏平　信輔　氏
第8回		萩原工業株式会社　笹原　義博　氏
第9回	令和4年11月28日（月）	タツモ株式会社　佐藤　泰之　氏
第10回		株式会社両備システムズ　福田　利行　氏
第11回	令和4年12月5日（月）	株式会社アイティーシー　三宅　浩亮　氏
第12回	令和4年12月12日（月）	コアテック株式会社　山本　卓二　氏
第13回		株式会社トスコ　森本　護　氏
第14回	令和4年12月19日（月）	株式会社アルマ経営研究所　加藤　珪一　氏
第15回		岡山県立大学 尾﨑　公一教授　　滝本　裕則准教授

⑥　業種説明会

就職活動が本格的にスタートする前に地元企業の事業内容、事業展開等の説明を受け、業種・業界の魅力を直接感じることで、本学学生の進路選択の一助となることを目的とする。

【オンライン開催】

日　時　：　令和 4 年 12 月 22 日（木）・23 日（金）

参　加　：　企業 47 社　　学生 191 名（延べ人数）

内山工業（株）、三陽機器（株）、（株）システムエンタープライズ、セリオ（株）、（株）ビザビ、（株）アステア、（株）倉敷ケーブルテレビ、萩原工業（株）、（株）ベネッセインフォシェル、丸五ゴム工業（株）、（株）英田エンジニアリング、（株）システムズナカシマ、（株）シンニチロ、タツモ（株）、冨士ベークライト（株）、（株）江口電機、山陽電研（株）、両備ホールディングス（株）、OEC（株）、オカネツ工業（株）、サノヤスホールディングス（株）、（株）ハーバー・ソフトウェア、板野機工（株）、（株）システムタイズ、タカヤ（株）、日本非破壊検査（株）、オーエム産業（株）、オーエム機器（株）、コアテック（株）、（株）トライエス、（株）NICS、ローム・ワコー（株）、（株）新来島サノヤス造船、エスタカヤ電子工業（株）、（株）トンボ、ピープルソフトウェア（株）、ヒルタ工業（株）、（株）アイティーシー、井原精機（株）、片山工業（株）、倉敷化工（株）、マックスバリュ西日本（株）、（株）タグチ工業、中村建設（株）、みのる産業（株）、ユアサシステム機器（株）、（株）両備システムズ

【対面開催】

日　時　：　令和 5 年 2 月 14 日（火）

場　所　：　岡山県立大学　8901・8902・8903・8904 講義室

参　加　：　企業 48 社　　学生 198 名（延べ人数）

(株)英田エンジニアリング、(株)アイティーシー、(株)アステア、井原精機(株)、内山工業(株)、エスタカヤ電子工業(株)、OEC(株)、オーエム機器(株)、オーエム産業(株)、オージー技研(株)、オカネツ工業(株)、片山工業(株)、倉敷化工(株)、(株)ケイエスピイ、コアテック(株)、サノヤスホールディングス(株)、三陽機器(株)、山陽電研(株)、(株)システムエンタープライズ、(株)システムズナカシマ、(株)システムタイズ、(株)新来島サノヤス造船、(株)シンニチロ、セリオ(株)、タカヤ(株)、(株)タグチ工業、タツモ(株)、(株)トスコ、(株)トライエス、(株)トンボ、中村建設(株)、(株)ナテック、(株)NICS、日本非破壊検査(株)、(株)ハーバー・ソフトウェア、萩原工業(株)、ピープルソフトウェア(株)、ピコシステム(株)、(株)ビザビ、ヒルタ工業(株)、(株)藤岡エンジニアリング、冨士ベークライト(株)、マックスバリュ西日本(株)、丸五ゴム工業(株)、みのる産業(株)、ユアサシステム機器(株)、両備ホールディングス(株)、ローム・ワコー(株)

⑦　「画像解析に関する技術講習会」の開講

岡山県立大学地域創造戦略センターと共催で企画し、3 年ぶりの開催となった。

日　時　：　令和 5 年 2 月 28 日（火）・3 月 1 日（水）

場　所　：　岡山県立大学　8120 講義室

参　加　：　18 名（うち協力会企業 6 社 15 名）

講　師　：　和歌山大学　中村　恭之教授

岡山県立大学　山内　仁教授

小枝　正直准教授

⑧　協力会会員企業への情報提供

経済産業省、中国経済産業局、総務省中国総合通信局、独立行政法人情報処理推進機構、おかやま IoT 推進ラボ事務局（岡山県産業振興課）、（一社）システムエンジニアリング岡山等から寄せられるお知らせを随時、協力会会員企業に情報として提供している。

３．３　地域連携部門

３．３―１　地域連携プロジェクト

本学における地域連携活動の推進及び産学官連携活動を通じた企業の人材育成に寄与する活動の支援を目的に平成 29 年度から新設した「地域連携事業」「企業人材育成事業」を実施し、支援を行った。

（１）地域連携事業

岡山県内において本学と連携協力に関する協定を締結する自治体又はそれ以外の自治体を活動拠点とし、本学教員及び学生が行政機関、大学、経済団体、地域団体（社会福祉協議会、特定非営利活動法人、自治会等）と連携して実施する、①健康福祉関連、②子ども関連、③まちづくり関連、④アート・食育・ICT関連の事業、⑤その他学長が必要と認めた活動について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

（２）企業人材育成事業

岡山県内において本学教員が行政機関、大学、経済団体、企業、地域団体と連携して実施する、岡山県内に所在する企業等の、①技術力向上に資する育成プログラムの開発と実施、②技術力向上に資する講演会の開催、③技術力向上に資する技術講習会の開催、④その他学長が必要と認めた活動について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

（３）事業決定実績

令和 4 年度分については、令和 4 年 4 月 1 日（金）から 8 日（金）まで募集し、申請のあった事業については査定を行い、5 月 31 日付けで次のとおり事業決定した。

名称	申請件数	採択件数	配分額合計
地域連携推進事業	16 件	16 件	2,913,500 円
企業人材育成事業	1 件	1 件	189,200 円

※新型コロナウイルス感染症のため、実施されなかった事業あり

①地域連携事業　事業一覧（実績）

代表者	活動の名称	連携する自治体	活動内容
保健福祉学部 看護学科 教授 関根　紳太郎	岡山アウトリーチ：大学生が主体となり岡山の地域活性化とグローバル化に寄与する地域観光推進事業	その他（岡山県産業労働部観光課）	その他（地域観光推進）
保健福祉学部 看護学科 准教授 名越　恵美	ELNEC-J　コアカリキュラム in 岡山県立大学 -質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアのために-	その他（日本緩和医療学会）	健康福祉

代表者	活動の名称	連携する自治体	活動内容
保健福祉学部 看護学科 准教授 岡﨑　愉加	快適な学校生活とベストパフォーマンスを発揮するための月経に関する健康教育	その他（倉敷市、岡山市）	健康福祉
保健福祉学部 看護学科 助教 川下　菜穂子	思春期ピアサポーターによる地域の高校生に向けた任孕性講座	その他（岡山県、新見市、矢掛町、津山市）	健康福祉
保健福祉学部 現代福祉学科 教授 近藤　理恵	中学・高校生のための学習・体験活動プログラム	総社市	子ども
保健福祉学部 現代福祉学科 教授 坂野　純子	持続可能な植育プログラムの開発と農福連携パートナーシップの形成支援	総社市	健康福祉
保健福祉学部 子ども学科 准教授 小畑　千晴	どんぐりプロジェクト	真庭市 その他（岡山県）	子ども
保健福祉学部 こども学科 准教授 中野　菜穂子	学生も参画する子育てカレッジからの情報発信	総社市	子ども
保健福祉学部 こども学科 准教授 新山　順子	官民学連携による県大そうじゃ子育てカレッジ「親子で楽しむ音楽会－0 歳からのコンサート」を通した地域住民への良質な文化体験提供と保育学生の資質向上	総社市 その他（岡山県備中県民局）	子ども
保健福祉学部 こども学科 助教 児玉　太一	造形表現と図画工作におけるｅラーニング教材の作成	その他（岡山県）	アート・食育・ICT
情報工学部 情報システム工学科 准教授 石井　裕	地域活動としてのプログラミング教育：地域連携部門重点領域	総社市 その他（岡山市または倉敷市）	アート・食育・ICT

代表者	活動の名称	連携する自治体	活動内容
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 准教授 髙橋　俊臣	総社市・攻めの PR 事業 2022	総社市	まちづくり
デザイン学部 工芸工業デザイン学科 教授 島田　清徳	美術館コレクションを活かした地域文化活性化のための連携プログラムの実践研究	その他（高梁市[成羽美術館]、岡山県[県立美術館]）	アート・食育・ICT
デザイン学部 建築学科 教授 福濱　嘉宏	水車のある生活風景ための活用計画立案	総社市	まちづくり
デザイン学部 建築学科 准教授 西川　博美	岡山・瀬戸内海の塩田業を基盤とした地域のまちづくり―玉野・宮原家邸宅を中心に	その他（玉野市）	まちづくり

②企業人材育成事業　事業一覧（実績）

代表者	活動の名称	連携する団体	活動内容
情報工学部 情報システム工学科 教授 尾崎　公一	岡山新材料技術融合フォーラム	地域団体（岡山新材料技術融合フォーラム）	講演会の開催

３．３―２　各種連携活動

本学の基本方針の 1 つである「戦略的な地域貢献の取組の推進」を実現するために、地域連携活動の相談や小さな地域連携活動の掘り起こしと支援等、各種連携活動を実施している。

（１）地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業の取組

本事業は、岡山県中山間・地域振興課による補助事業で、おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む県内大学の研究室等の研究活動を支援するものである。

①　美咲町アウトリーチ（大垪和地区）

地域を訪れて撮影した写真を Instagram で発信するとともに、神社の秋祭りに参加して神輿を担ぎ会場を盛り上げた。また、特産品をイメージした菓子（琥珀糖）をつくり、棚田の風景を模したオリジナルパッケージを施して地域の子どもへ配った。保健福祉学部看護学科の関根紳太郎教授を中心に、菓子は栄養学科の田淵真愉美准教授、オリジナルパッケージはデザイン学部ビジュアルデザイン学科の山下万吉准教授らが学生を指導した。

SNS 発信用の写真撮影

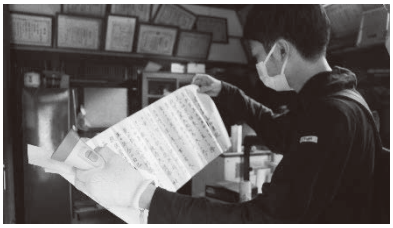
子どもたちにオリジナル菓子を配布

祭りの神輿担ぎ

②　吉備中央町酒蔵再生プロジェクト

豊野地区の元大庄屋・酒蔵でその後診療所としても使われていた空き家の再生に向けて、デザイン学部建築学科の穂苅耕介准教授・原田和典助教と学生が活動している。令和 3 年度から空き家を清掃・整理し、令和 4 年度は個人史調査による地域資源マップの作成や活用案を検討した。

実測

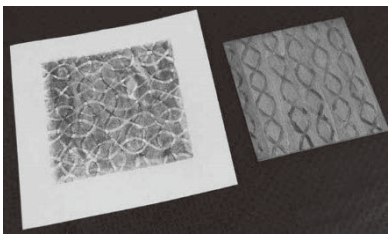

文献資料の収集

地域住人へのヒアリング

（２）岡山シンフォニーホールでのアートワークショップの開催

令和 4 年 8 月 8 日（月）に、岡山シンフォニーホールのイベント「きく・みる・まなぶ シンフォニーは友達！2022」が開催され、デザイン学部ビジュアルデザイン学科の関﨑哲教授とデザイン学部の学生有志が、木版・一版多色刷りの技法で作品を制作するアートワークショップを行った。

版に色をのせる説明


作品と使用した版

友達の作品を鑑賞し合う様子

（３）企業と連携したロゴマークの制作

デザイン学部ビジュアルデザイン学科の学生が企業へのプレゼンテーションを重ね、新会社のロゴマークを制作した。同学科の野宮謙吾教授がアートディレクションを行った。

プレゼンの様子

学生による説明

Cキューブ・コンサルティング

できあがったロゴマーク

（４）団体と連携した郷土玩具の保存・伝承の取組

デザイン学部工芸工業デザイン学科の真世土マウ准教授と美咲町の百々人形保存会が連携して、現存する人形の型の復刻に取り組んだ。その一環で、郷土の文化を知ってもらうべく、学生が新しい桃太郎の百々人形をデザイン制作し、その型をもとに保存会のメンバーが複数個の作品に仕上げ、美咲町のイベントで展示・販売された。

型制作の打合せ

完成した型と人形

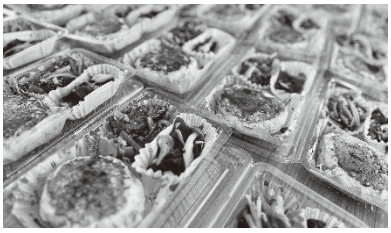
新しい人形の販売ブース

（５）学生主体による高齢者向け弁当のメニュー開発

真庭市落合地区で配る高齢者向け弁当のメニュー開発を、保健福祉学部栄養学科の学生が行った。考案したメニューは現地で「男性の料理教室」も兼ねて、地域の男性も一緒に調理され、学生本人達もサポートに加わった。作った弁当は近隣の高齢者宅に届けられた。

調理の手順を伝える学生

野菜の切り方を指導する学生


出来上がった弁当

（６）学生主体による干支の巨大絵馬の制作

総社国備中総社宮より干支にちなんだ巨大絵馬の依頼を受け、デザイン学部ビジュアルデザイン学科の学生２名がデザイン制作した。同学科の関﨑哲教授がサポートを行った。

下絵の色付け

細部の仕上げ

設置された巨大絵馬

３．３－３　各種研究会活動

（１）コミュニティ家族ケア研究会

①　概要

本研究会は、多職種が連携し(IPE)、地域や学校における看護の実践および研究の発展と向上に努め、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康を支援することを目的として活動している。支援策を検討するために調査を行い、その成果を基に具体的な支援策を立案し、実施後の効果を評価している。また、研究や実践の成果を学会等で公表し、社会貢献している。現在の活動メンバーは、助産師・看護師・養護教諭である。

②　実績

ア　研究会の開催

10 回開催した。活動内容は、令和 3 年度の研究成果を学会発表するための準備、健康教育教材リーフレット第1版「快適な学校生活とベストパフォーマンスを発揮するために知っておきたい月経の話」の評価を目的とした高校生への調査・結果のまとめとリーフレット第 2 版の作製、摂食障害一次予防啓発教材パンフレットの評価を目的とした養護教諭への調査などである。

イ　学会発表

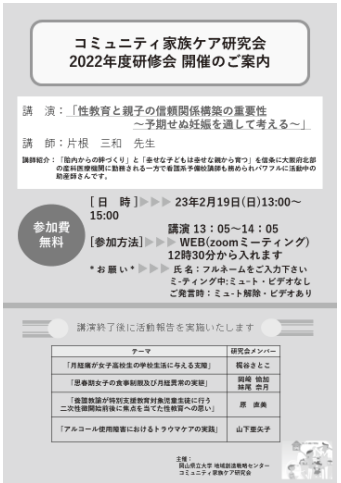
令和 4 年 11 月に開催された第 68 回日本学校保健学会総会・学術集会において「月経痛が女子高校生の学校生活に与える支障」を発表した。

ウ　研修会開催

令和 4 年度(第 9 回)研修会は、令和 5 年 2 月 19 日(日)に WEB にて開催した。参加者は、医療関係者・教育関係者・大学生ら 20 名である。内容は、看護系予備校講師も務める助産師片根三和氏による講演 「性教育と親子の信頼関係構築の重要性～予期せぬ妊娠を通して考える～」、研究会メンバーの研究活動報告「思春期女子の食事制限及び月経異常の実態」「養護教諭が特別支援教育対象児童生徒に行う二次性徴開始前後に焦点を当てた性教育への思い」等である。

③　今後の展望と課題

令和 5 年度は、本年度の研究成果の発表と、摂食障害一次予防啓発教材パンフレット第 2 版を完成させて研究会 HP へ掲載する予定で、新たに取り組むべき課題について検討する。



（２）岡山医療安全研究会

①　概要

本研究会は、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換を通して、地域の医療安全の推進に努めることを目的としている。研究会スタッフとして、他大学教員や医療施設における医療安全管理者が企画・運営に継続的に参加している。

本年度は、「身体拘束をしない看護と医療安全」をテーマとした医療安全シンポジウムを、Zoom によるオンラインにおいて開催した。

②　実績

回数	月日・場所	内容	参加者
1	令和 4 年 4 月 28 日 (木) 16:00～ 6313 実習室	実行委員会 ・今年度の活動計画の検討	5 名
2	令和 4 年 11 月 9 日 (水) 14:30～ 6313 実習室	実行委員会 ・研究会の開催について	5 名
3	令和 5 年 2 月 24 日 (金)13:30～ 6313 実習室	実行委員会 ・3 月シンポジウム Web 開催に向けた役割分担の決定	5 名
4	令和 5 年 3 月 24 日 (金)16:30～ 6313 実習室	実行委員会 ・3 月シンポジウム Web 開催に向けた打ち合わせ、進行内容の確認　2 名の講師も Web にて参加	7 名
5	令和 5 年 3 月 25 日 (土)13:00～15:50 Zoom による Web 開催	第 16 回岡山医療安全研究会医療安全シンポジウム テーマ:身体拘束をしない看護と医療安全 講師: ・日向　園恵　氏 (日本赤十字社石巻赤十字病院看護部　老人看護専門看護師) ・日山　恵美　氏 (広島大学大学院人間社会科学研究科実務法学専攻実務法学プログラム　教授) 	51 名

（３）エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

①　概要

本研究会は、エンド・オブ・ライフ・ケア(最後の日々の痛みや苦しみが充分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する)に関る基本事項を網羅的に学習して、受講者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的としている。今年度はコロナ禍のため、対面と WEB によるハイブリッド開催とし、臨床倫理に関する支援をテーマとした。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	7月7日(木) 18:00～19:30 WEB開催	その人らしく生きるを支えるために必要な看護の視点	名越恵美准教授 (岡山県立大学)	1.今年度の予定 2.地域包括ケア病棟看護師のアセスメントについて考える	4名
第2回	10月19日(水) 10:30～12:00 対面開催	自分の価値観を知る	實金栄教授 (岡山県立大学)	1. ACPとは 2. もしばなカードを活用する	3名
第3回	2月12日(木) 18:00～19:30 ハイブリッド開催	透析治療の意思決定支援に対するジレンマ	安藤　亮助教 (新見公立大学)	1.終末期の透析が持つ倫理的課題 2. 終末期維持透析患者の医療・ケア方針に対する看護師のストレスマネジメント	8名

③ 今後の展望と課題

COVID19と共存していく中で、闘病から看取りの在り方が変化している。社会システムの変化を見据えながら、地域や病院・施設・学校でどのように患者や家族と関わることが必要なのかを、考えていく。

（４）介護福祉研究会

① 概要

本研究会は、求められる社会ニーズに対応するために、本学の卒業生（介護福祉士・社会福祉士等）が、より質の高い専門職にキャリアアップしていくことを目指している。相談窓口、卒後教育、指導者としてのスキルアップ等を目的として、講義・演習・情報交換などを行っている。

② 実績

	日時・場所	内容	卒業生 参加 人数
第 1 回	8 月 14 日(日) 14:00～16:00 学部共通棟(北) 8105 教室 対面	講師:丹野智文先生(おれんじドア代表) 内容:認知症とともに生きる当事者として世界に向けて発信している活動について講演をいただいた。また、ケア実践上の日ごろの疑問や質問にお答えいただいた。	卒業生 在学生 臨床実践に従事する介護福祉士(実習施設等) 5 名
第 2 回	11 月 5 日(土) 14:00～16:00 学部共通棟(西) 5108 教室 対面	講師:原野かおり先生 内容:介護福祉士の活躍について 講演とともに、フリーディスカッションを行った。在学生は、卒業後の進路のイメージ形成を図り、卒業生は指導者役としてのトレーニングの機会とした。	卒業生 在学生 臨床実践に従事する介護福祉士(実習施設等) 8 名

③ 今後の展望と課題

卒業生のニーズを明らかにし、情報提供、情報交換を行い、相談窓口、再教育、情報発信、指導者としてのスキルアップにつながる企画運営を行う。また、臨床実践で取り組んでいる内容をまとめ、実践研究として発表できる支援を目指すとともに、介護福祉研究会での学びが研究活動または大学院進学につながるよう支援していく。

（５）看護事例研究会

① 概要

本研究会は、看護実践の質の向上を目的として、臨床の看護師が困難と感じる事例や良い看護実践ができたと考える事例について考察し、看護研究に繋げている。研究会は 2 か月に 1 回、水島協同病院で開催するとともに、年に 1 回、糖尿病看護認定看護師を対象とした研修会を開催している。

② 実績

令和 4 年 10 月 16 日(日)に認定看護師を対象とした研修会をハイブリットで開催し、糖尿病を持つ心不全患者への支援についてグループワークを交えて学びを共有した。

病院看護師を対象とした事例研究会は、偶数月にオンラインで開催し、事例を通して看護介入の在り方を検討した(延べ 30 名が参加)。3 例は看護研究としてまとめ、全国の学術学会で発表を行った。

③ 今後の展望と課題

令和 5 年度以降は感染の状況を考慮しながら、対面での事例検討会を継続する予定である。

（６）メンタルヘルス研究会

① 概要

自然が心身を癒す力はこれまでにも多くの研究者から注目を浴び、現在では科学的に証明されている。本研究会は、スウェーデン国立農業科学大学と共同研究をしている自然環境を活用した活動（Nature Based Rehabilitation: NBR）のこころや身体の健康へ及ぼす効果について、親子を対象としたワークショップ形式で学ぶことをねらいとしている。今年度は、植育をテーマに掲げ、以下のワークショップを開催した。「植育」は、幼少期より花や緑に親しみ・育てる機会を提供したり、花や緑を教育・地域活動などに取り入れたりして、世代間交流や地域のコミュニケーションを深める効果も期待されている。

② 実績

回数	講師名(所属)	内容	日程
1	難波久美子、坂野純子 (岡山県立大学)	『ガーデンをデザインする』 学生と親子を対象として草花、ハーブ、野菜を素材として植育プログラムを学生と親子が共に作るワークショップ形式で実施した。	5 月 7 日（土）
2	佐々木理可 (フリーランス)	『野花とつながる』 学生と地域の親子が共に学ぶ体験型ワークショップ。大学キャンパスのガーデンで実際に身近な野花に親しみ、そのつながりを考えながら自然と人との相互作用を学ぶことをねらいとした。	5 月 28 日（土）
3	吉永早苗 (東京家政学院大学)	『サウンドウォーク』 学生と地域の親子が「聴くこと」に対する意識を高め、自然の音への気づきや楽しむ経験を通して、生活の中で季節を感じる感性を育てることをねらいとしたワークショップを開催した。	6 月 18 日（土）
4	難波久美子、坂野純子 (岡山県立大学)	『季節のリースつくり』 地域の親子を対象に、身近な自然への気づき、ものづくりの楽しみを学ぶことをねらいとして、大学構内にある草木を採集してリースをつくるワークショップを開催した。	12 月 3 日（土）

③ 今後の展望と課題

令和 5 年度も引き続き、NBR ガーデンを活用した学生と市民がともに学ぶワークショップを計画している。

３．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ

（１）概要

子育てカレッジは、大学を核とした産・学・官・民協働による岡山県独自の子育て支援の取組である。子育てカレッジは地域創造戦略センターの事業に位置づけられ、「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。

（２）実績

①　協働授業

子育てカレッジの事業メニュー「学生も参加する親子交流」の一環として、様々な授業科目の一部について、チュッピーひろばを利用する親子やスタッフの協力を得て実施することで、地域貢献と保健福祉学部の専門職養成教育の質的充実をめざしている。今年度は以下の協働授業を行った。

ア　「公衆栄養学実習Ⅰ」（担当：保健福祉学部栄養学科　久保田恵）

日　時:令和４年７月 20 日(水)、27 日(水)

内　容:ライフステージ別演習の一環として、地域の子育て支援事業の現状や支援体制を理解し母子の実態について学ぶため、ひろばの参加親子やスタッフと交流した。

参加者:子育て広場参加親子　14 組　スタッフ４名、栄養学科３年生 41 名

イ　「保育内容Ⅰ（言葉）」（担当：保健福祉学部子ども学科　樟本千里）

日　時:令和４年６月７日(火)、14 日(火)

名　称:おはなしの会

内　容:絵本の読み聞かせ、紙芝居、ことば遊びなどを含めたプログラムを立案・実践し、親子との交流を行った。

参加者:６月７日:親子４組、子ども学科２年生 12 名

６月 14 日:親子５組、子ども学科２年生 13 名

ウ　「子育て支援プロジェクト研究Ａ」（担当：保健福祉学部子ども学科　新山順子・京林由季子）

日　時:令和４年９月 21 日(水)

名　称:チュッピーひろば夏祭り

内　容:シャボン玉＆バブルアート、手形・足形アートなどにより親子と交流を行った。

参加者:親子 15 組、子ども学科１年生 28 名

エ　「保育内容Ⅰ（人間関係）」　（担当：保健福祉学科子ども学科　京林由季子）

日　時:令和４年 12 月６日(火)、12 月 13 日(火)

名　称:親子で楽しむミニミニクリスマス

内　容:パネルシアターや合奏などの出し物を企画・実践し親子と交流した。

参加者:12 月６日:親子 11 組、子ども学専攻１年生 14 人

12 月 13 日:親子 12 組、子ども学専攻１年生 14 人

オ　「総合表現」（担当：保健福祉学部子ども学科　新山順子・安久津太一・樟本千里）

日　時:令和４年 12 月 22 日(木)

名　称:こどものためのアートパフォーマンス 2022

内　容:劇・ダンス・合奏などの発表を行い、地域の親子に鑑賞してもらった。

参加者:親子 15 組、子ども学専攻４年生 21 名ほか

（第Ⅰ部-Ⅴ「大学を核とした産学民協働による「子育て支援」活動」参照）

カ　「体育Ⅱ（運動遊び）」　（担当：保健福祉学科子ども学科　新山順子）

日　時:令和5年2月14日(火)

名　称:チュッピーひろばでからだわくわく遊び

内　容:室内プレイパークの環境を整え、親子に開放した。

② 保育ステップアップ講座

＜保育ステップ講座A＞

日　時:令和4年7月21日(木)14:20～15:50

場　所:学部共通棟(東)8902 講義室

テーマ:保育者の学びーSDGsの課題解決のためにー

講　師:山田哲弘 氏(環境学習センター アスエコ所長)

内　容:SDGsに関して、明るい未来を作るために保育者として知っておきたいこと、実践における保育者の在り方などについて講話や演習を通して学んだ。

参加者:33名(子ども学専攻学生25 名、一般8名)

担　当:保健福祉学部子ども学科　京林由季子・高橋多美子

＜保育ステップアップ講座(子ども学科開設記念)＞

日　時:令和5年2月4日(土)14:00～15:30

場　所:学部共通棟(南)8206 講義室

テーマ:現場発・地域主体の連携・協働

講　師:北野幸子 氏(神戸大学大学院人間発達環境科学研究科　教授)

内　容:保育の質の維持・向上を図ることを目的に、個別最適化教育と協働的な学びの実現をめざした保育の専門性の独自性や重要性について学んだ。

参加者: 77名(子ども学科・子ども学専攻学生57名、一般20名)

担　当:保健福祉学部子ども学科　京林由季子・樟本千里・児玉太一

③ 親子で楽しむ音楽会

日　時:令和4年11月13日(日)11:00～12:10

場　所:岡山県立大学　講堂

出　演:岡山フィルハーモニック管弦楽団、岡﨑順子(歌唱)、子ども学専攻4年生

内　容:岡山フィルハーモニック管弦楽団による演奏、楽器紹介、指揮者体験、手遊び、ダンス

参加数:約490名

（第Ⅰ部-Ⅴ「大学を核とした産学民協働による「子育て支援」活動」参照）

（３）評価と来年度の課題

開設13年目となる県大・そうじゃ子育てカレッジは、開設来、産・学・官・民の協働による取り組みを重ねてきた。カレッジの諸事業は回を増すごとに定着し、地域の親子から心待ちにされ好評を得ている。今年度も感染拡大防止に配慮しながら実施可能な時期や方法を模索しながら概ね計画通りに実績を積むことができた。

令和5年度も地域貢献と学生の学びの「場」創造を一層推進するために、官民との協働をより強固なものとしていく。

３．４　社会連携教育推進部門

３．４―１　副専攻「岡山創生学課程」の推進

（１）概要

本学の副専攻「吉備の杜」の中でも低学年が受講する「岡山創生学課程」は、学びの中で地域の魅力に触れ、コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し、ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着形成や共感力を高め、それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ、社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである。このような人材に育てるために修得すべき能力を次のように設定している。

(1) 地域「おかやま」の実態を体験的に学び、「おかやま」の魅力を発信する力
(2) 実践的学習の中からアクション・ラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
(3) 地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
(4) 学部・学科の専門性を活かし、自律的に課題解決法を考える応用力
(5) 持続可能な地域「おかやま」の未来を展望し、一市民としてまた専門家として社会に参画する力

（２）教育プログラムの推進

「岡山創生学課程」の授業科目は、共通教育科目に加え、各学部の学部教育科目で構成している。「社会連携要論」と「地域資源論」が 1 年次の必修であり、学生の主体的な学びを促すためアクティブ・ラーニングを取り入れ、地域創造戦略センター所属の教員等が主に担当した。今年度前期は共通教育部の講義科目が全てオンラインで実施され、「社会連携要論」はオンライン（オンデマンド方式）での実施となったため、講義内容や進行方法を新規に検討し、学習効果をあげられるよう検討を繰り返した。後期は原則対面形式の授業であったが、「地域資源論」は教室の確保が困難であったため、オンライン（主にオンデマンド方式）で実施した。

また、選択の演習科目「地域創生演習」は対面で実施し、「地域インターンシップ」においては、受入団体とも綿密な調整をしながら、オンラインでの指導も併用した。

このほか、社会連携カテゴリーでは企業の経営者による講義（企業の組織と活動）や地方自治体職員による講義（地方自治論 Q）など、各界のトップランナーが講師を担当することで、地域で活躍するために必要な地域の理解と、他者との協働性に関する理解を深める科目群となっている。

３．４―２　副専攻「岡山創生学課程」のカリキュラム改革

社会連携要論

社会連携活動、サービス・ラーニング、ボランティア・地域活動の重要性を含む内容とした。

地域創生演習

事前学習、受入先での体験活動、事後学習により構成される 2 単位科目であり、地域団体や NPO 等でのボランティア活動に補助的に参加し、地域の課題について学習を行った。

地域資源論

第一線で活躍されている外部講師を招聘し、岡山の歴史、文化、スポーツ、交通、情報発信、地域連携活動、総社市(大学が立地する自治体)といったテーマで講義を行った。

地域創生実践論

インタビューにより地域の団体がどのような課題と向き合いながら活動しているか知るための課題探索型授業を実施した。

地域インターンシップ

業務体験を通じて、組織や仕事の流れを理解し、社会人としての必要なスキルや行動規範を身に付けることを主な目的とした授業科目で、夏季休業期間を活用して、自治体や民間企業等での職業体験を実施した。

３．４―３　地域創生推進士

地域「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、地域「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に授与している称号であり、先述の副専攻「岡山創生学課程」の必要単位を取得し、さらに公開イベント等において発表を行うことを認定の要件としている。これらの学修を通じて、地域創生推進士は次のような資質を備えることにより地域での活躍が期待されている。

＜地域創生推進士の資質＞

地域貢献に関する深い理解と実践力

社会に出て活躍できる社会人基礎力

地域を活性化するエネルギッシュな情熱と活力

今年度は令和 5 年 3 月 14 日に認定証の授与式を実施し、23 名の地域創生推進士 3 期生(保健福祉学部 21 名、情報工学部 1 名、デザイン学部 1 名)が誕生した。授与式後のアンケート(回収数 15)から、副専攻「岡山創生学課程」を受講したことによって、地域の方々と協働しながら活動が十分できた、ある程度できたと回答した割合が 100%、地域が抱える課題について認識が十分深まった、ある程度深まったと回答した割合が 100%、自分の得意分野を生かし、地域課題の解決策を考えることが十分できた、ある程度できたと回答した割合も 93.3%であった。副専攻「岡山創生学課程」の履修と主体的な地域活動を通して、地域課題の解決に向けて様々な人々とコミュニケーションをとりながら協働することの重要性を認識し、活動することができたと評価する学生が多くを占め、岡山創生学課程の成果が改めて確認された。

３．５　ボランティア部門

３．５―１　ボランティア活動支援体制

地域創造戦略センターボランティア部門は、令和 2 年度の地域創造戦略センター設立と同時に同センター内に位置づけられた組織である。令和 4 年度には、部門を運営するにあたり、ボランティア部門会議を 3 回開催し、学内のボランティア活動支援体制を検討した。令和 3 年度より、サービスラーニング室を開室し（平日 11:00-14:00）、学生の活動の拠点となるよう整備を行った。

学外との連携については、岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター主催の大学ボランティアセンター連絡会に参加し、大学間での情報交換を行った（令和 4 年 10 月 27 日(木)）。

３．５―２　学生のボランティア組織

学内の団体には、ボランティア部ひまわり、手話部　HAND　POWER、児童養護施設学習ボランティアサークルといった大学公認のサークルの他、TAMAGO、お祭り×社交倶楽部、はっぴーすたんど、温羅シップ、フードバンクグループ、SLR などが前年度に引き続き活動を行っている。

その他、今年度 10 名の学生が岡山県消防応援隊（岡山県消防保安課の岡山県大学生消防応援隊育成・支援事業）の認定を受け、消防活動の普及に向けた活動を行った。

３．５―３　活動状況

ボランティア部門では、学生のボランティア活動を支援するために、学外からのボランティア募集情報の積極的な発信として、学外からの情報提供依頼のあったボランティア活動の掲示（掲示 64 件、申込者数延べ 117 名）、ボランティア研修の掲示（掲示 46 件、申込者数延べ 105 件）を行った。また、外部講師を招いての学内でのボランティア研修を計 3 回開催した。ボランティア活動を実施している学内団体を一覧とした冊子を作成し、ボランティア活動の活性化を図った。

学生の主体的活動のサポート体制の検討として、「学内のボランティア活動・地域活動団体の一括メンバー募集」（3 回）、「学生のボランティア活動団体の活動支援」（随時）、「主体的活動の相談に応じるためのサービスラーニング室開放を開始し、ラーニングコモンズの活用促進方策の充実」（通年）に関する取り組みを行った。

令和 4 年度大学生災害ボランティア研修会
令和 4 年 7 月 21 日（木）

令和 4 年度 SDGs ボランティア研修会
令和 5 年 1 月 26 日(木)

４．外部資金獲得実績と今後の課題

４．１　令和４年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の４つに分類される。平成 19 年度から令和４年度までの合計獲得実績は、図１と表１のとおりで、令和４年度は、前年度と比較して獲得件数、獲得金額ともに増加した。

図１ 外部資金獲得実績の推移

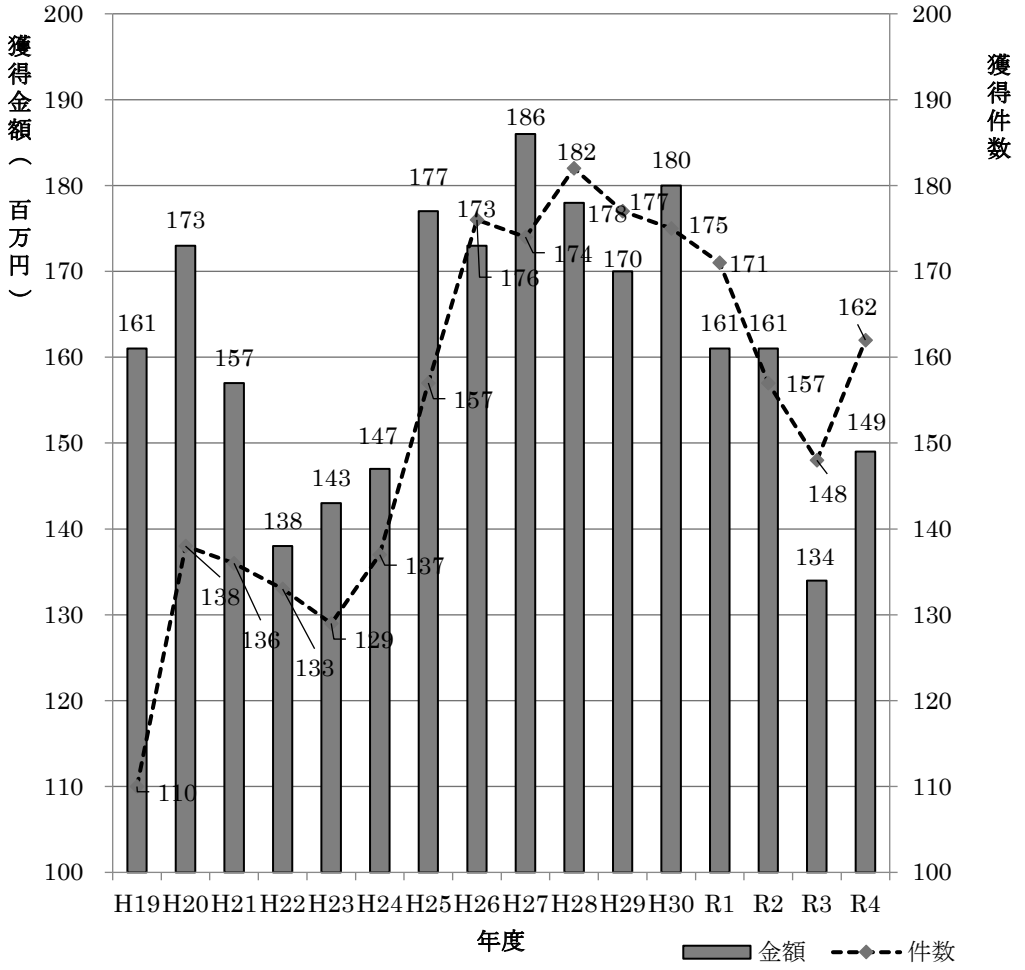


表１ 外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
件数	110	138	136	133	129	137	157	176	174	182	177	175	171	157	148	162
金額	161	173	157	138	143	147	177	173	186	178	170	180	161	161	134	149

外部資金の種類別のデータは表 2 のとおりである。

表 2 外部資金獲得実績(金額の単位は千円で、千円未満切捨)

年度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励寄附金等		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
H19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782	110	160,581
H20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636	138	173,487
H21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639	136	156,537
H22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427	133	138,054
H23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	32	20,873	129	143,021
H24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	28	16,012	137	146,541
H25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	39	25,453	157	177,404
H26	55	90,381	42	24,536	29	32,592	50	25,787	176	173,296
H27	57	82,917	46	31,649	27	52,959	44	18,153	174	185,678
H28	67	89,440	48	21,000	18	45,926	49	21,716	182	178,082
H29	55	78,151	46	24,366	24	38,781	52	29,632	177	170,930
H30	64	90,675	43	17,872	20	48,678	48	22,639	175	179,864
R1	61	78,130	50	24,301	16	40,049	44	18,270	171	160,750
R2	67	90,661	45	15,345	11	32,271	34	22,388	157	160,665
R3	65	89,070	45	13,059	10	17,563	28	14,310	148	134,002
R4	54	79,818	49	22,358	13	26,689	46	20,164	162	149,029

表 2 中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額である。第 3 期中期計画、令和 4 年度計画及び獲得実績の一覧は表 3 のとおりである。令和 4 年度計画と獲得実績を比べると、共同研究等については、件数、金額ともに目標を下回った。また、科学研究費獲得件数、金額についても、目標を下回る結果となった。

表 3 中期計画及び年度計画の目標と今年度の実績(金額の単位は千円)

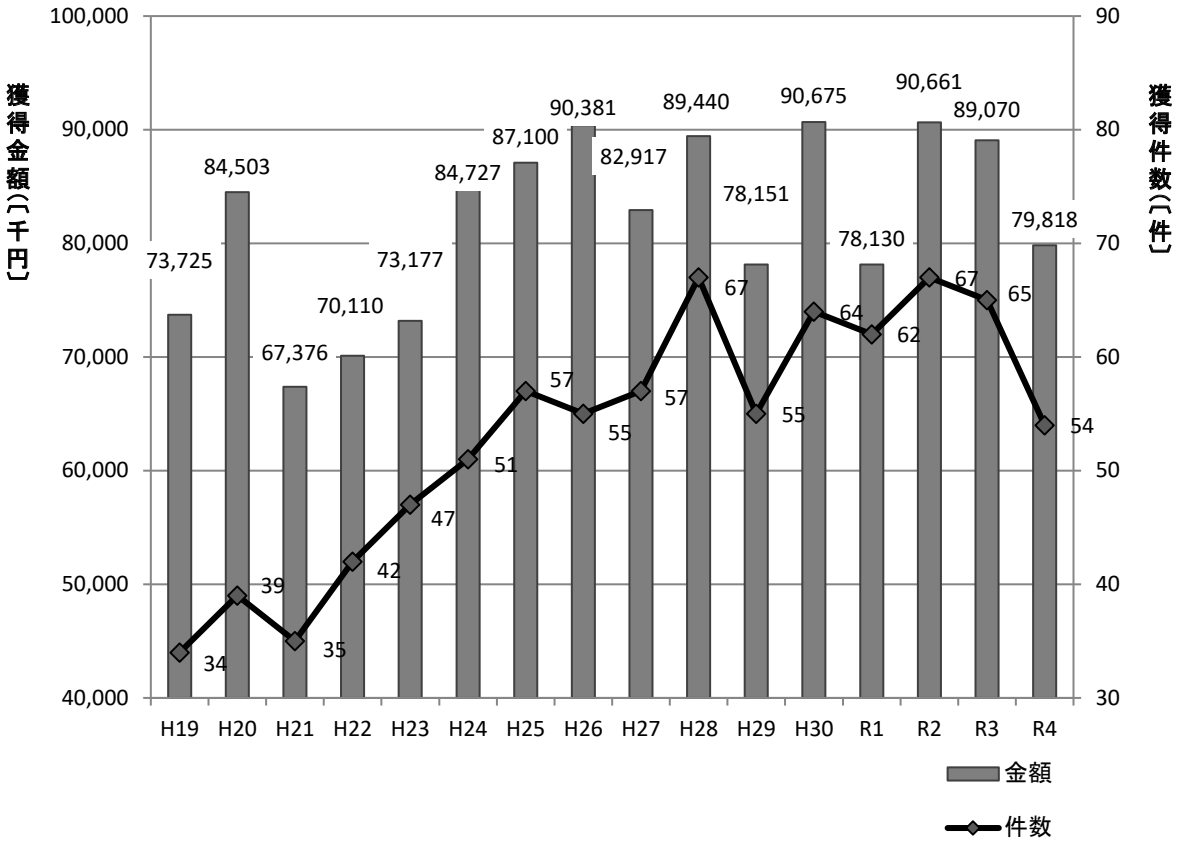
種別	中期計画		R4 年度計画		R4 年度実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金等	130	100, 000	120	90,000	108	69,211

種別	中期計画	R4 年度計画	R4 年度実績
	金額	金額	金額
科学研究費	85,000 以上	83,000 以上	79,818

４．２　科学研究費

科学研究費は獲得件数、獲得金額の推移は図 2 のとおりであり、令和 4 年度は、前年度と比較すると、獲得件数、獲得金額ともに減少した。

図 2 科学研究費の獲得推移



４．３　今後の課題

これまで述べたとおり、前年度と比較すると、科学研究費の獲得実績は、件数、金額ともに減少となったものの、令和 4 年度の共同研究、受託研究及び教育奨励寄附金の獲得件数、獲得金額はともに増加し、コロナ禍からの回復傾向にあると言える。

今後、運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

巻末資料

参考資料

２．２－３　各種委員の応嘱（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
安久津　太一	岡山県･岡山市教育委員会	岡山県･岡山市教員等育成協議会委員
伊東　秀之	岡山県	岡山県環境審議会委員
		岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員
井上　祐介	岡山県保健福祉部長寿社会課	令和 3 年度介護予防効果測定に係る専門家
井上　里加子	岡山市	「岡山包括的セクシュアリティ教育研究会」設立総会ならびにキックオフイベント参加
	岡山包括的セクシュアリティ教育研究会	『指導者養成ワーキンググループ』ミーティング参加
		「岡山包括的セクシュアリティ教育研究会」定例会議参加
		「岡山包括的セクシュアリティ教育研究会」委員
岩満　賢次	総社市	総社市国民健康保険運営協議会副委員長
大倉　高志	総社市	総社市障害者施策推進協議会委員
	(地独)岡山県精神科医療センター	司法精神入院棟　倫理会議委員
沖本　克子	岡山県	岡山県医療費適正化推進協議会委員
		岡山県看護職員確保対策委員会委員
川上　祐生	岡山県	岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員
京林　由季子	内閣府	心の輪を広げる障害者理解促進事業(「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」公募･表彰)審査委員
	総社市	総社市人権教育推進協議会会員
口村　淳	長浜市長寿推進課	長浜市高齢者虐待防止ネットワーク協議会委員
久保田　恵	岡山市教育委員会	岡山市学校給食運営検討委員会委員
近藤　理恵	岡山県	岡山県公益認定等委員会委員
		岡山県保健福祉学会理事
		岡山県人権政策審議会委員
	笠岡市	笠岡市子ども･子育て推進会議委員
	総社市	総社市特別職報酬等審議会委員
		総社市子ども･子育て会議委員
		全国屈指福祉会議

氏名	従事先	従事内容
近藤　理恵	総社市	総社市総合計画審議会委員
坂野　純子	岡山県	岡山県職業能力開発審議会委員
	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
佐藤　ゆかり	岡山市	岡山市都市・消防政策審議会委員
	総社市	総社市地域包括ケア会議委員
	浅口市	浅口市介護認定審査会委員
澤田　陽一	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
周防　美智子	岡山県教育委員会	「スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業」におけるスーパーバイザー
	岡山県危機管理課	岡山県国民保護協議会委員
	岡山市教育委員会	岡山市問題行動等対策委員会委員
	総社市	総社市都市計画審議会委員
	高梁市教育委員会	高梁市いじめ問題対策専門委員会委員
	滋賀県	滋賀県いじめ再調査委員会委員
	滋賀県守山市	守山市いじめ問題第三者調査委員会委員
	奈良県教育委員会	スクールカウンセリングカウンセラー
	大津市教育委員会	大津市教育委員会委員
住吉　和子	岡山市	岡山市国民保護協議会委員
		岡山市防災会議委員
髙戸　仁郎	岡山県	倉敷井笠地区福祉有償運送運営協議会会長
		岡山地区福祉有償運送運営協議会会長
	岡山県身体障害者更生相談所	福祉用具展示・体験コーナー運営委員会委員
	岡山市	岡山市スポーツ推進審議会委員
	浅口市	浅口市障害支援区分認定審査会委員
		浅口市障害者自立支援協議会委員（会長）
竹本　与志人	岡山市・（一社）はるそら	岡山市協働のまちづくり推進事業 認知症援助業務・支援内容のニーズ調査とモデル事業の技術指導、意見聴取及び倫理審査
	早島町	認知症初期集中支援チーム検討委員会委員
田淵　真愉美	総社市	学校給食センター運営審議会委員
中野　菜穂子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員
	岡山市	岡山市児童福祉審議会委員
中村　光	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
實金　栄	吉備中央町	吉備中央町介護認定審査会委員
村社　卓	岡山県	岡山県発達障害者支援地域協議会委員
	岡山県保健福祉部	岡山県障害者施策推進審議会等委員

氏名	従事先	従事内容
村社　卓	岡山県保健福祉部	岡山県介護保険制度推進委員会委員
		岡山県介護保険審査会委員
森永　裕美子	岡山県	岡山県都市計画審議会委員
		岡山県自然環境保全審議会委員
		岡山県建築審査会委員（公衆衛生分野）
		岡山県備中保健所運営協議会委員
		おかやま健康づくりアワード審査委員会委員
	倉敷市	「くらしき 3 ベジプロジェクト」における評価指標の検討
		倉敷市建築審査会委員
	総社市	全国屈指福祉会議
		総社市自殺対策連絡協議会委員
		総社市医療費適正化推進委員会委員
		総社市介護保険運営協議会委員
		総社市病院施設整備補助事業審査委員会委員
	香川県高松市	「高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会」委員
	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部	厚生労働行政推進調査事業『自治体における包括的ケアの推進に関する研究』研究協力者
森本　美智子	岡山県	岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員
山下　広美	岡山県	第 22 期岡山海区漁業調整委員会委員
		岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員
山本　登志子	岡山県農林水産総合センター	外部知見活用型・産学官連携研究事業に係る評価委員
樂木　章子	総社市	日本語教育事業運営委員会委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	総社市	総社市体育施設指定管理者選定審議会委員
伊藤　照明	岡山県	おかやま IoT 推進ラボ協議会委員
稲井　寛	岡山県	岡山県本人確認情報保護審議会委員
	岡山市	岡山市住居表示台帳整備及び住居表示管理システム構築・保守業務委託総合評価一般競争入札に係る学識経験者の意見の聴衆について（依頼）

氏名	従事先	従事内容
稲井　寛	井原市	井原市情報化推進懇話会委員
尾﨑　公一	岡山県	岡山県大規模小売店舗立地審査会
	岡山県工業技術センター	岡山県工業技術センター外部評価委員会委員
齋藤　誠二	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク・専門調査員
佐藤　将也	倉敷市	マイナンバー制度に係る住民基本台帳に関する事務の特定個人情報保護評価書の点検
佐藤　洋一郎	備前市	備前市行政評価市民委員会委員
末岡　浩治	総社市	総社市総合計画審議会委員
滝本　裕則	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク・専門調査員
妻屋　彰	真庭市	真庭市指定管理者選定審議会委員
	(独)製品評価技術基盤機構	事故原因技術解析ワーキンググループ委員
		事故動向等解析専門委員会委員
横川　智教	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	NEDO 技術委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
風早　由佳	浅口市教育委員会	第 14 回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテストの審査及び講評
嘉数　彰彦	岡山県	景観アドバイザー
		岡山県環境審議会委員
		第 74 回全国植樹祭岡山県実行委員会の式典等専門委員会委員
		岡山芸術文化賞選考委員会委員
	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員
齋藤　美絵子	岡山県	景観アドバイザー
	岡山市	岡山市浸水対策推進協議会委員
		岡山市都市・消防政策審議会委員
	浅口市	浅口市都市計画審議会委員
柴田　奈美	岡山県	岡山県文化振興審議会委員
		第 74 回全国植樹祭岡山県実行委員会の式典等専門委員会委員
	岡山市	岡山市文化芸術推進会議委員

氏名	従事先	従事内容
柴田　奈美	美咲町教育委員会	「第 26 回さくらのうた」俳句部門審査員
難波　久美子	岡山県	企業発！みらプロ事業におけるアドバイザー
西川　博美	岡山県	岡山県環境影響評価技術審査委員
		岡山県建築士審査会委員
		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県県民生活部指定管理者候補選定委員会委員
	岡山市	岡山市環境影響評価審議会委員
	倉敷市	倉敷市都市計画審議会委員
		倉敷市都市景観審議会委員
	総社市	総社市都市計画審議会委員
	早島町	早島町都市計画審議会委員
西田　麻希子	岡山県	「岡山県統計グラフコンクール」審査員
野宮　謙吾	岡山県	岡山県屋外広告物審議会委員
		岡山県屋外広告物講習会講師
畠　和宏	岡山市	岡山市景観審議会委員
	倉敷市	児島学校給食共同調理場整備運営事業者選定委員会委員
	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員
福濱　嘉宏	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
		倉敷市住生活基本計画審議会委員
穂苅　耕介	笠岡市	笠岡諸島交流センター交流活性化事業委託プロポーザル方式審査委員会の委員
	愛知県愛西市	愛西市空家等対策協議会委員
山下　万吉	岡山県立総社高等学校	美術の授業に於いてのデザイン学習のアドバイザー

２．２－３　講師派遣（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
大倉　高志	沖縄県立総合精神保健福祉センター	自死遺族支援者研修講師
小畑　千晴	赤磐市	赤磐市男女共同参画セミナー講師 「人と人との繋がり方～対人トラブルの予防に向けて～」
	徳島県警察本部	警察官を対象とした研修「臨床心理士から見たストーカー・配偶者暴力事案の特徴」

氏名	従事先	従事内容
川下　菜穂子	岡山県備前保健所	未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(吉備高原学園高等学校)
	岡山県備中保健所	未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(岡山県立矢掛高等学校)
	岡山県備北保健所新見支所	未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(岡山県立共生高等学校)
	岡山県美作保健所	未来のパパ＆ママを育てる出前講座講師(岡山県立津山東高等学校)
久保田　恵	吉備中央町	吉備中央町保育協議会研修会講師
近藤　理恵	岡山県男女共同参画推進センター	DV 被害者支援資質向上研修事業講師
	吉備中央町教育委員会	第 6 回吉備中央町人権教育講座講師 子どもの人権「見過ごされてきたヤングケアラーを連帯して支える社会に」
佐々木　新介	岡山市立市民病院	「看護研究研修:JNA ラダーレベルⅢ以上」講師
		「看護研究研修:JNA ラダーレベルⅡ以上」講師
周防　美智子	笠岡市	ひきこもりへの理解を深めるフォーラム講師
	瀬戸内市	瀬戸内市放課後児童クラブ支援員等研修会講師
	滋賀県栗東市教育委員会	教職員研修講座「就学前保育教育講座」講師
	大津市教育センター	令和 4 年度初任者研修「児童生徒理解と保護者対応」
住吉　和子	(独)国立病院機構岡山医療センター	看護部講師
髙戸　仁郎	沖縄県教育庁県立学校教育課	進学エンカレッジ推進事業講師
名越　恵美	(独)国立病院機構岡山医療センター	看護部講師
村社　卓	岡山県消防学校	消防学校教育課程「社会福祉原論」講師
森永　裕美子	岡山県	中堅保健師研修会講師
	倉敷市	くらしき 3 ベジプロジェクトを中心とした保健事業の「評価指標」勉強会講師
	香川県	「虐待の早期発見・早期対応のための市町保健師育成事業」講師・アドバイザー
	高松市	保健師等研修会講師
	さぬき市健康福祉部	さぬき市保健師研修会講師
	広島県健康福祉局	前期新任期保健師研修会講師

氏名	従事先	従事内容
森永　裕美子	京都市保健福祉局	管理監督期保健師業務研修会講師
	名古屋市健康福祉局	保健師研修（前期）講師
	静岡県健康福祉部	地域保健従事者研修会（中堅期保健師編）講師 講義「中堅期保健師が獲得すべき能力」及び演習
	川口市	川口市精神障害者訪問支援強化事業研修会講師
	国立保健医療科学院	短期研修　難病患者支援従事者研修（保健師等）講師

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤　照明	倉敷市教育委員会　ライフパーク倉敷　市民学習センター	「身近なAIをもっと知ろう」

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
島田　清徳	岡山県立美術館	岡山県立美術館こんにちは美術館事業　じゅにあ・ミュージアム・Lab＜1 月＞「テープ！TAPE！てーぷ！」講師
関﨑　哲	総社市	「雪舟ねずみ　キャラクタースタンプを作ろう」ワークショップに係る講師
	倉敷市立美術館	美術講座「銅版画・石版画」講師（前期）
		美術講座「銅版画・石版画」講師（後期）
難波　久美子	備中県民局地域づくり推進課	つながる×つなげる応援事業アドバイザー
三原　鉄平	岡山県立総社高等学校	美術の授業に於いてのデザイン学習のアドバイザー
渡邉　操	岡山県	企業発！みらプロ事業におけるアドバイザー

参考資料

２．５－１　各種委員等の応嘱（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
網野　裕子	第 22 回日本感染看護学会学術集会	学会協力委員
池田　隆英	矢掛町立川面小学校	学校運営協議会委員
井上　幸子	(一社)日本精神保健看護学会	(一社)日本精神保健看護学会編集委員会　査読委員
	日本精神保健看護学会第 33 回学術集会・総会	日本精神保健看護学会第 33 回学術集会・総会　査読委員
井上　祐介	(福)総社市社会福祉協議会	総社市社会福祉協議会評議員
岩満　賢次	(福)岡山県共同募金会	評議員
		配分委員
	(福)岡山県社会福祉協議会	「市町村社協職員向けコミュニティソーシャルワーク研修(試行版)」アドバイザー
	(福)総社市社会福祉協議会	総社市ボランティアセンター運営委員会委員
		総社市ボランティアセンターボランティア推進部会部会長
		総社市地域福祉活動計画策定委員会委員
		総社市生活困窮支援センター協議会学習支援・子ども食堂等支援部会委員
	大学コンソーシアム岡山	「第 99 回社会人教育委員会」委員長
	(特非)岡山 NPO センター	KOTOMO 基金事業アドバイザー
岡﨑　愉加	第 28 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	第 28 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会企画委員
荻野　哲也	岡山大学医学部	岡山大学病理専門研修プログラム管理委員会委員
川上　貴代	第 69 回日本栄養改善学会学術総会	懇親会運営委員
	第 11 回日本栄養学教育学会学術総会	招待講演Ⅱ座長
	福岡女子大学	教員の昇任審査に係る外部審査委員
川下　菜穂子	第 22 回日本感染看護学会学術集会	学会協力委員

氏名	従事先	従事内容
桐野　匡史	(一社)日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」等査読委員
	(一社)日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学会誌査読委員
	(一社)日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会誌査読委員
		日本認知症ケア学会誌編集委員
		中国・四国ブロック大会プログラム委員
口村　淳	滋賀県社会福祉学会	第 41 回滋賀県社会福祉学会自由研究発表・実践報告(分科会)座長
久保田　恵	第 69 回日本栄養改善学会学術総会	懇親会運営委員
近藤　理恵	笠岡市	笠岡市子ども・子育て推進会議委員
	(福)総社市社会福祉協議会	総社市生活困窮支援センター協議会委員
		総社市重層的支援体制準備委員会委員
	(特非)岡山 NPO センター	「子ども支援力調査事業」調査委員
佐々木　新介	第 22 回日本感染看護学会学術集会	企画委員会委員
佐藤　ゆかり	(一社)日本認知症ケア学会	中国・四国ブロック大会プログラム委員
	(福)総社市社会福祉協議会	総社市生活支援サービス検討委員会委員
		総社市重層的支援体制準備委員会委員
佐藤　美恵	(公社)岡山県看護協会	教育委員会委員
	第 22 回日本感染看護学会学術集会	企画委員会委員
首藤　恵泉	(公社)岡山県栄養士会	公益社団法人岡山県栄養士会選挙管理委員
周防　美智子	(福)総社市社会福祉協議会	総社市ひきこもり支援等検討委員会委員
	岡山県立岡山盲学校	第 1 回いじめ対策委員会指導・助言
		第 2 回いじめ対策委員会指導・助言
関根　紳太郎	(一社)日本メディア英語学会	日本メディア英語学会理事会監事
		日本メディア英語学会誌査読委員
髙戸　仁郎	(一社)日本人間工学会中国・四国支部	日本人間工学会中国・四国支部役員
		日本人間工学会中国・四国支部第 2 期支部代議員

氏名	従事先	従事内容
髙戸　仁郎	岡山県ハンドボール協会	岡山県ハンドボール協会の常任理事
	中四国学生ハンドボール連盟	中四国学生ハンドボール連盟副理事長
	視覚障害リハビリテーション協会	視覚障害リハビリテーション協会理事
高橋　多美子	和歌山大学教育学部付属小学校	和歌山大学教育学部付属小学校「教育研究発表会」に係る研究授業及び研究協議会助言者
高橋　吉孝	(公財)ウエスコ学術振興財団	ウエスコ学術振興財団評議員
	(一財)大学教育質保証・評価センター	大学機関別認証評価専門委員
髙林　範子	第 22 回日本感染看護学会学術集会	学会協力委員
竹本　与志人	(公社)岡山県社会福祉士会	「認定社会福祉士制度スーパービジョン」スーパーバイザー
	(公社)日本医療ソーシャルワーカー協会	研修事業検討担当チーム員
	(一社)日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学会編集委員会委員
		日本在宅ケア学会代議員
	(一社)日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会代議員
		中国・四国ブロック大会長
	(一社)日本ケアマネジメント学会	高齢者および高齢社会に関する検討ワーキンググループ委員
	(一社)日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」臨時査読委員
	日本学術会議	日本学術会議連携会員
	日本老年社会科学会	日本老年社会科学会査読委員
	大阪公立大学大学院	科学研究費助成事業(若手研究)「認知症専門医療機関の連携担当者における認知症高齢者への受診援助の実践に関する研究」に関する専門的助言
		科学研究費助成事業(基盤研究 C)「認知症高齢者の経済問題を軽減・解決するためのソーシャルワーク実践モデルの開発」に関する専門的助言
田中　晃一	岡山科学技術専門学校	教育課程編成委員会委員

氏名	従事先	従事内容
中野　菜穂子	岡山県立成徳学校	岡山県立成徳学校苦情解決要領に基づく第三者委員
中村　光	(一社)日本老年療法学会	評議員
	(一社)日本言語聴覚士協会	代議員選挙管理委員
		生涯学習部部員
		学術誌編集委員会委員
	(一社)日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会代議員
		機関誌編集委員会委員
	(福)総社市社会福祉協議会	第三者委員(苦情解決委員)
	(公財)医療研修推進財団	言語聴覚士試験委員
	日本コミュニケーション障害学会	常任理事
名越　恵美	(一社)日本がん看護学会	日本がん看護学会誌査読委員
	(一社)日本看護研究学会	日本看護研究学会学会雑誌専任査読委員
	(公社)岡山県看護協会	研究倫理審査委員会委員
	第 37 回日本がん看護学会学術集会	第 37 回日本がん看護学会学術集会査読委員
	(公社)日本看護科学学会	日本看護科学学会　社員(代議員)
實金　栄	(一社)日本看護研究学会	日本看護研究学会学会雑誌専任査読委員
	(公社)日本看護協会	第 53 回日本看護学会学術集会抄録選考委員
		第 54 回日本看護学会学術集会抄録選考委員
	(公社)岡山県看護協会	看護師職能委員会委員
村社　卓	(福)旭川荘	第三者委員
森永　裕美子	(公社)岡山県看護協会	保健師職能委員会委員
	(公社)日本看護協会	厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業「保健師の活動基盤に関する基礎調査」有識者会議出席

氏名	従事先	従事内容
森永　裕美子	全国健康保険協会香川支部	全国健康保険協会香川支部評議会評議員
	PwC コンサルティング合同会社	保健師の人材育成ワーキンググループ委員
森本　美智子	第 22 回日本感染看護学会学術集会	企画委員会委員長・学術集会長

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤　信之	(一社)電気学会	高速・高周波集積回路の新分野展開と高度化技術調査専門委員会委員
	(一社)電子情報通信学会中国支部	次期支部長
		支部長
	(一社)電子情報通信学会	ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員
稲井　寛	(公財)八雲環境科学振興財団	選考委員会委員
岩橋　直人	名古屋工業大学	学位論文の外部審査員
大久保　賢祐	(一社)電子情報通信学会 APMC(アジア・パシフィックマイクロ波会議)国内委員会	委員
	(一社)電子情報通信学会 APMC(アジア・パシフィックマイクロ波会議)2022 実行委員会	APMC2022 実行委員 財務委員長
	(一社)電子情報通信学会マイクロ波研究会	副委員長
	(一社)電子情報通信学会 2nd Thailand-Japan Microwave Student Workshop	General Co Chairs (実行委員長)
	IEEE 広島支部	Executive Committee(理事:前支部長)
	国際電波科学連合(URSI)C 小委員会	第 25 期委員
太田　俊介	レスキューロボットコンテスト実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員(レスキューロボットコンテスト 2022・2023)

氏名	従事先	従事内容
尾﨑　公一	(公社)日本鋳造工学会中国四国支部	第 36 期日本鋳造工学会中国四国支部理事
	岡山県産業振興財団	非常勤役員(理事)として理事会に参加
小枝　正直	レスキューロボットコンテスト実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員(レスキューロボットコンテスト 2022・2023)
齋藤　誠二	(一社)日本人間工学会	日本人間工学会第 7 期編集委員会委員
榊原　勝己	(一社)公立大学協会	教学マネジメントに関する WG 委員
佐藤　将也	電子情報通信学会中国支部	学生会顧問
佐藤　洋一郎	(一社)日本経済団体連合会	産学連携推進分科会委員
	岡山大学	岡山大学利益相反マネジメント委員会委員
	岡山県立総社南高等学校	学校評議員及び学校関係者評価委員
髙林　健人	電子情報通信学会中国支部	学生会顧問
滝本　裕則	山陽新聞社	おかやまキッズプログラミングアワード 2022 の審査員
筒井　優介	(一社)日本機械学会	設計工学・システム部門　広報委員会委員
妻屋　彰	(一社)日本機械学会	学術誌編修委員会委員
		設計工学・システム部門　総務委員会委員
		第 32 回設計工学・システム部門講演会実行委員長
		設計工学・システム部門講演会活性化委員会委員長
		設計工学・システム部門　表彰委員会委員長
春木　直人	(一社)日本機械学会	生産システム部門運営委員
		代表会員
		熱工学部門運営委員会委員
	日本熱物性学会	評議員
福田　忠生	レスキューロボットコンテスト実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員副実行委員長(レスキューロボットコンテスト 2022・2023)
山内　仁	(一社)電子情報通信学会	ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員
	レスキューロボットコンテスト実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員(レスキューロボットコンテスト 2022・2023)

氏名	従事先	従事内容
渡辺　富夫	(公財)ウエスコ学術振興財団	選考委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
北山　由紀雄	(株)山陽新聞社	第 73 回岡山県美術展覧会審査員(第 5 部写真部門)
柴田　奈美	みつ朝日学園朝日塾中等教育学校	朝日塾“ゆめ”俳句大賞選考委員
	良寛椿の会	第二回全国短歌・俳句募集審査員
津田　勢太	(一社)岡山県建築士事務所協会	岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員
	岡山県建築住宅センター(株)	構造計算適合性判定専門委員
	(公財)ウエスコ学術振興財団	選考委員
難波　久美子	(公財)倉敷民芸館	倉敷民藝館賞選考委員会選考委員
西川　博美	全国近代化遺産活用連絡協議会	全国近代化遺産活用連絡協議会津山大会ファシリテーター
西田　麻希子	(公財)岡山県健康づくり財団内　岡山県禁煙問題協議会	禁煙啓発ポスターコンクール審査員
野宮　謙吾	岡山県高等学校 PTA 連合会	第 65 回中国・四国地区高等学校 PTA 連合会大会岡山大会「シンボルマーク」の審査について
原田　和典	(一社)日本音響学会	騒音・振動研究委員会幹事
向山　徹	(一社)日本建築学会中国支部	設計審査委員会委員
		常議員

２．５－１　講師派遣（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
岩岡　裕二	日本農芸化学会中四国支部第 35 回若手研究者シンポジウム	日本農芸化学会中四国支部第 35 回若手研究者シンポジウム講師 「食品由来の機能性成分を対象とした化学的研究」

氏名	従事先	従事内容
岩満　賢次	(福)総社市社会福祉協議会	ジュニアボランティア養成講座講師
岡﨑　愉加	岡山県性教育協議会	第 36 回岡山県性教育研究大会講師
	岡山県高等学校教職員組合	保健室からの発信　2022 夏の全国学習交流集会 in 岡山　自主講座講師
	津山警察署管内少年警察協助員連絡協議会　津山警察署管内少年をまもる母の会	警察ボランティア等と対象とした研修会講師 「思春期の性、子どもの性的問題行動等について」
沖本　克子	聖カタリナ大学	「関係法規」非常勤講師
喜村　仁詞	国立大学法人　九州大学	九州大学次世代型大学教育開発センター主催研修会「第 7 回アドミッション・スペシャリスト能力開発研修会」講師(文部科学省教育関係共同利用拠点事業)
京林　由季子	岡山市保育協議会	岡山市保育協議会 6 ブロック総会講師
樟本　千里	大学コンソーシアム岡山	大学コンソーシアム岡山　備美っと大学キャラバン隊　新庄村教育委員会共催事業「生涯学習推進大会」講師
口村　淳	(一社)滋賀県介護福祉士会	一般社団法人滋賀県介護福祉士会「多職種連携研修」講師
		「介護福祉士ファーストステップ研修」講師 「職種間連携の実践的展開」
	(福)滋賀県社会福祉協議会	「介護支援専門員研修　専門課程Ⅰ」
	(福)慈恵会	「慈恵会在宅サービス部門研修会」講師 「介護サービスにおける生活相談員の役割～家族やご利用者・外部から信頼される事業所となるために～」
久保田　恵	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「高齢期の食と健康」
	総社市ファミリーサポートセンター「あい・あい」	保育サービス講習会「子どもの栄養と食生活」講師
近藤　理恵	(特非)オカヤマビューティサミット	岡山市配偶者暴力被害者支援事業「DV 支援者研修会」講師 支配から自立へ DV 被害者支援について
佐々木　新介	(公社)岡山県看護協会	岡山県看護協会(研修センター担当)教育研修講師 「看護研究の実践」

氏名	従事先	従事内容
佐々木　新介	(公社)岡山県看護協会	岡山県看護協会支部研修会講師
	(公社)赤磐医師会	赤磐医師会病院看護部看護研究講師
佐藤　ゆかり	(一社)岡山県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修講師 「自立に向けた介護実践の指導領域」
	(福)総社市社会福祉協議会	総社市介護予防・生活支援サポーター養成講座講師
	服部地区地域づくり協議会	服部地区地域づくり協議会セミナー講師 「認知症とともに生きる」
周防　美智子	(福)総社市社会福祉協議会	ひきこもりサポーター養成講座講師
		総社市ひきこもり支援フォーラム講師
	(福)栗東市社会福祉協議会	「ひきこもりの理解と支援～家族のつながり・地域のつながり～」講師
	(特非)日本放課後児童指導員協会	放課後児童支援員認定資格研修講師
	広島県市町村保健活動協議会	広島県市町村保健活動協議会保健師部会研修会講師
	神戸市中学校校長会	生徒指導研修講師 「生徒指導における事案発生予防と記録」
	岡山県立岡山東支援学校	「いじめの問題に関する研修会」講師
		PTA 人権教育研修会講師
住吉　和子	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	「看護研究研修」講師
	岡山大学病院	糖尿病性腎症重症化予防のための保健指導スキルアップセミナー講師
髙戸　仁郎	視覚障害リハビリテーション協会	第 30 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会シンポジウム講師
	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「自宅でできるフレイル予防」
髙橋　多美子	日本保育協会大阪支部女性部	日本保育協会大阪支部女性部研修会講師 「幼児期における防災教育」
竹本　与志人	(一社)日本老年医学会	第 64 回日本老年医学会学術集会講師
	(公社)日本医療ソーシャルワーカー協会	医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ【第 1 回目】
		医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ【第 2 回目】

氏名	従事先	従事内容
竹本　与志人	(公社)日本社会福祉士会	e-ラーニング研修講義講師 「ソーシャルワークとしての調査と研究－ソーシャルワーク・リサーチの考え方と進め方-」 「ソーシャルワーク実践のための量的研究法－実践編－」
趙　敏廷	(一社)岡山県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修講師 「自立に向けた介護実践の指導領域」
中野　菜穂子	岡山大学大学院保健学研究科	「『妊娠中からの母子支援』即戦力養成プログラム 22」講師 「子育て支援における助産師の役割」
中村　光	(一社)日本高次脳機能障害学会	第 46 回日本高次脳機能障害学会学術総会サテライト・セミナー「失語症の言語治療と社会的支援」講師
	(一社)岡山県言語聴覚士会	「失語症と他の高次脳機能障害の症状と対応」
		「失語症とは何か」
		「コミュニケーション支援技法」
		「外出同行支援」
	第 48 回日本コミュニケーション障害学会	第 48 回日本コミュニケーション障害学会学術講演会におけるシンポジウムパネラー 「シンポジウム 1:失語症の言語訓練」
	宮城県言語聴覚士会	宮城県言語聴覚士会設立 10 周年記念講演会講師 「失語症訓練の今までとこれから」
	岐阜県言語聴覚士会	言語聴覚障害の臨床に携わる専門家向け講演会講師
	青森県言語聴覚士会	青森県言語聴覚士会専門講座講師 『ST のための研究法-研究計画から学会発表・論文作成まで-』
名越　恵美	(公社)岡山県看護協会	岡山県看護協会(研修センター担当)教育研修講師 「保健師助産師看護師実習指導者講習会看護過程」
	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	「看護研究研修」講師
	心臓病センター榊原病院	看護研究指導講義

氏名	従事先	従事内容
實金　栄	(公社)岡山県看護協会	岡山県看護協会(研修センター担当)教育研修講師 「看護研究の実践」
森永　裕美子	(公社)日本看護協会	「地域課題の解決に向けた事例検討会の推進」に関する説明会講師 「「複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討会の手引」を活用した事例検討会の企画・運営」
	(公社)岩手県看護協会	看護研修会「保健師スキルアップ研修」 複雑かつ多重課題を支援する事例検討会 ～個別解決から地域課題解決につなげる～
	日本公衆衛生協会	「保健師等ブロック別研修会(中国・四国ブロック)」講師

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤　照明	徳島県地域包括ケアシステム学会	徳島県地域包括ケアシステム学会市民講座のパネリスト
尾﨑　公一	(株)日立産業制御ソリューションズ	「CAE と機械学習を用いた欠陥予測」講演
小枝　正直	(一社)電子情報通信学会関西支部	ICT基礎講座講師
	関西学園　岡山中学校	「中学 2 年生プログラミング講座の出前授業」講師
榊原　勝己	(一社)公立大学協会	「教学 IR 実践のヒント(前編・後編))」
佐藤　将也	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「サイバーセキュリティ入門」
	岡山大学	「バーチャル企業見学会」講師
佐藤　洋一郎	(一社)公立大学協会	第 1 回学長研修会講師
	(公財)岡山県産業振興財団	「コーディネーター情報交換会」講師
妻屋　彰	(公社)精密工学会等	生産技術特別セミナー講師
野田　祐輔	(株)アイセロ	「第一原理計算(基礎編)」セミナー講演講師
	ダイキン工業(株)	「第一原理計算・MIを活用したシリコン結晶中の大規模欠陥のシミュレーション」セミナー講演講師
野田　祐輔	おかやま次世代電池共創コンソーシアム	第 2 回セミナー講師

氏名	従事先	従事内容
春木　直人	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「熱エネルギーの備蓄と熱輸送」

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
今田　千裕	岡山県立倉敷工業高等学校	課題研究発表会の講師
岡北　一孝	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山）	吉備創生カレッジ講師「大原美術館とローマの建築」
柴田　奈美	岡山県高等学校文化連盟	「第 24 回高校生文芸道場中国ブロック大会(岡山)兼高校生文芸道場おかやま 2022」俳句部門の応募作品の審査および講評執筆
関﨑　哲	(公財)岡山文化芸術創造	アートワークショップ講師
難波　久美子	岡山県立倉敷工業高等学校	課題研究発表会の講師
西田　麻希子	関西学院大学	講義・演習講師「目的をもって伝えるグラフィックスデザイン」
原田　和典	(公財)岡山県産業振興財団	「室内音響空間の設計と評価に関するミニシーズ発信会」に係る講師
真世土　マウ	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山）	古代アメリカへの旅
渡邉　操	岡山県立倉敷工業高等学校	課題研究発表会の講師

２．５－１　非常勤医師（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
荻野　哲也	(一社)岡山市医師会総合メディカルセンター	病理医(生検材料・外科材料の診断等)
	三原赤十字病院	生検材料及び外科材料の診断、臨床各科との症例検討
	鳥取生協病院	病理医として生検材料及び外科材料の診断、臨床各科との症例検討

２．５－１　非常勤講師・役員（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	岡山赤十字看護専門学校	「学習と教育」
	環太平洋大学	教育社会学
井上　祐介	(一社)日本老年学的評価研究機構	一般社団法人日本老年学的評価研究機構 JAGES 研究員
入江　康至	桃山学院教育大学	「生活習慣病論」
岩満　賢次	新見公立大学	「就労支援サービス」
	愛知学院大学	春学期　「社会福祉・教育」 秋学期　「言語聴覚心理評価学」
	豊岡短期大学	「相談援助演習・実習・実習指導」「社会調査の基礎」「福祉計画と福祉行財政」
岡﨑　愉加	岡山医療センター附属岡山看護助産学校	「家族関係論」
小畑　千晴	玉野総合医療専門学校	「人間理解の心理学」
	公立大学法人和歌山県立医科大学	助産学専攻科　非常勤講師 「周産期のメンタルヘルス」
		保健看護学部　非常勤講師 「精神療法(心理療法)」
喜村　仁詞	学校法人中内学園流通科学大学	キャリアアップセミナー(流通・マーケティング)講師
樟本　千里	岡山大学	「教育心理学概説 A①」
	川崎医療福祉大学	春学期　「発達心理学」 秋学期　「幼児理解の理論と方法」
児玉　太一	就実学園就実大学	「幼児の造形表現Ⅱab」
坂野　純子	東京大学	「社会福祉・社会保障論」
佐々木　新介	岡山大学医学部	「超音波検査技術学」
澤田　陽一	倉敷市立短期大学	「心理学」
	中国学園大学	「社会心理学」
	(医)涼風会佐藤脳神経外科	心理検査データ収集・処理・解析
首藤　恵泉	徳島大学	「給食栄養管理論実習」、「給食運営管理論」
		徳島大学専門研究員
	医療法人中山医院	栄養指導
関根　紳太郎	岡山大学	「英語(R＆W)－1，2」

氏名	従事先	従事内容
関根　紳太郎	就実学園就実大学	「General English 1a,2a」「Oral Communication Ⅰg,Ⅱg」
髙戸　仁郎	岡山大学	「するスポーツ演習」
	朝日医療大学校	「体育」
高橋　多美子	和歌山大学	「幼稚園教育課程総論」「課題演習(初等教育A1・A2)」
竹本　与志人	中央法規出版株式会社	「保健医療ソーシャルワークの基礎－実践力の構築(仮称)」執筆
都島　梨紗	(一社)社会調査協会	『社会と調査』第 30 号掲載予定「特集:コロナ禍における社会調査」座談会出席および論文執筆
	玉野総合医療専門学校	「教育原理」、「教育学方法論」
デスマレス・エリック	岡山大学	「英語(総合)-1・2」
中野　菜穂子	岡山大学大学院	「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ」
中村　光	(公財)操風会　岡山旭東病院	言語聴覚士としての臨床業務(リハビリテーション課　言語聴覚部門)
名越　恵美	岡山労災看護専門学校	「看護研究の基礎」
	山陽学園大学	「看護教育論」
原野　かおり	(公財)社会福祉振興・試験センター	介護福祉士試験委員
森本　美智子	山梨大学大学院	大学院医工農学総合教育部大学院担当非常勤講師 「感染看護学特論」
山下　広美	岡山大学教育学部	中等家庭科内容論(食物調製の科学Ⅰ)
山本　孝司	神戸親和女子大学	通信教育部添削指導員
山本　登志子	徳島大学	「地域公衆栄養学」、「公衆栄養学」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	就実学園就実大学	「スポーツ 1v」「スポーツ 1w」(前期)「スポーツ 2a」スポーツ 2d」(後期)
大久保　賢祐	岡山理科大学	「マイクロ波工学」
金﨑　真人	金沢工業大学	革新複合材料研究開発センター客員研究員
小枝　正直	大阪電気通信大学	大阪電気通信大学大学院客員准教授
小椋　清孝	岡山大学	「情報処理入門 2」
小椋　清孝	岡山大学	「微分方程式」

氏名	従事先	従事内容
齋藤　誠二	岡山理科大学	「健康の科学」
榊原　勝己	愛媛大学	「ディジタル通信特論」
坂口　浩一郎	岡山理科大学	「物理学基礎実験」「基盤物理学実験」「電気電子工学基礎実験(再)」
佐藤　将也	岡山大学	「情報セキュリティ」
忻　　欣	神戸大学	「計算生体力学」
	県立広島大学	「生命システム科学特別講義」
筒井　優介	スラバヤ工科大学(インドネシア)	speaker of the Summer Program「Knowledge Management in Engineering Design For Society5.0」
	東京都立大学	客員研究員
妻屋　彰	神戸大学	「設計工学Ⅱ」
野田　祐輔	科学情報出版(株)	「マテリアルズ・インフォマティクス」(仮)の執筆
	(株)技術情報協会	「過学習に留意した最適な機械学習モデルの構築」の執筆
	名古屋大学	名古屋大学招へい教員
	名古屋工業大学	第一原理計算による電子伝導性評価法技術の指導
春木　直人	広島大学大学院	「熱工学特論」
山内　仁	(一社)アール・アンド・アールコミュニティー	レスキューロボットコンテストをはじめとする事業の企画立案ならびに開催実行に関する業務

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
河合　大介	慶應義塾大学	「美学特殊ⅡD」
齋藤　美絵子	新見公立大学	「地域防災論」
柴田　奈美	山陽学園大学	「近現代文学史」
関﨑　哲	広島大学	「絵画表現演習」「絵画表現実習Ⅰ」「絵画表現実習Ⅱ」「絵画表現論」
	就実大学	美術
髙橋　俊臣	嵯峨美術大学	「オープン演習Ⅹ」(実践デザインA)
	倉敷芸術科学大学	「色彩学」集中
	倉敷市立短期大学	「カラーコーディネート論」
	(株)大広	広告業務依頼を受けている企業のコミュニケーション活動におけるクリエイティブディレクションデザインコンサルティング

氏名	従事先	従事内容
西川　博美	京都芸術大学	「環境デザイン演習［建築］Ⅱ-1・Ⅱ-2」 添削担当
		「環境デザイン［建築］Ⅱ-2（154K 平面表現）
原田　和典	近畿大学	情報処理実習 1.2
樋笠　勝士	慶應義塾大学	「美学概論Ⅰ」「美学特殊ⅡC」 「美学芸術学特殊研究Ⅰ」「美学芸術学特殊研究Ⅱ」
	慶應義塾大学言語文化研究所	個人研究：光の美学
舩山　俊克	仁愛大学	「デザイン文化論（集中講義）」
ブルネリ・アンソニー	岡山大学	「英語（S＆L）－1」「英語（S＆L）－2」
	神戸学院大学	英語論文作成ワークショップⅠ、Ⅱ
穂苅　耕介	静岡大学	地震防災
吉田　豊	広島大学	建築設計製図Ⅳ

岡山県立大学　社会貢献年報　2022

発行日　　令和５年６月
編　集　　岡山県立大学　地域創造戦略センター
発　行　　岡 山 県 立 大 学
〒719-1197　岡山県総社市窪木 111 番地
TEL　0866-94-2111
URL　https://www.oka-pu.ac.jp/
印　刷　　サンコー印刷株式会社

岡山県立大学

岡山県立大学　社会貢献年報２０２２